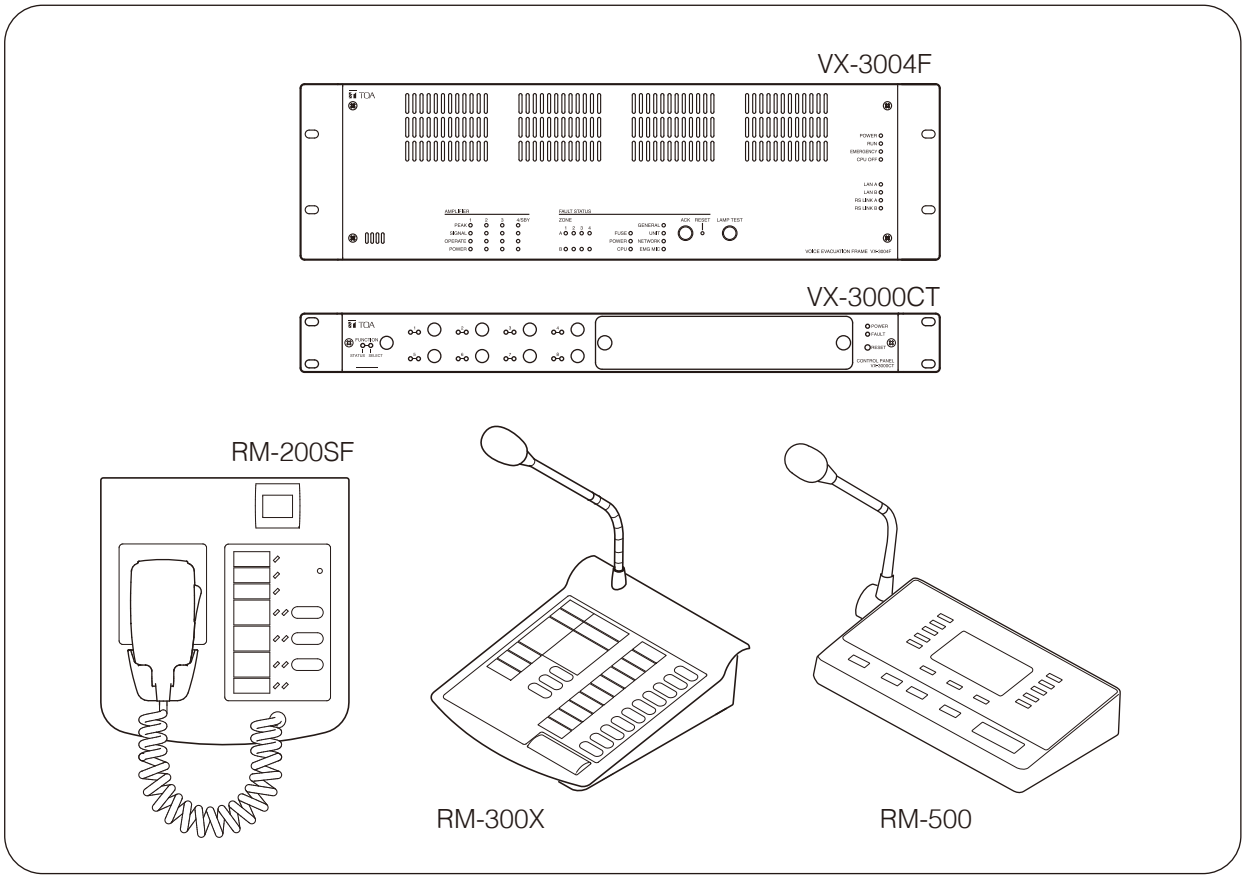
TOA

操作説明書

ラック型業務用放送設備
VX-3000 シリーズ



このたびは、TOA ラック型業務用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの操作説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目　次

第 1 章　各部の名称とはたらき

VX-3000 フレーム 1-2

コントロールパネル 1-5

壁掛型リモートマイク 1-6
- 壁掛型リモートマイク RM-200SF 1-6
- 壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW 1-8

卓上型リモートマイク 1-9
- 卓上型リモートマイク RM-300X 1-9
- 卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F 1-10
- 卓上型リモートマイク RM-500 1-11

第 2 章　機能キーなどの表示灯の状態

VX-3000CT の表示灯の状態 2-2
- 入力音量調整時の表示灯 2-2
- 出力音量調整時の表示灯 2-2
- ゾーン選択時の表示灯 2-3
- ベースパターン放送時の表示灯 2-4
- 業務パターン放送時の表示灯 2-4
- 業務／ BGM 音源放送時の表示灯 2-5
- 任意制御入力操作時の表示灯 2-6
- 任意制御出力操作（PULSE）時の表示灯 2-7
- 任意制御出力操作（LEVEL）時の表示灯 2-8
- ゾーン音量調整（PULSE）時の表示灯 2-9
- 入力音量調整（PULSE）時の表示灯 2-10
- 緊急入力放送時の表示灯 2-11
- スリープモード 電源 ON 時の表示灯 2-12

RM-200SFとRM-220FWの表示灯の状態 2-13
- ゾーン選択時の表示灯 2-13
- トークキーの表示灯 2-14
- ベースパターン放送時の表示灯 2-15
- 業務パターン放送時の表示灯 2-15
- 業務／ BGM 音源放送時の表示灯 2-16
- RM 放送状態表示時の表示灯 2-16
- ランプテスト時の表示灯 2-17
- 故障受理時の表示灯 2-17
- 故障リセット時の表示灯 2-18
- 音声警報放送パターン起動時の表示灯 2-19
- 音声警報放送パターン停止時の表示灯 2-20

音声警報放送パターン起動／停止時の表示灯 2-21
音声警報シーケンス停止時の表示灯 2-22
音声警報シーケンスフェーズ移行時の表示灯 2-22
音声警報復旧時の表示灯 2-23
音声警報放送サイレンス時の表示灯 2-24
音声警報 EV 放送時の表示灯 2-25
音声警報受理時の表示灯 2-26
制御入力からの音声警報起動無効時の表示灯 2-28
音声モニター時の表示灯 2-29
任意制御入力操作時の表示灯 2-30
任意制御出力操作（PULSE）時の表示灯 2-31
任意制御出力操作（LEVEL）時の表示灯 2-32
ゾーン音量調整（PULSE）時の表示灯 2-33
入力音量調整（PULSE）時の表示灯 2-34
緊急入力放送時の表示灯 2-35
スリープモード 電源 ON 時の表示灯 2-36

RM-300X と RM-210F の表示灯の状態 2-37
ゾーン選択時の表示灯 2-37
トークキーの表示灯 2-38
ベースパターン放送時の表示灯 2-38
業務パターン放送時の表示灯 2-39
業務／ BGM 音源放送時の表示灯 2-39
RM 放送状態表示時の表示灯 2-40
ランプテスト時の表示灯 2-40
故障受理時の表示灯 2-41
故障リセット時の表示灯 2-41
音声警報放送パターン起動時の表示灯 2-42
音声警報放送パターン停止時の表示灯 2-43
音声警報放送パターン起動／停止時の表示灯 2-44
音声警報シーケンス停止時の表示灯 2-45
音声警報シーケンスフェーズ移行時の表示灯 2-46
音声警報復旧時の表示灯 2-47
音声警報放送サイレンス時の表示灯 2-48
音声警報 EV 放送時の表示灯 2-49
音声警報受理時の表示灯 2-50
制御入力からの音声警報起動無効時の表示灯 2-52
音声モニター時の表示灯 2-53
任意制御入力操作時の表示灯 2-54
任意制御出力操作（PULSE）時の表示灯 2-55
任意制御出力操作（LEVEL）時の表示灯 2-56
ゾーン音量調整（PULSE）時の表示灯 2-57
入力音量調整（PULSE）時の表示灯 2-58
緊急入力放送時の表示灯 2-59
スリープモード 電源 ON 時の表示灯 2-60

RM-500 の液晶画面の表示 2-61

ゾーン選択時の表示 2-63
放送表示灯とマイク表示灯 2-64
ベースパターン放送時の表示 2-65
業務パターン放送時の表示 2-66
業務／ BGM 音源放送時の表示 2-67
RM 放送状態表示時の表示 2-68
任意制御入力操作時の表示 2-69
任意制御出力操作（PULSE）時の表示 2-70
任意制御出力操作（LEVEL）時の表示 2-71
ゾーン音量調整（PULSE）時の表示 2-72
入力音量調整（PULSE）時の表示 2-73
緊急入力放送時の表示 2-74
スリープモード 電源 ON 時の表示 2-75

第 3 章　操作のしかた

BGM 放送と業務放送のしかた 3-2
リモートマイクまたはコントロールパネルから放送する 3-2
設定例 3-2
操作例 3-3
緊急入力放送 3-9

RM-500 の操作のしかた 3-10
液晶画面内の項目の選択のしかた 3-10
マイク放送のしかた 3-11
ダイレクト選択モードでの放送のしかた 3-13
AUX 放送のしかた 3-14
各種機能の起動のしかた 3-15
キーロックのしかた 3-16

音声警報放送のしかた 3-17
音声警報放送とは 3-17
リモートマイクの操作例 3-18

緊急一斉放送のしかた 3-23
緊急一斉放送の優先順位 3-23
RM-300X から緊急一斉放送をする 3-24
RM-200SF から緊急一斉放送をする 3-25

故障検知機能の使いかた 3-26
故障検知設定例 3-26
故障の例 3-27
リモートマイクの操作例 3-28
VX-3004F の操作例 3-29
制御入力端子を使って故障受理と故障リセットをする例 3-30

ランプテストをする 3-31
リモートマイクの操作例 3-31

VX-3004F の操作例 3-32

その他の機能 3-33
放送音声のモニターをする 3-33
任意の制御入力を操作する 3-34
任意の制御出力（PULSE）を操作する 3-34
任意の制御出力（LEVEL）を操作する 3-35
アンプのスリープ状態と「電源 ON」の機能の有効を切り換える 3-36

第１章

各部の名称とはたらき

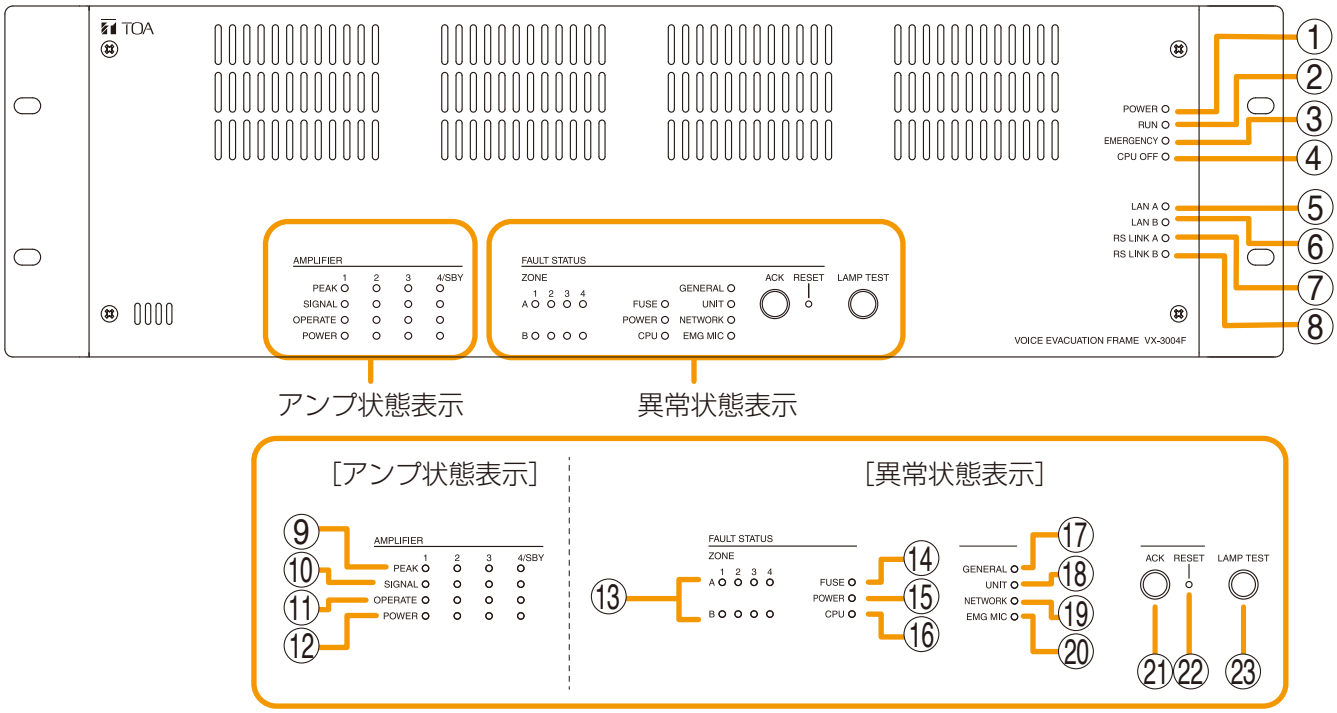
VX-3000 フレーム

本書では、VX-3000 フレーム VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F を総称して「VX-3000F」と表記します。

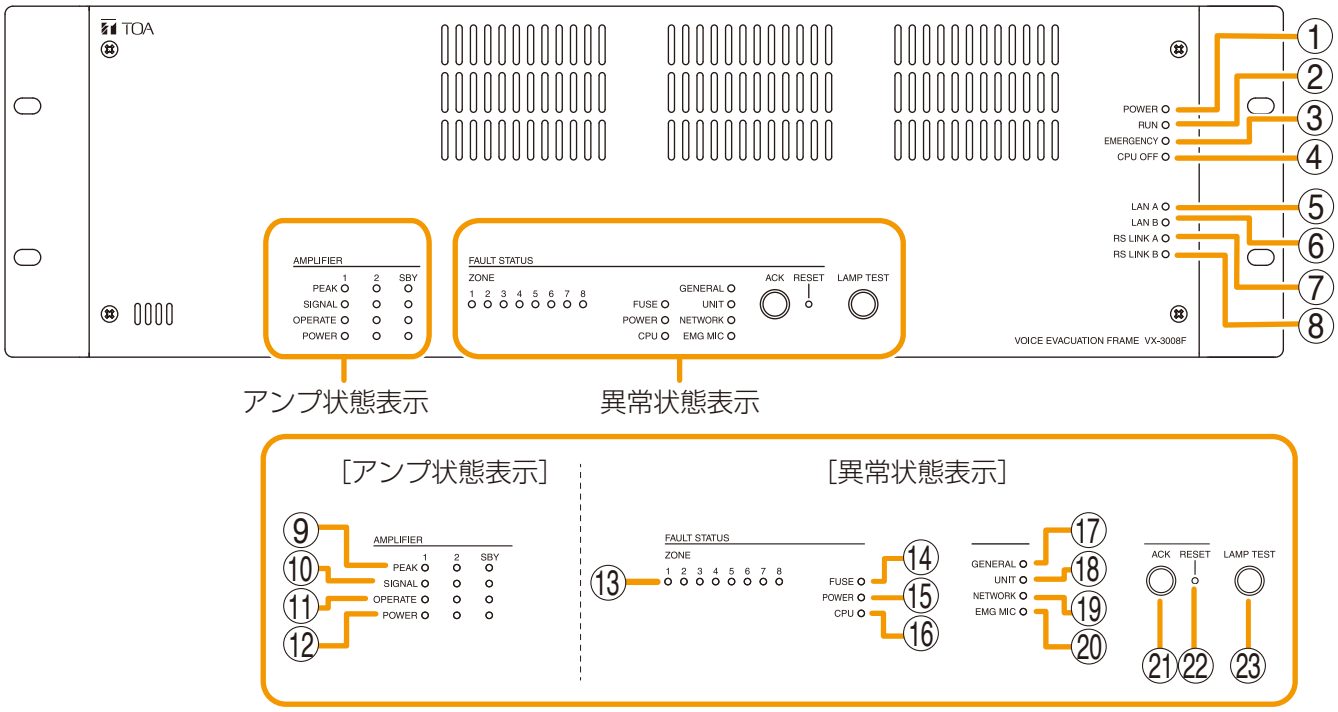
- VX-3000F は、VX-3000 シリーズの音声案内を制御するために設計されたユニットです。
- 音声入力端子を備えており、3 種類のデジタルパワーアンプモジュールおよび 1 種類のラインアウトプットモジュールがオプションで搭載できます。
- システムを分散配置することができます。

[前面]

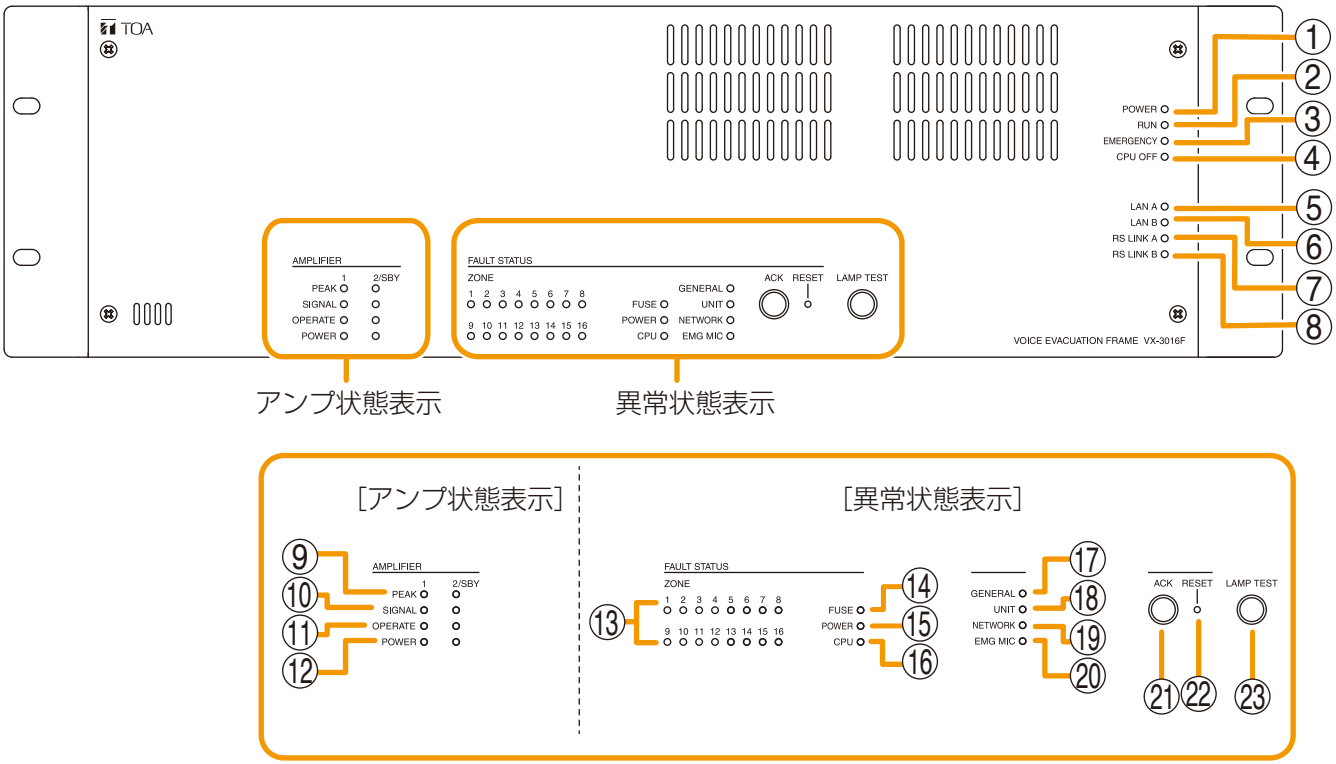
VX-3004F



VX-3008F



VX-3016F



1. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源を供給すると点灯します。
スタンバイ状態で点滅します。

2. RUN 表示灯［RUN］（緑）
通常動作時、点滅します。
CPU オフ状態（P. 3-23）時、停電時、電源投入後の初期化中は、消灯します。

3. EMERGENCY 表示灯［EMERGENCY］（赤）
VX-3000 システムが音声警報放送状態または CPU オフ状態にある間、点灯します。

4. CPU オフ表示灯［CPU OFF］（赤）
CPU オフ状態時、点灯します。（P. 3-23）

5. LAN A 表示灯［LAN A］（緑）
LAN リンクコネクター A（49）を接続すると点灯し、通信時に点滅します。

6. LAN B 表示灯［LAN B］（緑）
LAN リンクコネクター B（49）を接続すると点灯し、通信時に点滅します。

7. RS リンク A 表示灯［RS LINK A］（緑）
RS リンクコネクター A（50）を接続すると点灯し、通信中は点滅します。

8. RS リンク B 表示灯［RS LINK B］（緑）
RS リンクコネクター B（50）を接続すると点灯し、通信中は点滅します。

9. アンプピーク表示灯［PEAK］（赤）
モジュールが組み込まれているとき、パワーアンプ入力信号のピーク状態を表示します。
モジュールスロットに対応する音声入力信号レベルが +0.5 dB *を超えると、点灯します。
モジュールが組み込まれていないときは、消灯したままです。

10. アンプ信号表示灯［SIGNAL］（緑）
モジュールが組み込まれているとき、パワーアンプ入力信号の状態を表示します。
モジュールスロットに対応する音声入力信号レベルが –25 dB *を超えると、点灯します。
モジュールが組み込まれていないときは、消灯したままです。

* 0 dB = 1 V

11. アンプ動作表示灯［OPERATE］（緑）

パワーアンプモジュールが組み込まれているとき、パワーアンプの動作状態に応じて、モジュールスロットに対応する表示灯が点灯または消灯します。

動作状態	表示灯の状態
使用中	点灯
スタンバイ	消灯
DC ヒューズ切断	消灯
保護回路*起動	消灯

* 異常温度上昇や、ファン故障などの異常がアンプ内部で発生したときに動作します。

ラインアウトプットモジュールが組み込まれているとき、およびモジュールが組み込まれていないときは、消灯したままです。

12. アンプ電源表示灯［POWER］（緑）

デジタルパワーアンプモジュールが組み込まれているとき、パワーアンプの動作状態に応じて、モジュールスロットに対応する表示灯が点灯または消灯します。

動作状態	表示灯の状態
使用中	点灯
スタンバイ	点灯
DC ヒューズ切断	消灯
保護回路*起動	点灯

* 異常温度上昇や、ファン故障などの異常がアンプ内部で発生したときに動作します。

ラインアウトプットモジュールが組み込まれているとき、およびモジュールが組み込まれていないときは、消灯したままです。

13. ゾーン異常表示灯［ZONE］（黄）

スピーカー回線の異常（短絡、開放、地絡）が検出されたとき、点灯または点滅します。

14. ヒューズ異常表示灯［FUSE］（黄）

DC ヒューズの切断時に点灯または点滅します。

15. 電源異常表示灯［POWER］（黄）

電源に異常が検出されたときに、点灯または点滅します。

16. CPU 異常表示灯［CPU］（黄）

CPU オフ状態（P. 3-23）または VX-3000F で異常が検出されたときに点灯します。

17. システム異常表示灯［GENERAL］（黄）

CPU オフ状態（P. 3-23）で点灯します。また、システムのどこかで異常が検出されると点灯または点滅します。

18. ユニット異常表示灯［UNIT］（黄）

機器異常が検出されると点灯または点滅します。

19. ネットワーク異常表示灯［NETWORK］（黄）

他の VX-3000F との通信に異常が検出されたときに点灯または点滅します。

ネットワーク設定をしているときと、機器構成エラーが発生したときにも、点灯または点滅します。

20. 音声警報マイク異常表示灯［EMG MIC］（黄）

音声警報放送用のリモートマイクに異常が検出されたとき、点灯または点滅します。

21. 故障受理キー［ACK］

システムで故障を検出するとブザーが鳴動し、システム異常表示灯が点滅します。

このキーを押すとブザーの鳴動が停止します。

また、システム異常表示灯が点滅から点灯に変化します。

22. 故障リセットキー［RESET］

このキーを押すと、システムの故障検知情報がリセットされます。

23. ランプテストキー［LAMP TEST］

前面パネルの各表示灯を確認するために使用します。

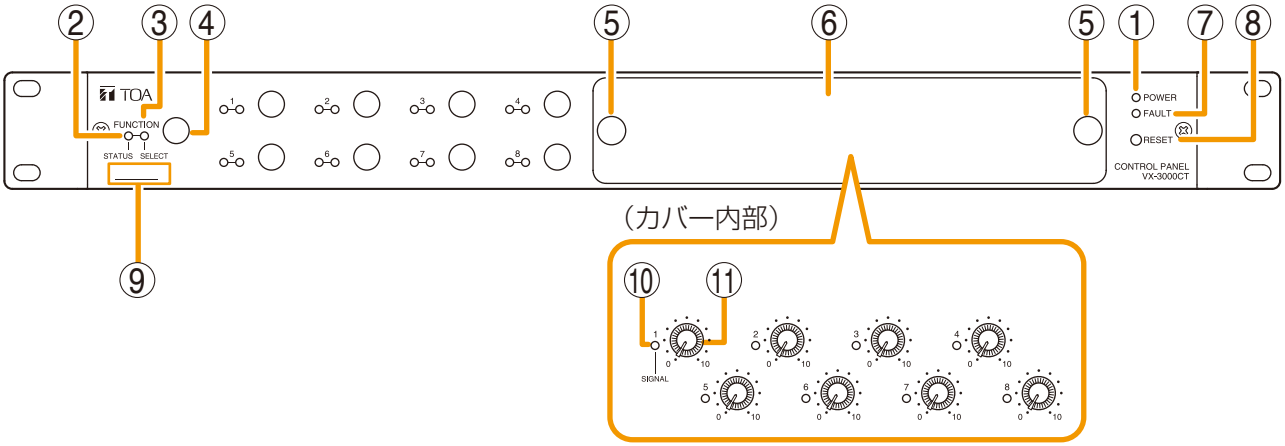
このキーを押している間、VX-3000F のすべての表示灯が点灯し、ブザーが鳴動します。

コントロールパネル

- VX-3000CT は、EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる 1U サイズ*1 の操作用パネルです。
- VX-3000F にネットワーク経由で接続して、業務放送の起動や音量の制御などの操作が行えます。1 台の VX-3000F に本機を 2 台まで接続できます。
- 1 台あたり 9 つの機能キーと 8 つの音量調節器を備えています。VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、各機能キーおよび音量調節器に機能を割り当てます。

*1　1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）

[前面]



1. 電源表示灯［POWER］（緑）
電源が入力されているときに点灯します。

2. 状態表示灯［STATUS］（黄／緑）
機能キーの操作状態に連動して、黄色に点灯、緑色に点灯、または消灯します。
（☞ P. 2-2「VX-3000CT の表示灯の状態」）

3. 選択表示灯［SELECT］（緑）
機能キーの操作状態に連動して、点灯または消灯します。
（☞ P. 2-2「VX-3000CT の表示灯の状態」）

4. 機能キー［FUNCTION］
各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「VX-3000CT 設定」）

5. 音量調節部カバーつまみ
両方のつまみを引くと、音量調節部カバーが取り外せます。

6. 音量調節部カバー

7. 異常表示灯［FAULT］（黄）
機器異常が検出されると点灯します。

8. リセットキー［RESET］
押すと、本機をリセットします。

9. MAC アドレス
VX-3000CT の MAC アドレスです。–（ハイフン）区切りの 12 桁の英数字です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

10. 信号表示灯［SIGNAL］（緑）
音量調節器（11）に設定されている入力または出力の状態を表示します。
入力の場合は、音量調節器（11）に設定された入力チャンネルの音声レベルが –25 dB*2 以上のときに点灯します。
出力の場合は、設定された個別の出力ゾーンの音声レベルが –25 dB*2 以上のときに点灯します。
設定は VX-3000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「VX-3000CT 設定」）

*2 0 dB = 1 V

11. 音量調節器
VX-3000F の音声入力または音声出力の音量を – ∞～ 0 dB の範囲で調節します。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。
音量を調節する入力チャンネルまたは出力ゾー

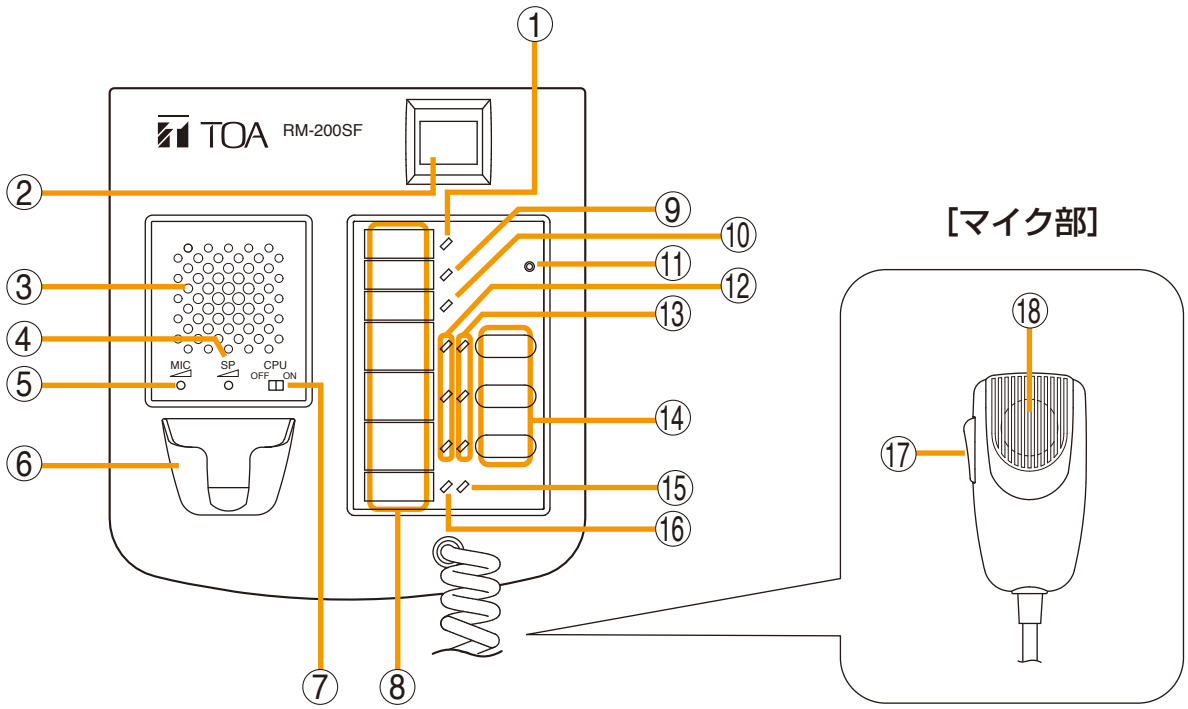
ンは、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して割り当てます。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「VX-3000CT 設定」）

壁掛型リモートマイク

■ 壁掛型リモートマイク RM-200SF

- 壁掛型リモートマイク RM-200SF には、3 つの機能キー、1 つの音声警報／緊急入力キー、1 つのトークキー、およびこれらのキーに関連付けられた表示灯があります。VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、各キーに機能を割り当てます。
- 本機は音声警報放送と業務放送に使用でき、機能キーでゾーン選択してマイクで放送します。
- 各 RM-200SF には、最大 4 台の壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW を使用できます。
- 1 台の VX-3000F に最大 8 台の RM-200SF を接続できます。
- CPU スイッチを使用すると、システムの故障などで通常の放送ができないときでも、RM-200SF からの緊急一斉放送が可能になります。
- 音声警報／緊急入力キーと、マイク（内蔵マイクを含む）と VX-3000F 間の信号路（制御と音声）の故障は、自動的に検出されます。

［前面］



1. 電源表示灯（緑）
電源を入れると点灯します。

2. 音声警報／緊急入力キー
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して音声警報放送または緊急入力放送に関する機能を割り当てます。
割り当てた機能に応じて、このキーが点灯または点滅します。

3. モニタースピーカー
現在の放送を監視するために使用します。

4. モニタースピーカー音量調節器［SP］
内蔵モニタースピーカー（3）の音量を調節します。

5. マイク音量調節器［MIC］
マイクの入力感度を調節します。

6. マイクハンガー
本機のマイクを保持するために使用します。

7. CPU スイッチ［CPU］
通常は ON に設定します。（工場出荷時：ON）
このスイッチを底面の DIP スイッチ（20）と組み合わせて OFF に設定すると、CPU 制御を介さないアナログ送信で、マイクを使った緊急一斉放送を行うことができます。

8. 表示ラベル挿入スロット
表示ラベルを挿入するスペースです。
ラベルは VX-3000 設定ソフトウェアを使用して印刷できます。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「リモートマイクのラベルの印刷」）

9. 故障表示灯（黄／赤）
システム内で故障が検出されたときに黄色で点滅します。
接続先の VX-3000F との通信で 5 秒以上信号が途絶えたときに、黄色に点灯します。
リセットスイッチ（11）を押して本機をリセット状態にすると、赤色に点灯します。

10. CPU 表示灯（赤）
システム内に接続されている RM-200SF の CPU スイッチのいずれか 1 つが OFF に設定されているか、システム内に接続されているいずれかの RM-300X で緊急一斉放送が行われているときに、赤色に点灯します。

11. リセットスイッチ
本機を再起動します。
このスイッチと機能キー（14）の R3 キーの両方を 2 秒以上押したままにすると、故障表示灯（9）が赤色に点灯し、本機がリセット状態になります。

12. 状態表示灯（赤／黄／緑）
機能キーの操作状態、故障状態、または音声警報放送状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。
（☞ 第 2 章「リモートマイクの表示灯の状態」）

13. 選択表示灯（緑）
機能キーの操作状態に連動して、点灯または消灯します。
（☞ 第 2 章「リモートマイクの表示灯の状態」）

14. 機能キー（R1 ～ R3）
上から順に、R1、R2、R3 が配置されています。
各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア説明書「RM イベント設定」）

15. マイク表示灯（緑）
トークキーの操作状態に連動して、点灯または消灯します。

16. 放送状態表示灯（黄／緑）
トークキーの操作状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。

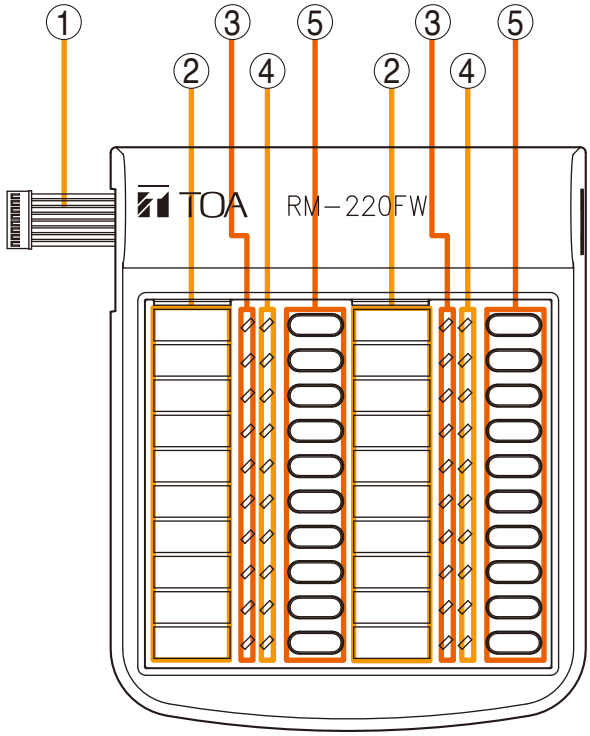
17. トークキー
このキーを押して、音声アナウンス放送をします。放送中はキーを押し続けてください。
トークキーの操作方法は「PTT」に固定されており、変更することはできません。

18. マイク
音声アナウンスに使用します。

■ 壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW

壁掛型リモートマイク RM-200SF に壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW を接続すると、機能キーが 20 個増設できます。

[前面]



1. 接続ケーブル
RM-200SF または RM-220FW を接続します。

2. 表示ラベル挿入口
ラベルは、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して印刷できます。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「リモートマイクのラベルを印刷する」）

3. 状態表示灯（赤／黄／緑）
機能キーの操作状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。

4. 選択表示灯（緑）
機能キーの操作状態に連動して、点灯または消灯します。

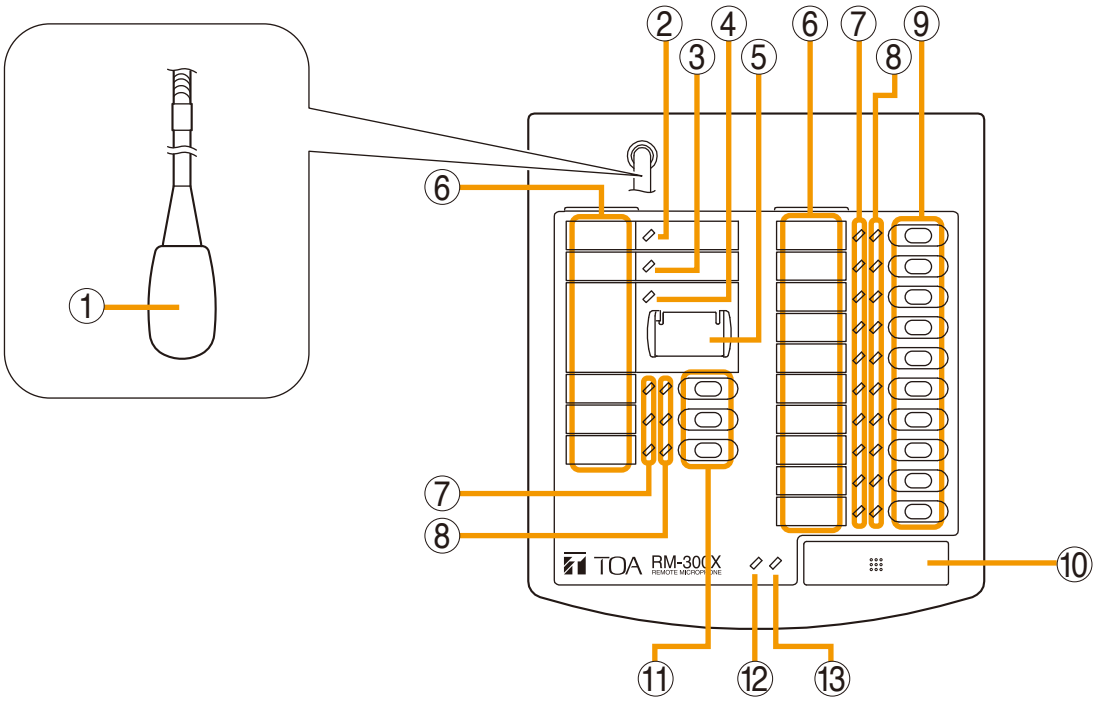
5. 機能キー（1 ～ 20）
左側のキーは上から順番に 1 ～ 10 の番号が、右側のキーは 11 ～ 20 の番号が割り振られています。
各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに割り当てた機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「RM イベント設定」）

卓上型リモートマイク

■ 卓上型リモートマイク RM-300X

- 卓上型リモートマイク RM-300X には、13 個の機能キー、1 個のカバー付きキー、1 個のトークキー、およびこれらのキーに関連付けられた表示灯があります。VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、各キーに機能を割り当てます。
- 卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F を RM-300X に接続すると、機能キーと表示灯が 10 個単位で増設できます。RM-210F は RM-300X に最大で 7 台まで接続できます。
- 1 台の VX-3000F には最大 8 台の RM-300X を接続できます。
- DIP スイッチの設定により、システムの故障などで通常の放送ができないときでも、RM-300X で緊急一斉放送ができます。

[上面]



1. マイク
マイク放送時に使用します。

2. 電源表示灯（緑）
電源を入れると点灯します。

3. 異常表示灯（黄／赤）
システム内で何らかの故障が検知された場合、黄色に点滅します。
接続先の VX-3000F との通信で 5 秒以上通信が途絶えると、黄色に点灯します。緊急一斉放送中（P. 3-23）および RM-300X のリセット中は赤色に点灯します。

4. 音声警報放送／緊急入力放送表示灯（赤）
カバー付きキー（5）に割り当てた機能に応じて、点灯または点滅します。

5. 音声警報放送／緊急入力放送／緊急一斉放送キー（カバー付き）
[音声警報放送または緊急入力放送に関する機能]
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、音声警報放送または緊急入力放送に関する機能をこのキーに割り当てます。
[緊急一斉放送に関する機能]
VX-3000 設定ソフトウェアでの設定とは関係なく、DIP スイッチ（14）の設定と組み合わせて、このキーを 4 秒以上押し続けると、CPU 制御を介さないアナログ伝送による緊急一斉放送ができます。（P. 3-23）

6. 表示ラベル挿入部
表示ラベルを挿入するスペースです。
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、ラベルを印刷できます。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「リモートマイクの表示ラベルを印刷する」）

7. 状態表示灯（黄／緑／赤）
機能キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。
（☞ 第 2 章「リモートマイクの表示灯の状態」）

8. 選択表示灯（緑）
機能キーの操作状態に連動して点灯、消灯します。（☞ 第 2 章「リモートマイクの表示灯の状態」）

9. 機能キー（R1 ～ R10）
上から順に R1、R2、……、R10 となっています。
各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに設定した機能が実行できます。
機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアで行います。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」）

10. トークキー
マイク放送時に使用します。
PTT 式に設定されているときは、キーを押している間だけ放送することができます。
ロック式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
放送開始・終了時のチャイムが設定されているときは、設定に従ってチャイム音が流れます。
操作の方式およびチャイムの設定は VX-3000 設定ソフトウェアで行います。ただし、放送の種類を「音声警報／業務」に設定された RM-300X は PTT 式でチャイム設定なしに固定されます。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「システム設定」）

11. 機能キー（L1 ～ L3）
上から順に L1、L2、L3 となっています。
このキーの動作は機能キー（R1 ～ R10）（9）と同じです。

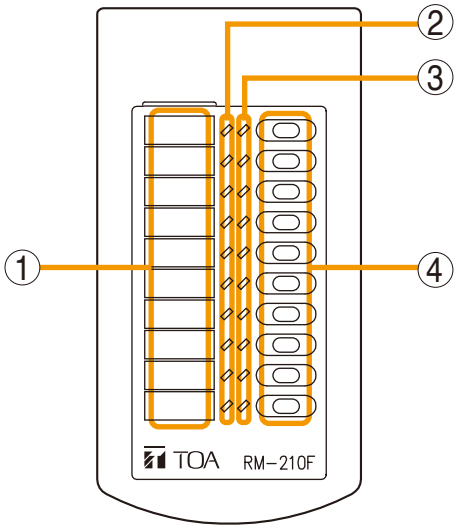
12. 放送状態表示灯（黄／緑）
トークキーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

13. マイク表示灯（緑）
トークキーの操作状態に連動して点灯、消灯します。
チャイム起動中に点滅します。

■ 卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F

卓上型リモートマイク RM-300X に卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F を接続すると、機能キーが 10 個増設できます。

[上面]



1. 表示ラベル挿入部
表示ラベルを挿入するスペースです。
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、ラベルを印刷できます。（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「リモートマイクのラベルを印刷する」）

2. 状態表示灯（黄／緑／赤）
機能キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

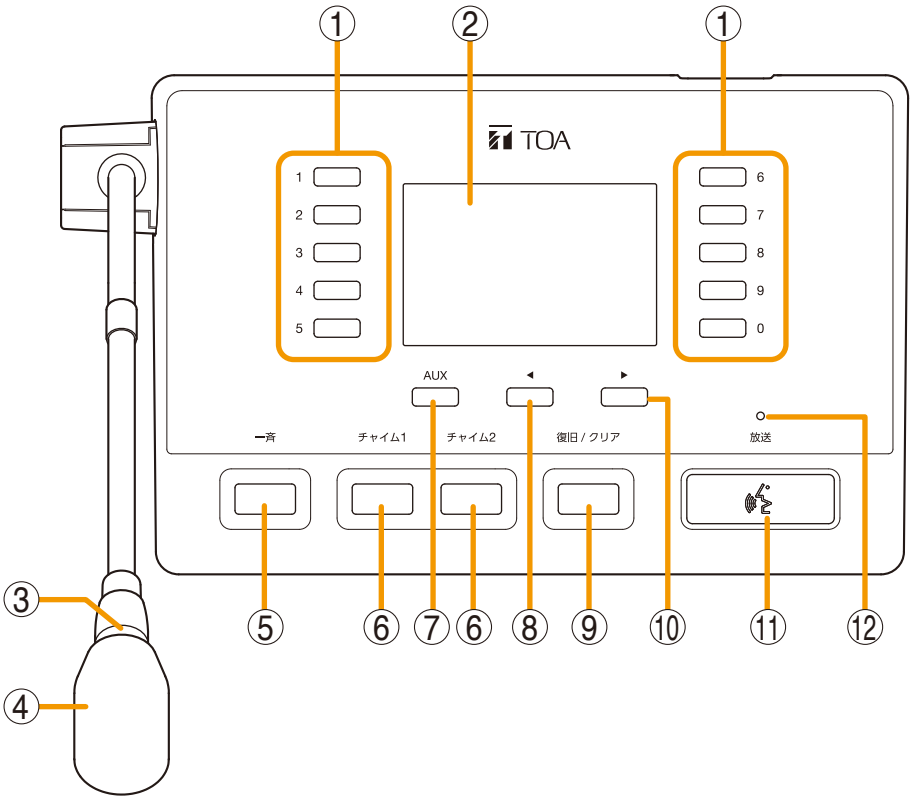
3. 選択表示灯（緑）
機能キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

4. 機能キー（1 ～ 10）
上から順に 1、2、……、10 となっています。
各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに設定した機能が実行できます。
機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアで行います。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「RM 機能キー設定」）

■ 卓上型リモートマイク RM-500

- 業務放送に使用する卓上型のリモートマイクです。
- 液晶画面を搭載しているので、あらかじめ登録しておいた最大 80 の機能の名称を表示することができ、キー操作によりそれらの機能を実行できます。
- AUX キーにより、外部音声のみの制御もできます。
- 音声明瞭化機能により、マイク音声が雑音環境下でも聞き取りやすくなり、マイクに近づいたり離れたりしても適切なレベルで音声を拾いやすくなります。
- 別売の壁掛金具を使用することにより、壁に取り付けることもできます。

[操作面]



1. 数字キー（0 ～ 9）
通常は液晶画面に表示されている項目の番号を選択します。VX-3000 設定ソフトウェアで設定した機能が実行できます。
メニュー画面表示中にはメニュー項目の番号、選択肢の番号を選択します。

2. 液晶画面
通常は設定された機能のリストと放送または機能の状態を表示します。
設定スイッチのスイッチ 6 を ON にすると、ダイレクト選択モードに切り換わり、回線番号登録画面が表示されます。
設定スイッチのスイッチ 7 を ON にすると、メニュー画面に切り換わります。
（☞ 別冊の設置説明書「各部の名称とはたらき」の「卓上型リモートマイク（RM-500）」

3. マイク表示灯（緑）
マイク放送中に点灯します。ただし、AUX 入力端子に接続したマイクからの音声を放送しているときは点灯しません。
システム設定により、点灯しないようにすることもできます。

4. マイク
業務放送時に使用するマイクです。

5. 一斉キー
あらかじめ設定されたゾーンを選択します。

6. チャイムキー（1、2）
VX-3000 設定ソフトウェアで設定した機能が実行できます。

7. AUX キー

AUX 入力端子からの音声を放送します。
メニュー画面表示中には画面下部左のガイド表示の動作になります。

8. ◀キー

液晶画面に表示されているページの 1 つ前のページに移動します。
メニュー画面および回線番号登録画面表示中には画面下部中央のガイド表示の動作になります。

9. 復旧／クリアキー

放送中に押すと、放送を終了します。
通常の液晶画面で選択中のすべてのゾーンについて、選択を解除します。

10. ▶キー

液晶画面に表示されているページの 1 つ次のページに移動します。
メニュー画面および回線番号登録画面表示中には画面下部右のガイド表示の動作になります。

11. トークキー

マイク放送時に使用します。
システム設定時に PTT 式とロック式のどちらかを設定します。
PTT 式に設定されているときは、キーを押している間だけ放送することができます。ロック式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
（☞ 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「システム設定」）

12. 放送表示灯（緑）

トークキーの操作状態に連動して点灯、消灯します。

第 2 章

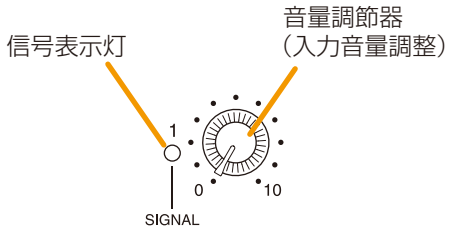
機能キーなどの表示灯の状態

VX-3000CT の表示灯の状態

■ 入力音量調整時の表示灯

音量調節器に入力音量調整の機能が割り当てられているとき、信号表示灯で、音量調節器に設定されている入力チャンネルの音声の状態が確認できます。

※ 音量調節器への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



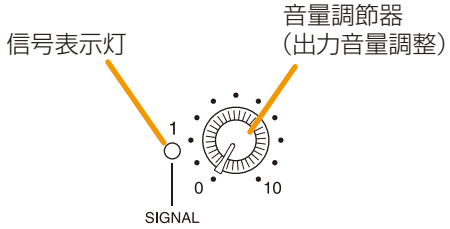
信号表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯の状態	表示内容
消灯 ○	音量調節器に設定された入力チャンネルに、音声信号が入力されていません。
緑色点灯 ●	音量調節器に設定された入力チャンネルに、音声信号が入力されています。

■ 出力音量調整時の表示灯

音量調節器に出力音量調節の機能が割り当てられているとき、信号表示灯で、音量調節器に設定されている出力ゾーンのうち、設定された 1 つの出力ゾーンの音声の状態が確認できます。

※ 音量調節器への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



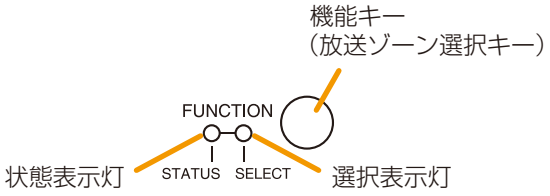
信号表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯の状態	表示内容
消灯 ○	信号表示灯に設定された出力ゾーンに、音声が出力されていません。
緑色点灯 ●	信号表示灯に設定された出力ゾーンに、音声が出力されています。

■ ゾーン選択時の表示灯

機能キーにゾーン選択（パターンまたは個別）の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、ゾーンの選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



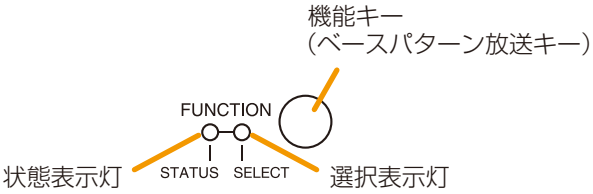
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	ゾーン未選択
	緑色点灯	ゾーン選択中
状態表示灯	消灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンが未使用または BGM 放送中
	緑色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンの一部またはすべてが他の機器（他のリモートマイクや業務 EV メッセージなど）で放送中
	黄色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて他の「音声警報／業務」に設定されたリモートマイクで放送中
	赤色点灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて避難メッセージで放送中
	赤色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて警報メッセージで放送中
	緑色点灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて復旧メッセージで放送中

■ ベースパターン放送時の表示灯

機能キーにベースパターン放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



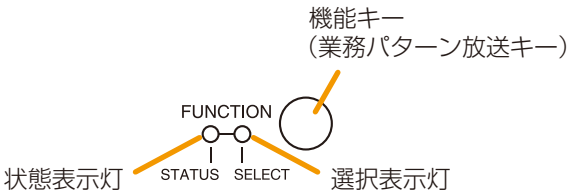
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（点灯後すぐに消灯します。）
状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられたベースパターンが放送されていないとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられたベースパターンが放送されているとき（他の機器から起動された場合を含む）

■ 業務パターン放送時の表示灯

機能キーに業務パターン放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



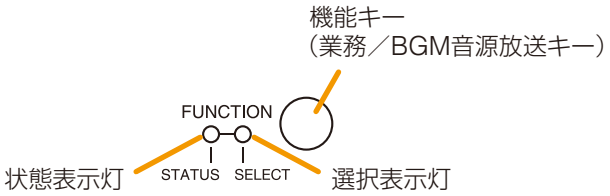
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた業務放送パターンが放送されていないとき
	黄色点滅	この機能キーに割り当てられた業務放送パターンが放送されているとき

■ 業務／ BGM 音源放送時の表示灯

機能キーに業務／ BGM 音源放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

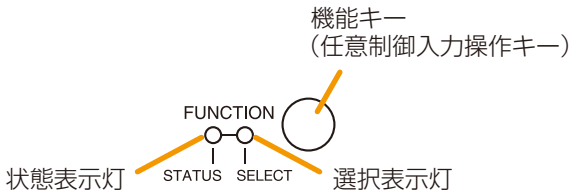
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	このキーを押して本機が業務／ BGM 音源放送状態になったとき
状態表示灯	消灯	このキーに割り当てられた業務／ BGM 音源放送が起動していないとき
	緑色点灯	この機能キーに設定されている業務／ BGM 放送の音源が、本機で選択したゾーン以外に放送されているとき
	黄色点灯	この機能キーに設定されている業務／ BGM 放送の音源が、本機で選択したゾーンに一部でも放送されているとき

■ 任意制御入力操作時の表示灯

機能キーに任意制御入力操作の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択と制御状態が分かります。

ご注意

状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御入力が他の機器からの操作で機能している場合などです。
状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
状態表示灯が消灯しているときは、常に機能キーの操作が有効になります。



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御入力が無効*状態のとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられた制御入力が有効*状態のとき

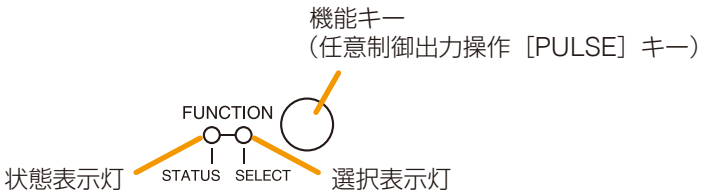
* イベント設定で制御入力の極性が「NO」と設定されているとき、制御入力がメイクしている間有効となり、ブレイクのときは無効となります。
極性が「NC」と設定されているとき、キーは制御入力がブレイクしている間有効となり、メイクのときは無効となります。

■ 任意制御出力操作（PULSE）時の表示灯

任意の制御出力操作（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定された制御出力がオンになります。もう一度このキーを押すとオフになります。
任意の制御出力操作（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているときは、キー横の 2 つの表示灯が選択と制御状態を表します。

ご注意

状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御出力パターンが他のイベントにより起動されている場合です。
状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
状態表示灯が消灯しているときは常に機能キーの操作が有効になります。



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

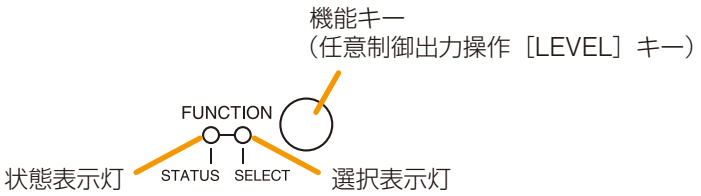
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが無効状態のとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが有効状態のとき

■ 任意制御出力操作（LEVEL）時の表示灯

任意の制御出力操作（LEVEL）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押している間だけ、あらかじめ設定された制御出力がオンになります。このキーから指を離すとオフになります。
任意の制御出力操作（LEVEL）の機能が機能キーに割り当てられているときは、キー横の 2 つの表示灯が選択と制御状態を表します。

ご注意

状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御出力パターンが他のイベントにより起動されている場合です。
状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
状態表示灯が消灯しているときは常に機能キーの操作が有効になります。



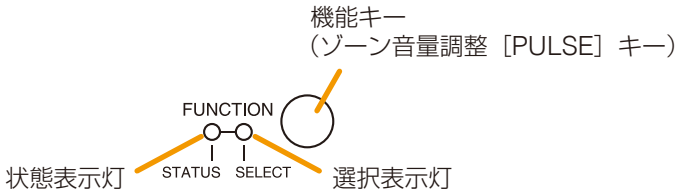
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが無効状態のとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが有効状態のとき

■ ゾーン音量調整（PULSE）時の表示灯

ゾーン音量調整（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定されたゾーンの音量を設定音量だけ増減します。
機能キー左側の表示灯で音量調整状態を確認することができます。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

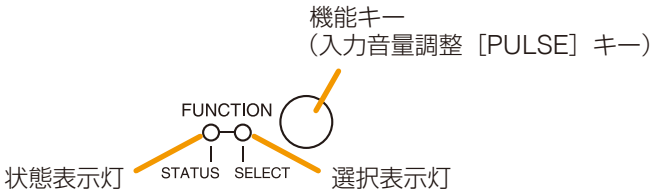
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
状態表示灯	消灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 より小さいとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 より大きいとき
	緑色点灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 より大きいとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 より小さいとき

*1　VX-3000 設定ソフトウェアの「イベント設定」で設定した値
*2　VX-3000 設定ソフトウェアの「音質音量調整設定（OUT）」で設定した音量

■ 入力音量調整（PULSE）時の表示灯

入力音量調整（PULSE）機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定された入力チャネルの音量を設定音量だけ増減します。
機能キー左側の表示灯で音量調整状態を確認することができます。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

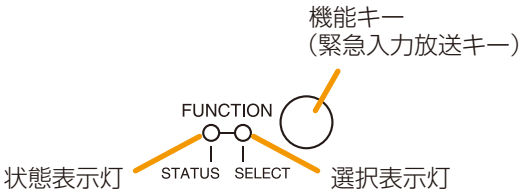
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
状態表示灯	消灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 より小さいとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 より大きいとき
	緑色点灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 より大きいとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 より小さいとき

*1　VX-3000 設定ソフトウェアの「イベント設定」で設定した値
*2　VX-3000 設定ソフトウェアの「音質音量調整設定（IN）」で設定した音量

■ 緊急入力放送時の表示灯

機能キーに緊急入力放送の機能を割り当てられているとき、このキーを押すと、緊急入力放送を起動することができます。
キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



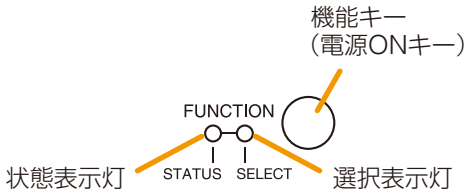
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
状態表示灯	消灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源がどのゾーンにも放送されていないとき
	緑色点灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源が、このキーに設定されているゾーン以外に放送されているとき
	黄色点灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源が、このキーに設定されているゾーンに一部でも放送されているとき

■ スリープモード 電源 ON 時の表示灯

システムでスリープモードを使用する設定にしているときに、機能キーに「電源 ON」の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーをスリープ状態*のときに押すと、「電源 ON」の機能が有効になり、「電源 ON」の機能が有効のときに押すと、スリープ状態*に戻ります。

※ スリープモードの使用設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを選択していないとき
	緑色点灯	この機能キーを選択しているとき
状態表示灯	消灯	他の機能キーまたは制御入力により「電源 ON」の機能が選択されていないとき
	緑色点灯	他の機能キーまたは制御入力により「電源 ON」の機能が選択されているとき

「電源 ON」機能の有効／無効は、選択表示灯と状態表示灯の組み合わせでわかります。

表示灯の状態			「電源 ON」機能	備考
状態表示灯	選択表示灯			
消灯	消灯		無効	スリープ状態*
消灯	緑色点灯		有効	この機能キーの操作により有効になっている状態
緑色点灯	消灯		有効	他の機能キーの操作または制御入力により有効になっている状態
緑色点灯	緑色点灯		有効	この機能キーの操作、および他の機能キーの操作または制御入力により有効になっている状態

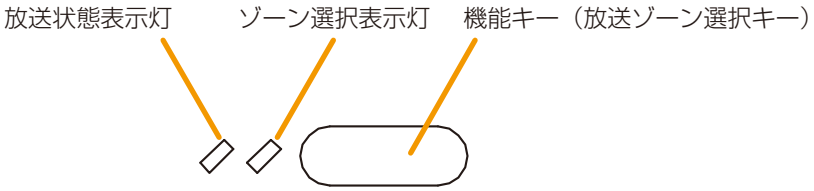
* 放送中のみアンプ電源がオンになる状態

RM-200SF と RM-220FW の表示灯の状態

■ ゾーン選択時の表示灯

機能キーにゾーン選択（パターンまたは個別）の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、ゾーンの選択状態と放送状態が分かります。

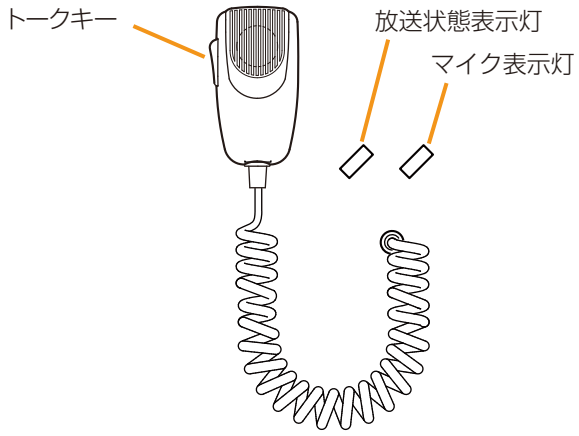
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
ゾーン選択表示灯	消灯	ゾーン未選択
	緑色点灯	ゾーン選択中
放送状態表示灯	消灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンが未使用または BGM 放送中
	緑色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンの一部またはすべてが他の機器（他のリモートマイクや業務 EV メッセージなど）で放送中、またはゾーンの一部が本機のマイクで放送中
	黄色点灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて本機で放送中
	黄色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて他の「音声警報／業務」に設定されたリモートマイクで放送中
	赤色点灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて避難メッセージで放送中
	赤色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて警報メッセージで放送中
	緑色点灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて復旧メッセージで放送中

■ トークキーの表示灯



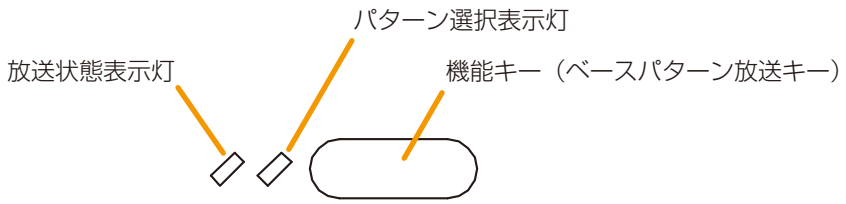
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
マイク表示灯	消灯	マイク未使用
	緑色点灯	マイク放送中
	緑色点滅	本機からチャイム放送中
放送状態表示灯	消灯	ゾーン未使用（マイク放送可）
	緑色点滅	本機で選択したゾーンの一部またはすべてが他の機器（他のリモートマイクなど）で放送中、または本機で選択したゾーンの一部に本機で放送中
	黄色点灯	本機で選択したすべてのゾーンに本機から放送中

■ ベースパターン放送時の表示灯

機能キーにベースパターン放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



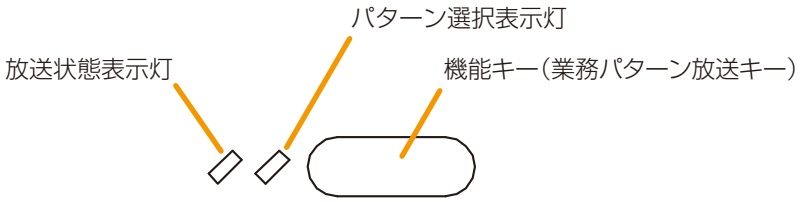
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
パターン選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（点灯後すぐに消灯します。）
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられたベースパターンが放送されていないとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられたベースパターンが放送されているとき（他の機器から起動された場合を含む）

■ 業務パターン放送時の表示灯

機能キーに業務パターン放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



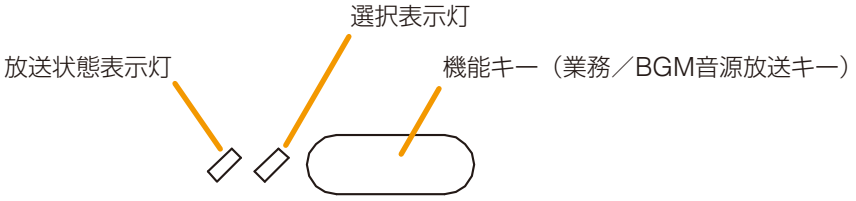
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
パターン選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた業務放送パターンが放送されていないとき
	黄色点滅	この機能キーに割り当てられた業務放送パターンが放送されているとき

■ 業務／ BGM 音源放送時の表示灯

機能キーに業務／ BGM 音源放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



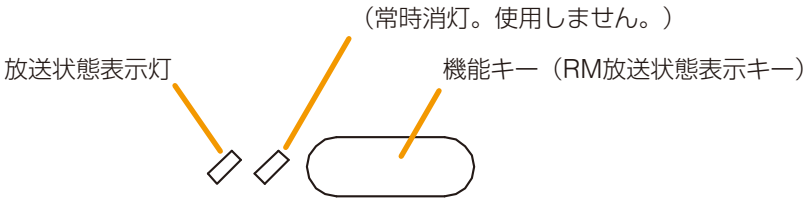
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	このキーを押して本機が業務／ BGM 音源放送状態になったとき
放送状態表示灯	消灯	このキーに割り当てられた業務／ BGM 音源放送が起動していないとき
	緑色点灯	この機能キーに設定されている業務／ BGM 放送の音源が、本機で選択したゾーン以外に放送されているとき
	黄色点灯	この機能キーに設定されている業務／ BGM 放送の音源が、本機で選択したゾーンに一部でも放送されているとき

■ RM 放送状態表示時の表示灯

機能キーに、他のリモートマイクの現在の放送状態を表示します。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられたリモートマイクが放送中でないとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられたリモートマイクが放送中

■ ランプテスト時の表示灯

機能キーにランプテストの機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、ランプテストの実行状態が分かります。ランプテストキーを押すと、本機のすべての表示灯が点灯し、本機のブザーが鳴ります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

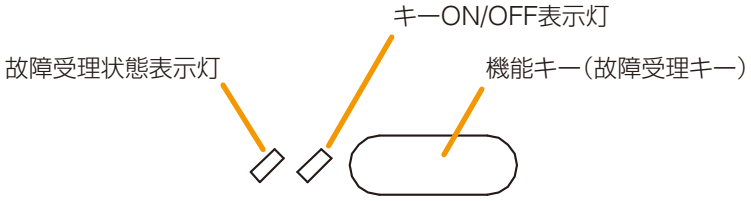
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
ランプテスト表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	黄色および緑色点灯	この機能キーを押し、ランプテストが実行されたとき

■ 故障受理時の表示灯

システムで故障検知を使用する設定にしているときに、機能キーに故障受理の機能を割り当てることができます。機能キーに故障受理の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、故障パターンの発生・受理の状態が分かります。

※ 故障検知機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



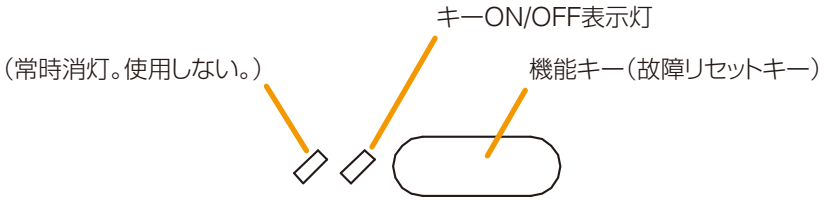
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
故障受理状態表示灯	黄色点滅	この機能キーに割り当てられた故障パターンが発生したとき
	黄色点灯	この機能キーを押した後、故障パターンが受理されたとき

■ 故障リセット時の表示灯

システムで故障検知を使用する設定にしているときに、機能キーに故障リセットの機能を割り当てることができます。
機能キーに故障リセットの機能が割り当てられているとき、キーを押すと、故障状態の表示をリセットすることができます。キーを押したときのみ、キーの横の表示灯が点灯します。

※ 故障検知機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

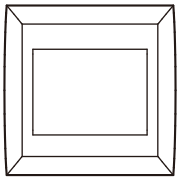
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）

■ 音声警報放送パターン起動時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、音声警報キーまたは機能キーに音声警報放送パターン起動の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、音声警報放送を起動することができます。
音声警報キーの場合は、キーの点灯状態で VX-3000 システムの音声警報放送状態が分かります。
機能キーの場合は、キーの横の 2 つの表示灯で、VX-3000 の音声警報放送起動と音声警報放送状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 音声警報キーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

[音声警報キーの場合]



音声警報キー

表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報キーの表示灯	消灯	VX-3000 が音声警報放送状態でないとき
	赤色点灯	この音声警報キーを押して音声警報放送を起動したとき、または VX-3000 システムが音声警報放送状態のとき

[機能キーの場合]

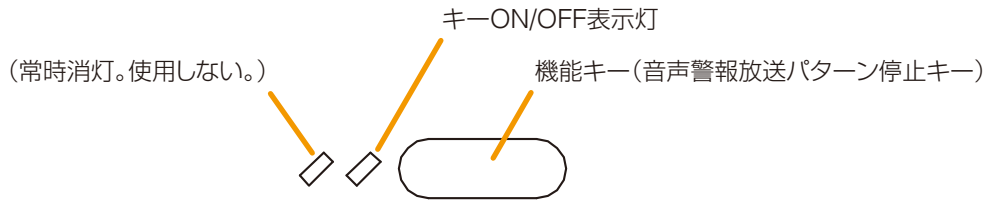
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音声警報放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンが放送されていないとき
	赤色点滅	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンの一部が放送されているとき
	赤色点灯	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンのすべてが放送されているとき

■ 音声警報放送パターン停止時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、機能キーに音声警報放送停止の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、音声警報放送を停止することができます。
キーを押したときのみ、キー横の表示灯が点灯します。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

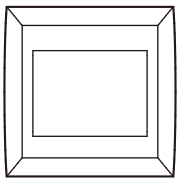
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）

■ 音声警報放送パターン起動／停止時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、音声警報キーまたは機能キーに音声警報放送パターン起動／停止の機能を割り当てることができます。
機能が割り当てられた音声警報放送パターンがオフのとき、このキーを押すと音声警報放送が起動します。
機能が割り当てられた音声警報放送パターンがオンのとき、このキーを押すと該当する音声警報放送パターンを停止、または音声警報放送状態を通常状態に戻します。いずれの動作を行うかは、設定によります。
音声警報キーの場合は、キーの点灯状態で VX-3000 システムの音声警報放送状態が分かります。
機能キーの場合は、キーの横の 2 つの表示灯で、VX-3000 の音声警報放送起動と音声警報放送状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 音声警報キーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

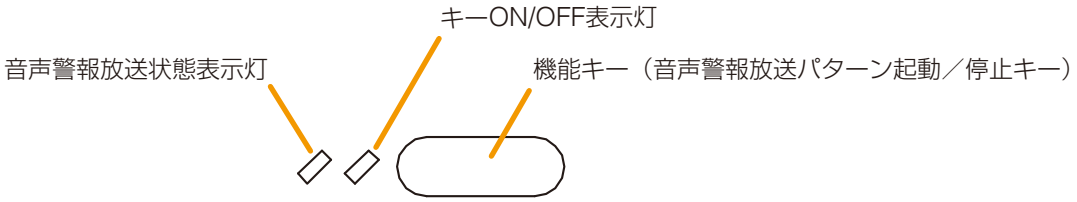
[音声警報キーの場合]



音声警報キー

表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報キーの表示灯	消灯	VX-3000 が音声警報放送状態でないとき
	赤色点灯	この音声警報キーを押して音声警報放送を起動したとき、または VX-3000 システムが音声警報放送状態のとき

[機能キーの場合]



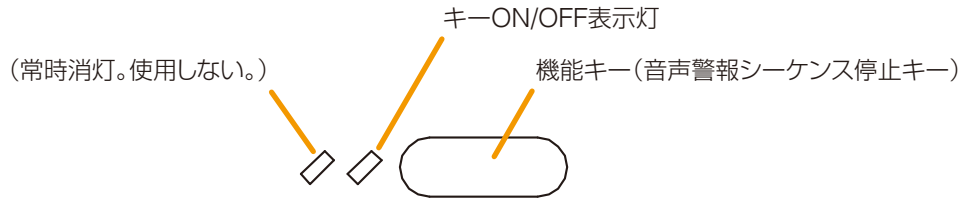
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音声警報放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンが放送されていないとき
	緑色点灯	この機能キーに割り当てられている復旧の EV メッセージが起動中
	赤色点灯	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンが放送されているとき

■ 音声警報シーケンス停止時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、機能キーに音声警報シーケンス停止の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、設定された音声警報シーケンスを含むすべての音声警報放送パターンを停止することができます。キーを押したときのみ、キー横の表示灯が点灯します。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）

■ 音声警報シーケンスフェーズ移行時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、機能キーに音声警報シーケンスフェーズ移行の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、設定された音声警報シーケンスを次のフェーズに移行させることができます。キー横の 2 つの表示灯で音声警報シーケンスフェーズの状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

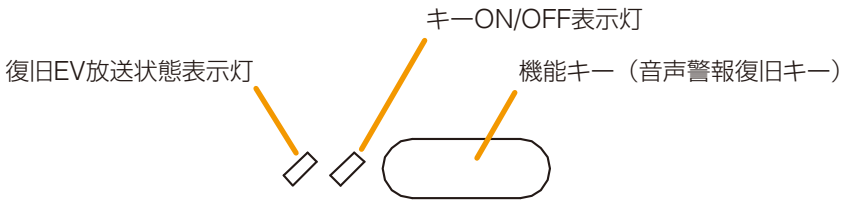
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
フェーズ状態表示灯	緑色点灯	この機能キーに割り当てられている音声警報シーケンスが第 1 フェーズのとき
	緑色点滅	この機能キーに割り当てられている音声警報シーケンスが第 2 フェーズのとき
	消灯	この機能キーに割り当てられている音声警報シーケンスが第 3 フェーズのとき

■ 音声警報復旧時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、機能キーに音声警報復旧の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、すべての音声警報放送パターンを停止して復旧の EV メッセージを放送した後、音声警報放送状態を解除させることができます。
キーの横の 2 つの表示灯で、音声警報復旧の状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
復旧 EV 放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられている復旧の EV メッセージが停止中
	緑色点灯	この機能キーに割り当てられている復旧の EV メッセージが起動中

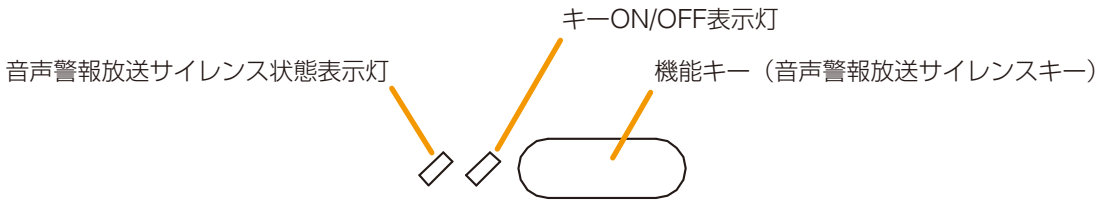
■ 音声警報放送サイレンス時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、機能キーに音声警報放送サイレンスの機能を割り当てることができます。
音声警報放送サイレンス機能とは、音源タイプが「避難」および「警報」の EV 音源をミュートする機能です。この機能が割り当てられたキーを一度押すと、機能が有効になります。もう一度押すと、無効になります。この機能を機能キーに割り当てたときは、キーの横にある 2 つの表示灯の点灯状態で音声警報放送サイレンス機能の有効／無効が確認できます。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

ご注意

- 音声警報放送サイレンス機能は、システムが音声警報モードのときのみ有効になります。
- 音声警報放送サイレンス機能がオンの状態で音声警報復旧すると、音声警報放送サイレンス機能はオフに変わります。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

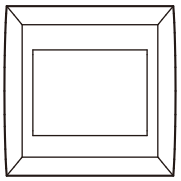
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音声警報放送サイレンス状態表示灯	消灯	音声警報放送サイレンス機能が無効のとき
	緑色点滅	音声警報放送サイレンス機能が有効のとき

■ 音声警報 EV 放送時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、音声警報キーまたは機能キーに音声警報 EV 放送の機能を割り当てることができます。
音声警報 EV 放送をキーに割り当てると、システムが音声警報モードのときに限り、音源のタイプが「避難」または「警報」に設定された EV 音源を手動で起動することができます。
音声警報 EV 放送が音声警報キーに割り当てられているときは、キーの表示により放送状態を表します。
音声警報 EV 放送が機能キーに割り当てられているときは、キーの横の 2 つの表示灯で、キーの選択および放送状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 音声警報キーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

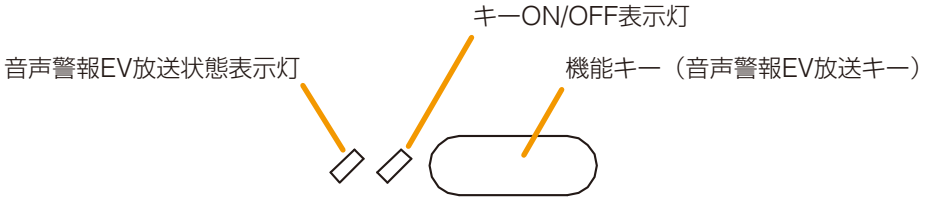
[音声警報キーの場合]



音声警報キー

表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報キーの表示灯	消灯	音声警報キーに割り当てられている音声警報 EV メッセージがどのゾーンにも放送されていないとき
	赤色点灯	音声警報キーに割り当てられている音声警報 EV メッセージが 1 つ以上のゾーンに放送されているとき

[機能キーの場合]



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

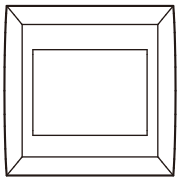
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
音声警報 EV 放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられている音声警報 EV メッセージがどのゾーンにも放送されていないとき
	赤色点灯	この機能キーに割り当てられている音声警報 EV メッセージが 1 つ以上のゾーンに放送されているとき

■ 音声警報受理時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、音声警報キーまたは機能キーに音声警報受理の機能を割り当てることができます。
音声警報受理機能をキーに割り当てると、このキーに設定された音声警報放送パターンが ON になるとリモートマイクのブザー音が鳴動します。音声警報受理機能に割り当てられたキーを押すことでブザー音を停止させることができます。
音声警報受理機能が音声警報キーに割り当てられているときは、キーの表示により音声警報放送の起動および音声警報受理の状態を表します。
音声警報受理機能が機能キーに割り当てられているときは、キーの左横にある 2 つの表示灯により音声警報放送の起動および音声警報受理の状態を表します。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 音声警報キーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

[音声警報キーの場合]

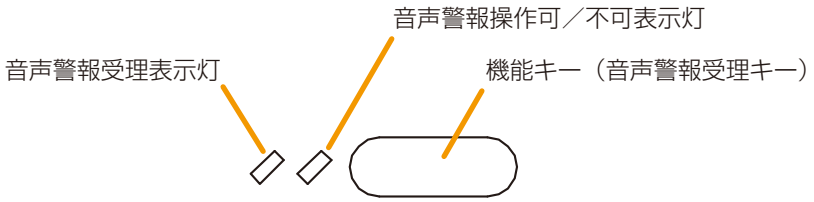


音声警報キー

表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報キーの表示灯	消灯	このリモートマイクから音声警報操作*不可
	赤色点滅	ブザー鳴動中： このリモートマイクで音声警報受理していないとき、かつ、このリモートマイクから音声警報操作*不可 ブザーが鳴動していないとき： このリモートマイクから音声警報操作*可
	赤色点灯	このリモートマイクで音声警報受理済みのとき、かつ、このリモートマイクから音声警報操作*可

* 音声警報放送パターン起動／停止、音声警報シーケンスフェーズ移行、音声警報リセットなど、音声警報放送に関する操作全般

[機能キーの場合]



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

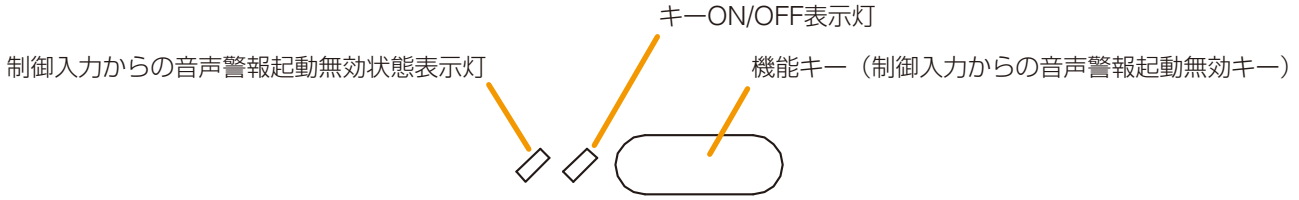
表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報操作*1 可／不可表示灯	消灯	音声警報操作不可*2 に設定しているとき： このリモートマイクから音声警報操作*1 不可 音声警報操作可*3 に設定しているとき（常時消灯）
	緑色点灯	音声警報操作不可*2 に設定しているとき： このリモートマイクから音声警報操作*1 可
音声警報受理表示灯	消灯	システムが音声警報モードではないとき
	赤色点滅	システムが音声警報モードのとき、かつ、このリモートマイクで音声警報受理していないとき
	赤色点灯	システムが音声警報モードのとき、かつ、このリモートマイクで音声警報受理済みのとき

*1 音声警報放送パターン起動／停止、音声警報シーケンスフェーズ移行、音声警報リセットなど、音声警報放送に関する操作全般
*2 音声警報放送パターンが起動された後、音声警報受理キーを押してからでなければ、音声警報操作をすることができないように、VX-3000 設定ソフトウェアで設定されています。
*3 音声警報放送パターンが起動された後、音声警報受理キーを押していなくても、音声警報操作をすることができるように、VX-3000 設定ソフトウェアで設定されています。

■ 制御入力からの音声警報起動無効時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にしているときに、機能キーに「制御入力からの音声警報起動無効」の機能を割り当てることができます。
この機能を機能キーに割り当てると、システムが業務モードのときに、制御入力からの音声警報起動を停止させることができます。メンテナンス時に制御入力信号で音声警報放送を起動できないようにするための機能です。
この機能が複数のリモートマイクに割り当てられているとき、この機能が割り当てられているすべてのリモートマイクで解除の操作をしないと、機能の解除はできません。
この機能が機能キーに割り当てられているとき、キーの横にある 2 つの表示灯により、キーの選択状態と機能の有効・無効および受理状態を表します。
この機能はシステムが業務モードのときのみ有効です。音声警報モードのときにこの機能を割り当てられたキーを押しても、プププという音がして、操作は無効になります。
なお、この機能の切り忘れ警告ブザーを設定できます。切り忘れ警告ブザーを ON にすると、この機能を起動したリモートマイクから 10 秒に一度、プッという警告音が鳴り、制御入力からの音声警報起動が無効の状態であることを示します。機能を解除すると、解除の操作をしたリモートマイクの警告音が止まります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
制御入力からの音声警報起動無効状態表示灯	消灯	制御入力からの音声警報起動無効機能がオフのとき
	赤色点滅	制御入力からの音声警報起動無効機能が他のリモートマイクからオンにされたとき
	赤色点灯	制御入力からの音声警報起動無効機能がこのリモートマイクからオンにされたとき、または他のリモートマイクからオンにされた状態を受理したとき

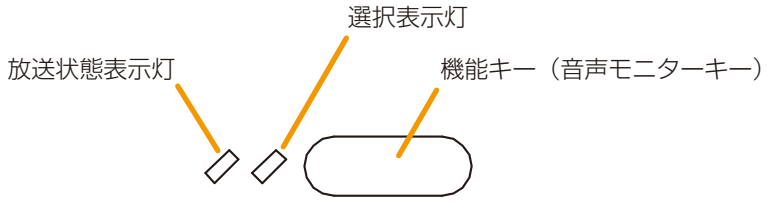
■ 音声モニター時の表示灯

機能キーに音声モニターの機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、音声モニターの選択と放送状態が分かります。

ご注意

1 台の VX-3000F に複数のリモートマイクが接続されている場合でも、音声モニターができるリモートマイクは 1 台のみです。
後から音声モニターキーを押したリモートマイクのみ有効になり、他のリモートマイクの音声モニターを中断します。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられたゾーンに放送がされていないとき
	緑色点灯	この機能キーに割り当てられたゾーンに音声が放送されている状態で、この機能キーを押したとき

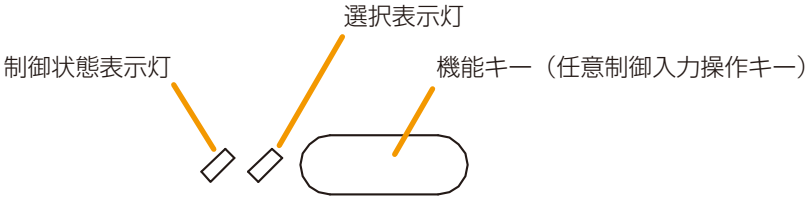
■ 任意制御入力操作時の表示灯

機能キーに任意制御入力操作の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択と制御状態が分かります。

ご注意

制御状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御入力が他の機器からの操作で機能している場合などです。
制御状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
制御状態表示灯が消灯しているときは、常に機能キーの操作が有効になります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
制御状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御入力が無効*状態のとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられた制御入力が有効*状態のとき

* イベント設定で制御入力の極性が「NO」と設定されているとき、制御入力がメイクしている間有効となり、ブレイクのときは無効となります。
極性が「NC」と設定されているとき、キーは制御入力がブレイクしている間有効となり、メイクのときは無効となります。

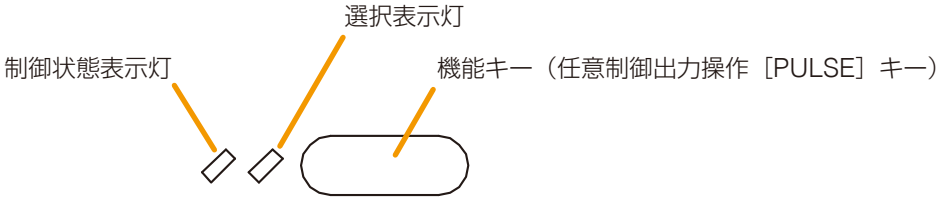
■ 任意制御出力操作（PULSE）時の表示灯

任意の制御出力操作（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定された制御出力がオンになります。もう一度このキーを押すとオフになります。
任意の制御出力操作（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているときは、キー横の 2 つの表示灯が選択と制御状態を表します。

ご注意

制御状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御出力パターンが他のイベントにより起動されている場合です。
制御状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
制御状態表示灯が消灯しているときは常に機能キーの操作が有効になります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
制御状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが無効状態のとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが有効状態のとき

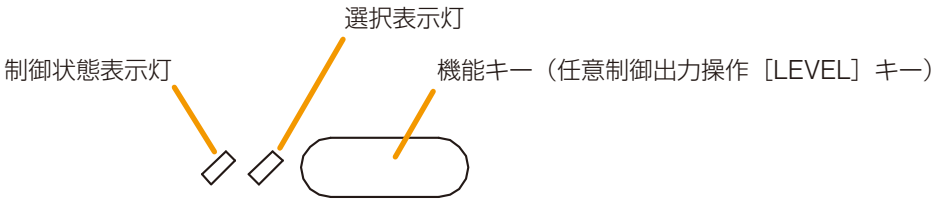
■ 任意制御出力操作（LEVEL）時の表示灯

任意の制御出力操作（LEVEL）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押している間だけ、あらかじめ設定された制御出力がオンになります。このキーから指を離すとオフになります。
任意の制御出力操作（LEVEL）の機能が機能キーに割り当てられているときは、キー横の 2 つの表示灯が選択と制御状態を表します。

ご注意

制御状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御出力パターンが他のイベントにより起動されている場合です。
制御状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
制御状態表示灯が消灯しているときは常に機能キーの操作が有効になります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



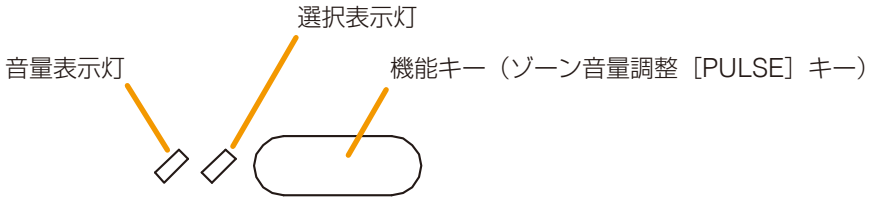
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
制御状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが無効状態のとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが有効状態のとき

■ ゾーン音量調整（PULSE）時の表示灯

ゾーン音量調整（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定されたゾーンの音量を設定音量だけ増減します。
機能キー左側の表示灯で音量調整状態を確認することができます。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

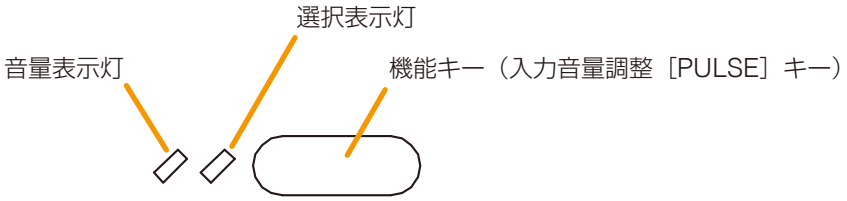
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音量表示灯	消灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 以下のとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 以上のとき
	緑色点灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 より大きいとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 より小さいとき

*1　VX-3000 設定ソフトウェアの「イベント設定」で設定した値
*2　VX-3000 設定ソフトウェアの「音質音量調整設定（OUT）」で設定した音量

■ 入力音量調整（PULSE）時の表示灯

入力音量調整（PULSE）機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定された入力チャネルの音量を設定音量だけ増減します。
機能キー左側の表示灯で音量調整状態を確認することができます。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音量表示灯	消灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 以下のとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 以上のとき
	緑色点灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 より大きいとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 より小さいとき

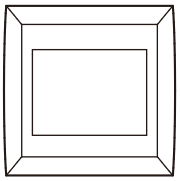
*1　VX-3000 設定ソフトウェアの「イベント設定」で設定した値
*2　VX-3000 設定ソフトウェアの「音質音量調整設定（IN）」で設定した音量

■ 緊急入力放送時の表示灯

緊急入力キーまたは機能キーに緊急入力放送の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、緊急入力放送を起動することができます。
緊急入力キーに緊急入力放送の機能が割り当てられているときは、キーの点灯状態で緊急入力放送の状態が分かります。
機能キーに緊急入力放送の機能が割り当てられているときは、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 緊急入力キーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

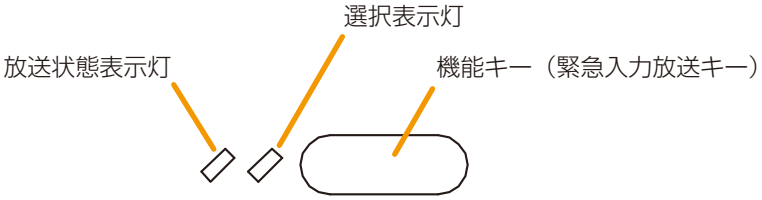
[緊急入力キーの場合]



緊急入力キー

表示灯	表示灯の状態	表示内容
緊急入力キーの表示灯	消灯	このキーに設定されている緊急入力放送の音源がどのゾーンにも放送されていないとき
	赤色点灯	このキーに設定されている緊急入力放送の音源が、このキーに設定されているゾーンに一部でも放送されているとき

[機能キーの場合]



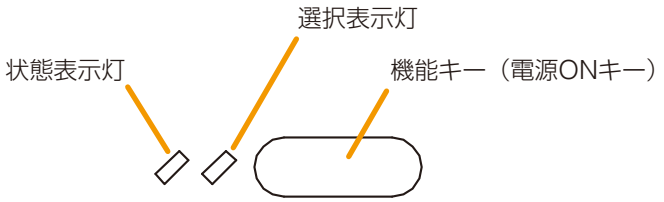
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源がどのゾーンにも放送されていないとき
	緑色点灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源が、このキーに設定されているゾーン以外に放送されているとき
	黄色点灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源が、このキーに設定されているゾーンに一部でも放送されているとき

■ スリープモード 電源 ON 時の表示灯

システムでスリープモードを使用する設定にしているときに、機能キーに「電源 ON」の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーをスリープ状態*のときに押すと、「電源 ON」の機能が有効になり、「電源 ON」の機能が有効のときに押すと、スリープ状態*に戻ります。

※ スリープモードの使用設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを選択していないとき
	緑色点灯	この機能キーを選択しているとき
状態表示灯	消灯	他の機能キーまたは制御入力により「電源 ON」の機能が選択されていないとき
	緑色点灯	他の機能キーまたは制御入力により「電源 ON」の機能が選択されているとき

「電源 ON」機能の有効／無効は、選択表示灯と状態表示灯の組み合わせでわかります。

表示灯の状態			「電源 ON」機能	備考
状態表示灯	選択表示灯			
消灯	消灯		無効	スリープ状態*
消灯	緑色点灯		有効	この機能キーの操作により有効になっている状態
緑色点灯	消灯		有効	他の機能キーの操作または制御入力により有効になっている状態
緑色点灯	緑色点灯		有効	この機能キーの操作、および他の機能キーの操作または制御入力により有効になっている状態

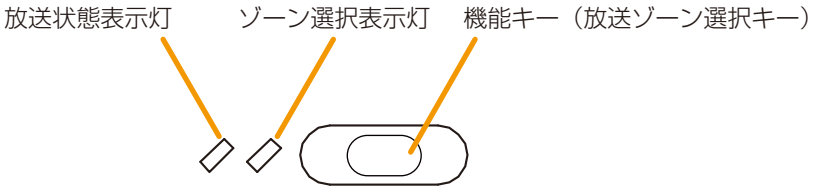
* 放送中のみアンプ電源がオンになる状態

RM-300X と RM-210F の表示灯の状態

■ ゾーン選択時の表示灯

機能キーにゾーン選択（パターンまたは個別）の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、ゾーンの選択状態と放送状態が分かります。

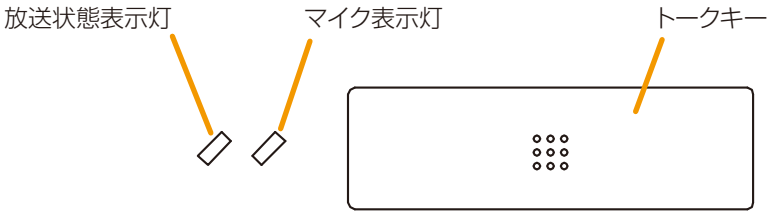
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
ゾーン選択表示灯	消灯	ゾーン未選択
	緑色点灯	ゾーン選択中
放送状態表示灯	消灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンが未使用または BGM 放送中
	緑色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンの一部またはすべてが他の機器（他のリモートマイクや業務 EV メッセージなど）で放送中、またはゾーンの一部が本機のマイクで放送中
	黄色点灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて本機で放送中
	黄色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて他の「音声警報／業務」に設定されたリモートマイクで放送中
	赤色点灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて避難メッセージで放送中
	赤色点滅	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて警報メッセージで放送中
	緑色点灯	この放送ゾーン選択キーに設定されているゾーンがすべて復旧メッセージで放送中

■ トークキーの表示灯



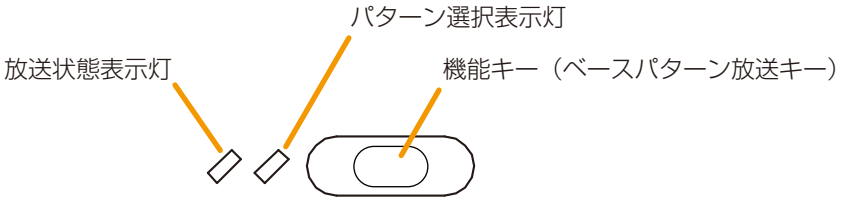
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
マイク表示灯	消灯	マイク未使用
	緑色点灯	マイク放送中
	緑色点滅	本機からチャイム放送中
放送状態表示灯	消灯	ゾーン未使用（マイク放送可）
	緑色点滅	本機で選択したゾーンの一部またはすべてが他の機器（他のリモートマイクなど）で放送中、または本機で選択したゾーンの一部に本機で放送中
	黄色点灯	本機で選択したすべてのゾーンに本機から放送中

■ ベースパターン放送時の表示灯

機能キーにベースパターン放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



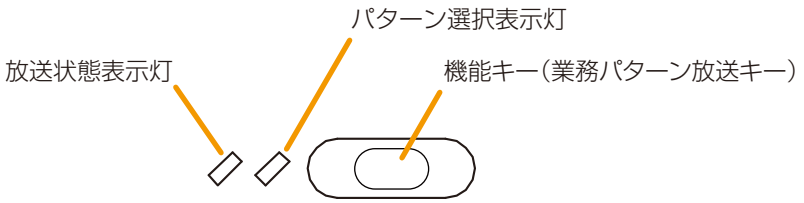
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
パターン選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（点灯後すぐに消灯します。）
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられたベースパターンが放送されていないとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられたベースパターンが放送されているとき（他の機器から起動された場合を含む）

■ 業務パターン放送時の表示灯

機能キーに業務パターン放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



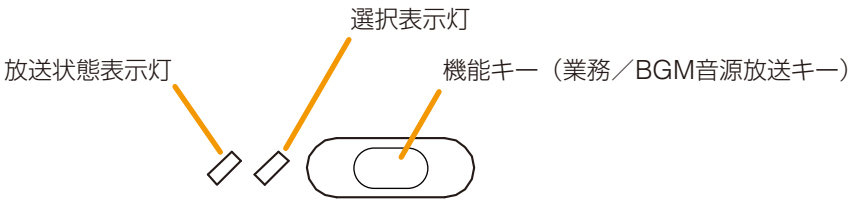
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
パターン選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた業務放送パターンが放送されていないとき
	黄色点滅	この機能キーに割り当てられた業務放送パターンが放送されているとき

■ 業務／ BGM 音源放送時の表示灯

機能キーに業務／ BGM 音源放送の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



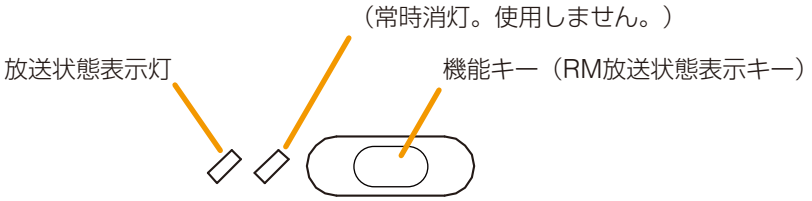
それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	このキーを押して本機が業務／ BGM 音源放送状態になったとき
放送状態表示灯	消灯	このキーに割り当てられた業務／ BGM 音源放送が起動していないとき
	緑色点灯	この機能キーに設定されている業務／ BGM 放送の音源が、本機で選択したゾーン以外に放送されているとき
	黄色点灯	この機能キーに設定されている業務／ BGM 放送の音源が、本機で選択したゾーンに一部でも放送されているとき

■ RM 放送状態表示時の表示灯

機能キーに、他のリモートマイクの現在の放送状態を表示します。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



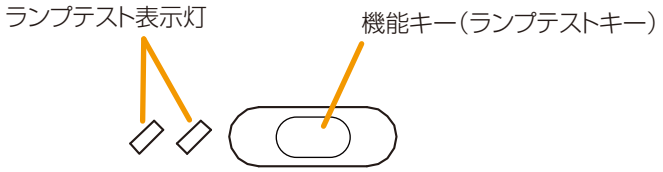
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられたリモートマイクが放送中でないとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられたリモートマイクが放送中

■ ランプテスト時の表示灯

機能キーにランプテストの機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、ランプテストの実行状態が分かります。ランプテストキーを押すと、本機のすべての表示灯が点灯し、本機のブザーが鳴ります。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



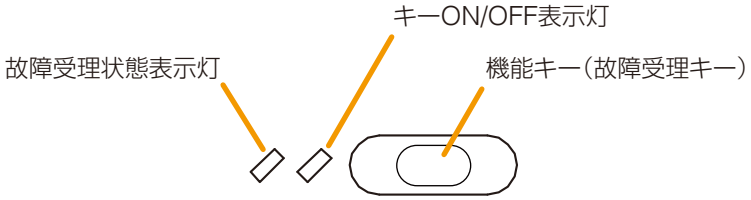
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
ランプテスト表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	黄色および緑色点灯	この機能キーを押し、ランプテストが実行されたとき

■ 故障受理時の表示灯

システムで故障検知を使用する設定にしているときに、機能キーに故障受理の機能を割り当てることができます。機能キーに故障受理の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、故障パターンの発生・受理の状態が分かります。

※ 故障検知機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



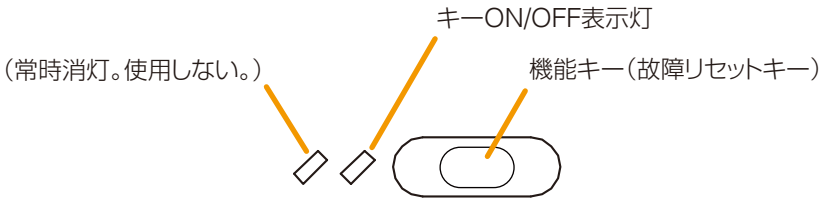
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
故障受理状態表示灯	黄色点滅	この機能キーに割り当てられた故障パターンが発生したとき
	黄色点灯	この機能キーを押した後、故障パターンが受理されたとき

■ 故障リセット時の表示灯

システムで故障検知を使用する設定にしているときに、機能キーに故障リセットの機能を割り当てることができます。
機能キーに故障リセットの機能が割り当てられているとき、キーを押すと、故障状態の表示をリセットすることができます。キーを押したときのみ、キーの横の表示灯が点灯します。

※ 故障検知機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

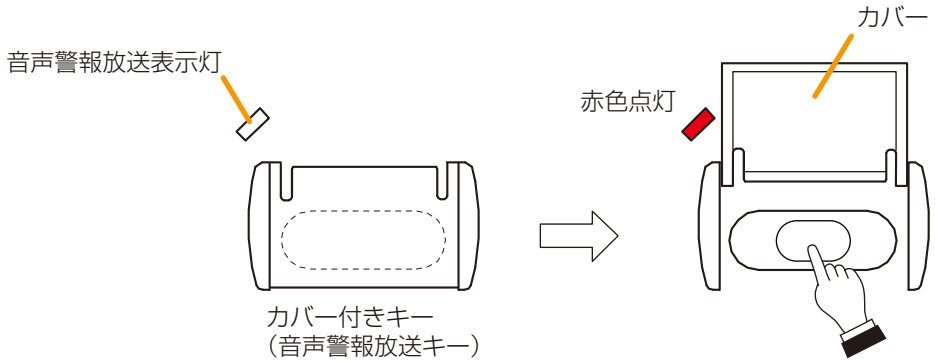
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）

■ 音声警報放送パターン起動時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、カバー付きキーまたは機能キーに音声警報放送パターン起動の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、音声警報放送を起動することができます。
カバー付きキーの場合は、キーの横の音声警報表示灯で VX-3000 システムの音声警報放送状態が分かります。
機能キーの場合は、キーの横の 2 つの表示灯で、VX-3000 の音声警報放送起動と音声警報放送状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ カバー付きキーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

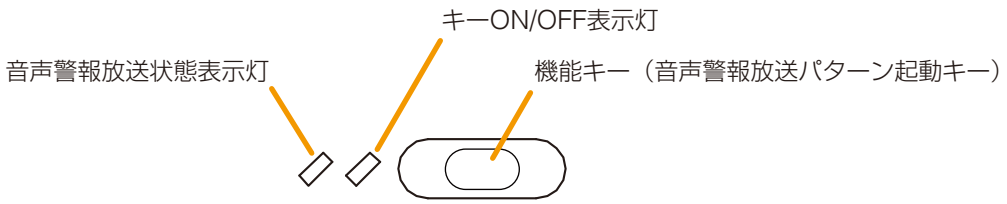
[カバー付きキーの場合]



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報放送表示灯	消灯	VX-3000 が音声警報放送状態でないとき
	赤色点灯	この音声警報放送キーを押して音声警報放送を起動したとき、または VX-3000 システムが音声警報放送状態のとき

[機能キーの場合]



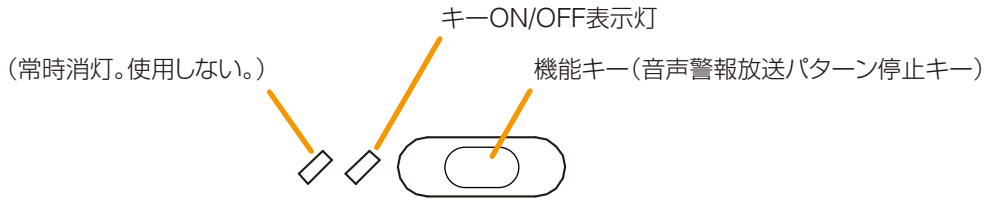
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音声警報放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンが放送されていないとき
	赤色点滅	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンの一部が放送されているとき
	赤色点灯	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンのすべてが放送されているとき

■ 音声警報放送パターン停止時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、カバー付きキーまたは機能キーに音声警報放送停止の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、音声警報放送を停止することができます。
キーを押したときのみ、キー横の表示灯が点灯します。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

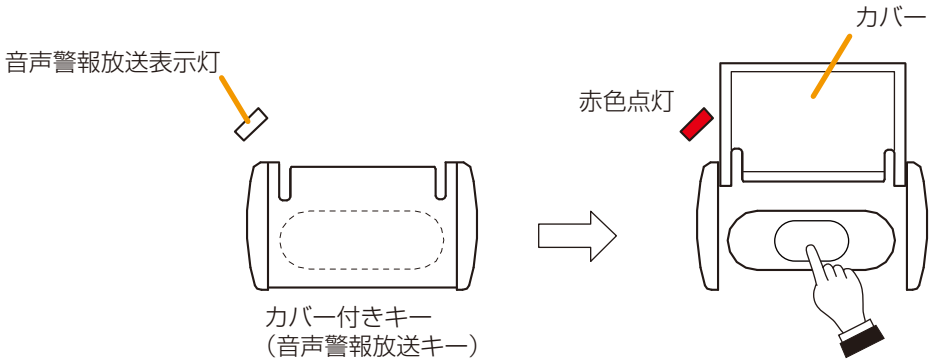
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）

■ 音声警報放送パターン起動／停止時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、カバー付きキーまたは機能キーに音声警報放送パターン起動／停止の機能を割り当てることができます。
機能が割り当てられた音声警報放送パターンがオフのとき、このキーを押すと音声警報放送が起動します。
機能が割り当てられた音声警報放送パターンがオンのとき、このキーを押すと該当する音声警報放送パターンを停止、または音声警報放送状態を通常状態に戻します。いずれの動作を行うかは、設定によります。
カバー付きキーの場合は、キーの横の音声警報放送表示灯で VX-3000 システムの音声警報放送状態が分かります。
機能キーの場合は、キーの横の 2 つの表示灯で、VX-3000 の音声警報放送起動と音声警報放送状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ カバー付きキーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

[カバー付きキーの場合]



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報放送表示灯	消灯	VX-3000 が音声警報放送状態でないとき
	赤色点灯	この緊急キーを押して音声警報放送を起動したとき、または VX-3000 システムが音声警報放送状態のとき

[機能キーの場合]

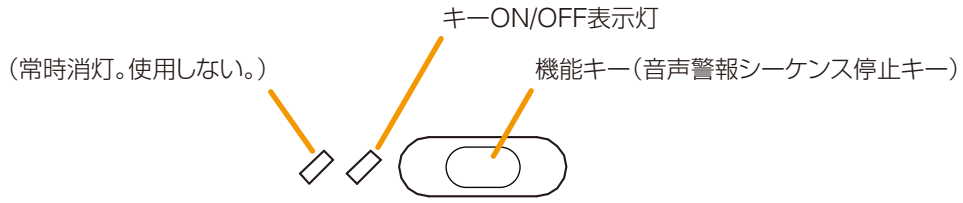
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音声警報放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンが放送されていないとき
	緑色点灯	この機能キーに割り当てられている復旧の EV メッセージが起動中
	赤色点灯	この機能キーに割り当てられている音声警報放送パターンが放送されているとき

■ 音声警報シーケンス停止時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、機能キーに音声警報シーケンス停止の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、設定された音声警報シーケンスを含むすべての音声警報放送パターンを停止することができます。キーを押したときのみ、キー横の表示灯が点灯します。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）

■ 音声警報シーケンスフェーズ移行時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、機能キーに音声警報シーケンスフェーズ移行の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、設定された音声警報シーケンスを次のフェーズに移行させることができます。キー横の 2 つの表示灯で音声警報シーケンスフェーズの状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

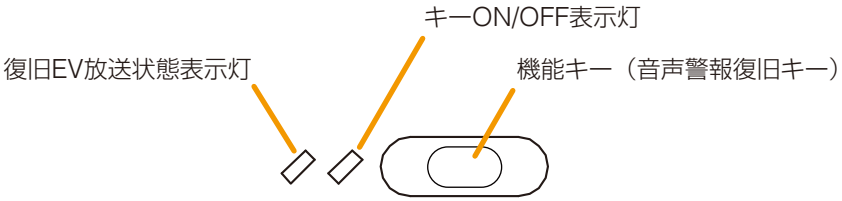
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
フェーズ状態表示灯	緑色点灯	この機能キーに割り当てられている音声警報シーケンスが第 1 フェーズのとき
	緑色点滅	この機能キーに割り当てられている音声警報シーケンスが第 2 フェーズのとき
	消灯	この機能キーに割り当てられている音声警報シーケンスが第 3 フェーズのとき

■ 音声警報復旧時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、機能キーに音声警報復旧の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、すべての音声警報放送パターンを停止して復旧の EV メッセージを放送した後、音声警報放送状態を解除させることができます。
キーの横の 2 つの表示灯で、音声警報復旧の状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
復旧 EV 放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられている復旧の EV メッセージが停止中
	緑色点灯	この機能キーに割り当てられている復旧の EV メッセージが起動中

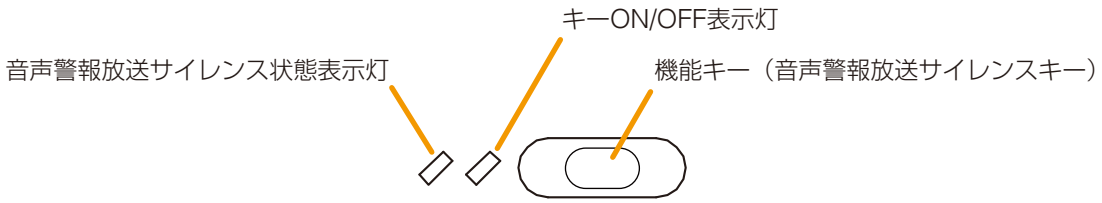
■ 音声警報放送サイレンス時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、機能キーに音声警報放送サイレンスの機能を割り当てることができます。
音声警報放送サイレンス機能とは、音源タイプが「避難」および「警報」の EV 音源をミュートする機能です。この機能が割り当てられたキーを一度押すと、機能が有効になります。もう一度押すと、無効になります。この機能を機能キーに割り当てたときは、キーの横にある 2 つの表示灯の点灯状態で音声警報放送サイレンス機能の有効／無効が確認できます。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

ご注意

- 音声警報放送サイレンス機能は、システムが音声警報モードのときのみ有効になります。
- 音声警報放送サイレンス機能がオンの状態で音声警報復旧すると、音声警報放送サイレンス機能はオフに変わります。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

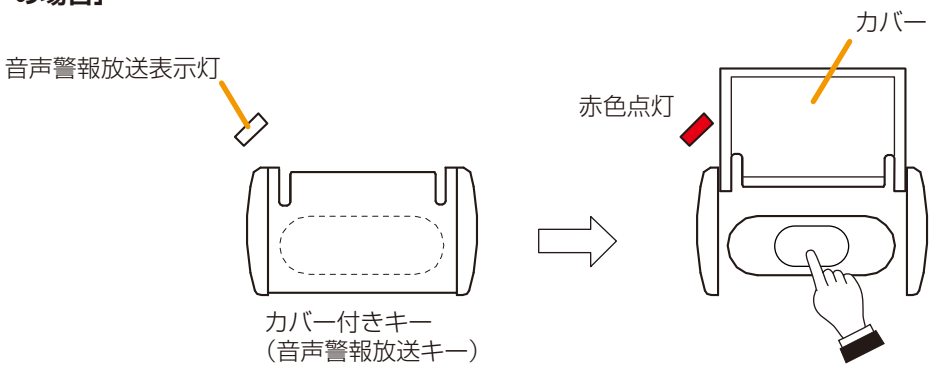
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音声警報放送サイレンス状態表示灯	消灯	音声警報放送サイレンス機能が無効のとき
	緑色点滅	音声警報放送サイレンス機能が有効のとき

■ 音声警報 EV 放送時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、カバー付きキーまたは機能キーに音声警報 EV 放送の機能を割り当てることができます。
音声警報 EV 放送をキーに割り当てると、システムが音声警報放送モードのときに限り、音源のタイプが「避難」または「警報」に設定された EV 音源を手動で起動することができます。
音声警報 EV 放送がカバー付きキーに割り当てられているときは、キーの横の表示により放送状態を表します。
音声警報 EV 放送が機能キーに割り当てられているときは、キーの横の 2 つの表示灯で、キーの選択および放送状態が分かります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ カバー付きキーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

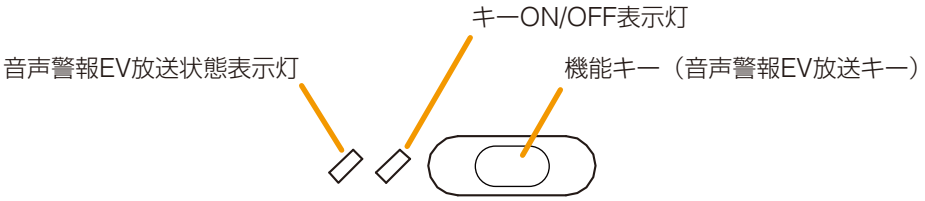
[カバー付きキーの場合]



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報放送表示灯	消灯	音声警報放送キーに割り当てられている音声警報 EV メッセージがどのゾーンにも放送されていないとき
	赤色点灯	音声警報放送キーに割り当てられている音声警報 EV メッセージが 1 つ以上のゾーンに放送されているとき

[機能キーの場合]



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

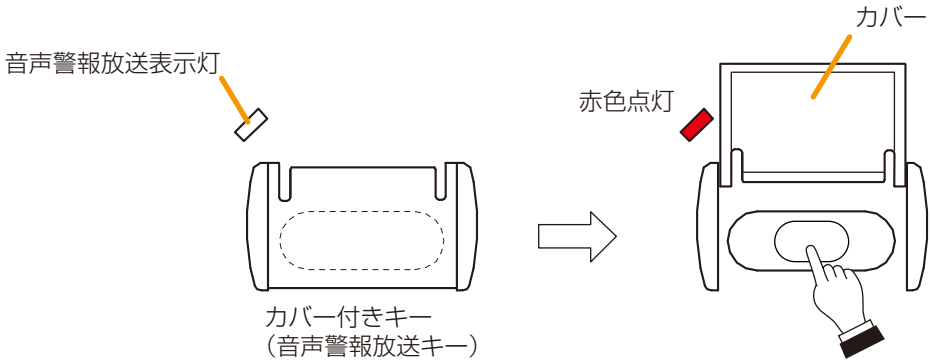
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
音声警報 EV 放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられている音声警報 EV メッセージがどのゾーンにも放送されていないとき
	赤色点灯	この機能キーに割り当てられている音声警報 EV メッセージが 1 つ以上のゾーンに放送されているとき

■ 音声警報受理時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、カバー付きキーまたは機能キーに音声警報受理の機能を割り当てることができます。
音声警報受理機能をキーに割り当てると、このキーに設定された音声警報放送パターンが ON になるとリモートマイクのブザー音が鳴動します。音声警報受理機能に割り当てられたキーを押すことでブザー音を停止させることができます。
音声警報受理機能がカバー付きキーに割り当てられているときは、キーの横の表示により音声警報放送の起動および音声警報受理の状態を表します。
音声警報受理機能が機能キーに割り当てられているときは、キーの左横にある 2 つの表示灯により音声警報放送の起動および音声警報受理の状態を表します。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ カバー付きキーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

[カバー付きキーの場合]

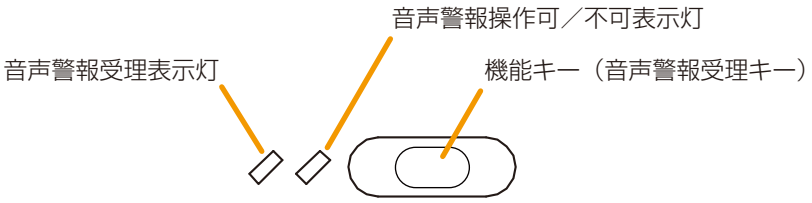


表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報放送表示灯	消灯	このリモートマイクから音声警報操作*不可
	赤色点滅	ブザー鳴動中： 　このリモートマイクで音声警報受理していないとき、かつ、このリモートマイクから音声警報操作*不可 ブザーが鳴動していないとき： 　このリモートマイクから音声警報操作*可
	赤色点灯	このリモートマイクで音声警報受理済みのとき、かつ、このリモートマイクから音声警報操作*可

* 音声警報放送パターン起動／停止、音声警報シーケンスフェーズ移行、音声警報リセットなど、音声警報放送に関する操作全般

[機能キーの場合]



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

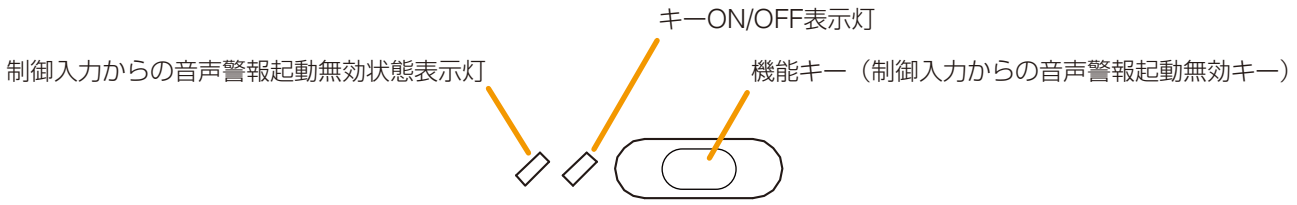
表示灯	表示灯の状態	表示内容
音声警報操作*1 可／不可表示灯	消灯	音声警報操作不可*2 に設定しているとき： このリモートマイクから音声警報操作*1 不可 音声警報操作可*3 に設定しているとき（常時消灯）
	緑色点灯	音声警報操作不可*2 に設定しているとき： このリモートマイクから音声警報操作*1 可
音声警報受理表示灯	消灯	システムが音声警報モードではないとき
	赤色点滅	システムが音声警報モードのとき、かつ、このリモートマイクで音声警報受理していないとき
	赤色点灯	システムが音声警報モードのとき、かつ、このリモートマイクで音声警報受理済みのとき

*1 音声警報放送パターン起動／停止、音声警報シーケンスフェーズ移行、音声警報リセットなど、音声警報放送に関する操作全般
*2 音声警報放送パターンが起動された後、音声警報受理キーを押してからでなければ、音声警報操作をすることができないように、VX-3000 設定ソフトウェアで設定されています。
*3 音声警報放送パターンが起動された後、音声警報受理キーを押していなくても、音声警報操作をすることができるように、VX-3000 設定ソフトウェアで設定されています。

■ 制御入力からの音声警報起動無効時の表示灯

システムで音声警報放送機能を使用する設定にし、かつ RM-300X の種類を「音声警報」または「音声警報／業務」に設定しているときに、機能キーに「制御入力からの音声警報起動無効」の機能を割り当てることができます。
この機能を機能キーに割り当てると、システムが業務モードのときに、制御入力からの音声警報起動を停止させることができます。メンテナンス時に制御入力信号で音声警報放送を起動できないようにするための機能です。
この機能が複数のリモートマイクに割り当てられているとき、この機能が割り当てられているすべてのリモートマイクで解除の操作をしないと、機能の解除はできません。
この機能が機能キーに割り当てられているとき、キーの横にある 2 つの表示灯により、キーの選択状態と機能の有効・無効および受理状態を表します。
この機能はシステムが業務モードのときのみ有効です。音声警報モードのときにこの機能を割り当てられたキーを押しても、プププという音がして、操作は無効になります。
なお、この機能の切り忘れ警告ブザーを設定できます。切り忘れ警告ブザーを ON にすると、この機能を起動したリモートマイクから 10 秒に一度、プッという警告音が鳴り、制御入力からの音声警報起動が無効の状態であることを示します。機能を解除すると、解除の操作をしたリモートマイクの警告音が止まります。

※ 音声警報放送機能の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ RM-300X の種類の設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「ユニット構成設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

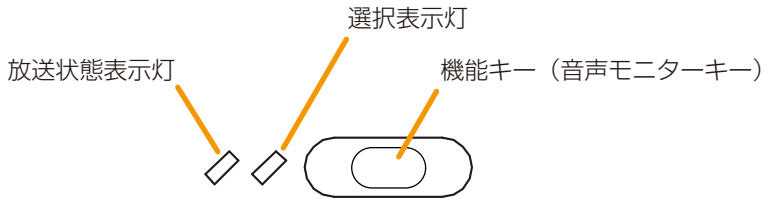
表示灯	表示灯の状態	表示内容
キー ON/OFF 表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
制御入力からの音声警報起動無効状態表示灯	消灯	制御入力からの音声警報起動無効機能がオフのとき
	赤色点滅	制御入力からの音声警報起動無効機能が他のリモートマイクからオンにされたとき
	赤色点灯	制御入力からの音声警報起動無効機能がこのリモートマイクからオンにされたとき、または他のリモートマイクからオンにされた状態を受理したとき

■ 音声モニター時の表示灯

機能キーに音声モニターの機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、音声モニターの選択と放送状態が分かります。

ご注意

1 台の VX-3000F に複数のリモートマイクが接続されている場合でも、音声モニターができるリモートマイクは 1 台のみです。
後から音声モニターキーを押したリモートマイクのみ有効になり、他のリモートマイクの音声モニターを中断します。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

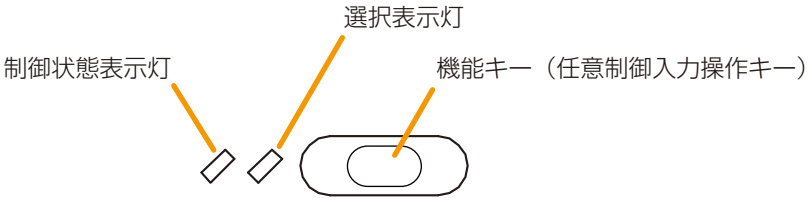
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられたゾーンに放送がされていないとき
	緑色点灯	この機能キーに割り当てられたゾーンに音声が放送されている状態で、この機能キーを押したとき

■ 任意制御入力操作時の表示灯

機能キーに任意制御入力操作の機能が割り当てられているとき、キーの横の 2 つの表示灯で、選択と制御状態が分かります。

ご注意

制御状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御入力が他の機器からの操作で機能している場合などです。
制御状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
制御状態表示灯が消灯しているときは、常に機能キーの操作が有効になります。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
制御状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御入力が無効*状態のとき
	緑色点灯	この機能キーに割り当てられた制御入力が有効*状態のとき

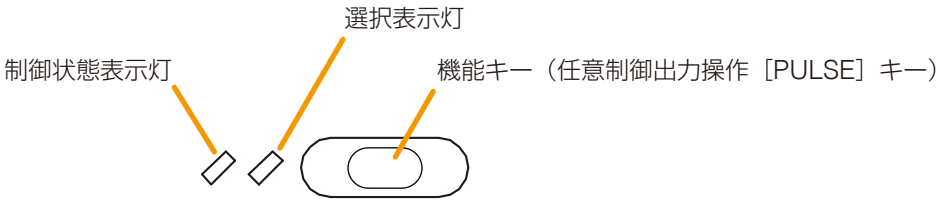
* イベント設定で制御入力の極性が「NO」と設定されているとき、制御入力がメイクしている間有効となり、ブレイクのときは無効となります。
極性が「NC」と設定されているとき、キーは制御入力がブレイクしている間有効となり、メイクのときは無効となります。

■ 任意制御出力操作（PULSE）時の表示灯

任意の制御出力操作（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定された制御出力がオンになります。もう一度このキーを押すとオフになります。
任意の制御出力操作（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているときは、キー横の 2 つの表示灯が選択と制御状態を表します。

ご注意

制御状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御出力パターンが他のイベントにより起動されている場合です。
制御状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
制御状態表示灯が消灯しているときは常に機能キーの操作が有効になります。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
制御状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが無効状態のとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが有効状態のとき

■ 任意制御出力操作（LEVEL）時の表示灯

任意の制御出力操作（LEVEL）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押している間だけ、あらかじめ設定された制御出力がオンになります。このキーから指を離すとオフになります。
任意の制御出力操作（LEVEL）の機能が機能キーに割り当てられているときは、キー横の 2 つの表示灯が選択と制御状態を表します。

ご注意

制御状態表示灯が点灯しているときに機能キーを押しても、操作が無効になることがあります。
制御出力パターンが他のイベントにより起動されている場合です。
制御状態表示灯が消灯してから、もう一度機能キーを押してください。
制御状態表示灯が消灯しているときは常に機能キーの操作が有効になります。

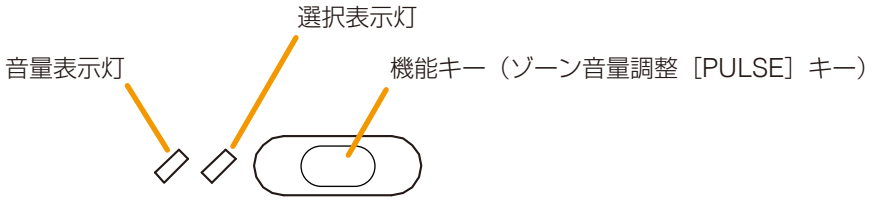
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
制御状態表示灯	消灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが無効状態のとき
	黄色点灯	この機能キーに割り当てられた制御出力パターンが有効状態のとき

■ ゾーン音量調整（PULSE）時の表示灯

ゾーン音量調整（PULSE）の機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定されたゾーンの音量を設定音量だけ増減します。
機能キー左側の表示灯で音量調整状態を確認することができます。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

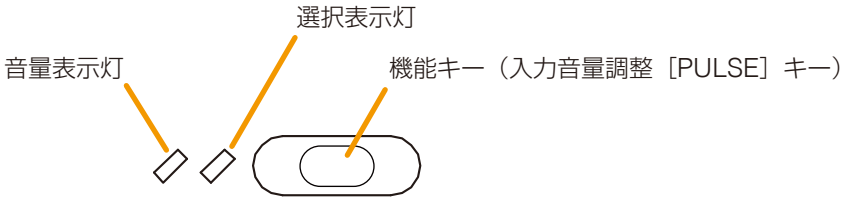
表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音量表示灯	消灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 以下のとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 以上のとき
	緑色点灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 より大きいとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定されたゾーンの現在の音量調整値が初期値*2 より小さいとき

*1　VX-3000 設定ソフトウェアの「イベント設定」で設定した値
*2　VX-3000 設定ソフトウェアの「音質音量調整設定（OUT）」で設定した音量

■ 入力音量調整（PULSE）時の表示灯

入力音量調整（PULSE）機能が機能キーに割り当てられているとき、このキーを押すとあらかじめ設定された入力チャンネルの音量を設定音量だけ増減します。
機能キー左側の表示灯で音量調整状態を確認することができます。

※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき（押している間のみ）
音量表示灯	消灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 以下のとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 以上のとき
	緑色点灯	音量調整の設定値*1 が＋側（音量増加）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 より大きいとき 音量調整の設定値*1 が－側（音量減少）の場合： この機能キーに設定された入力チャンネルの現在の音量調整値が初期値*2 より小さいとき

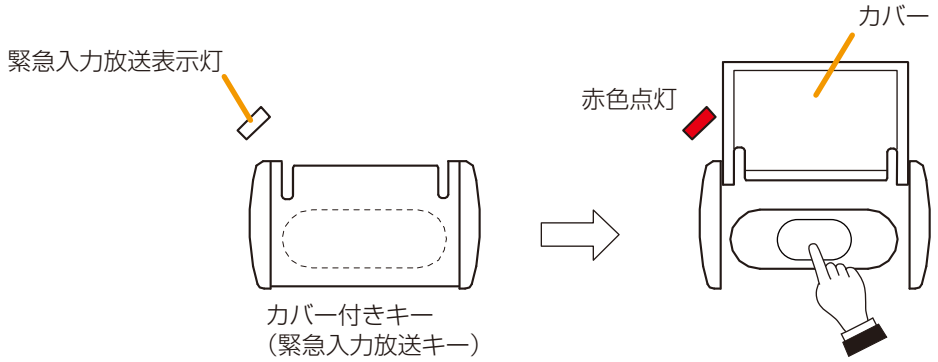
*1　VX-3000 設定ソフトウェアの「イベント設定」で設定した値
*2　VX-3000 設定ソフトウェアの「音質音量調整設定（IN）」で設定した音量

■ 緊急入力放送時の表示灯

カバー付きキーまたは機能キーに緊急入力放送の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーを押すと、緊急入力放送を起動することができます。
カバー付きキーに緊急入力放送の機能が割り当てられているときは、キー横の表示灯の点灯状態で緊急入力放送の状態が分かります。
機能キーに緊急入力放送の機能が割り当てられているときは、キーの横の 2 つの表示灯で、選択状態と放送状態が分かります。

※ カバー付きキーおよび機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

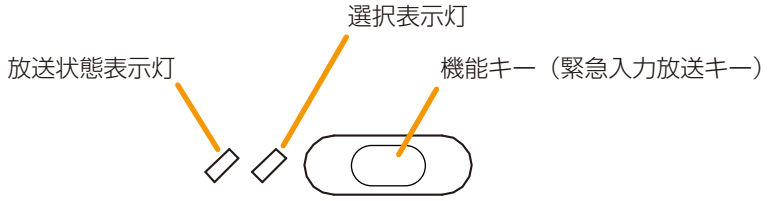
[カバー付きキーの場合]



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
緊急入力放送表示灯	消灯	このキーに設定されている緊急入力放送の音源がどのゾーンにも放送されていないとき
	赤色点灯	このキーに設定されている緊急入力放送の音源が、このキーに設定されているゾーンに一部でも放送されているとき

[機能キーの場合]



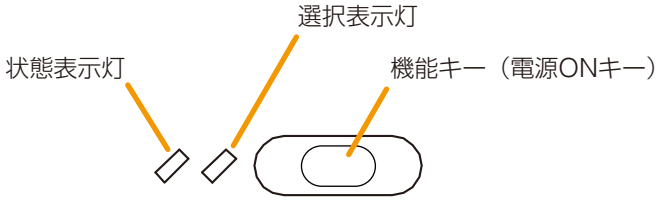
表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを押していないとき
	緑色点灯	この機能キーを押したとき
放送状態表示灯	消灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源がどのゾーンにも放送されていないとき
	緑色点灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源が、このキーに設定されているゾーン以外に放送されているとき
	黄色点灯	この機能キーに設定されている緊急入力放送の音源が、このキーに設定されているゾーンに一部でも放送されているとき

■ スリープモード 電源 ON 時の表示灯

システムでスリープモードを使用する設定にしているときに、機能キーに「電源 ON」の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられているキーをスリープ状態*のときに押すと、「電源 ON」の機能が有効になり、「電源 ON」の機能が有効のときに押すと、スリープ状態*に戻ります。

※ スリープモードの使用設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能キーへの機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
選択表示灯	消灯	この機能キーを選択していないとき
	緑色点灯	この機能キーを選択しているとき
状態表示灯	消灯	他の機能キーまたは制御入力により「電源 ON」の機能が選択されていないとき
	緑色点灯	他の機能キーまたは制御入力により「電源 ON」の機能が選択されているとき

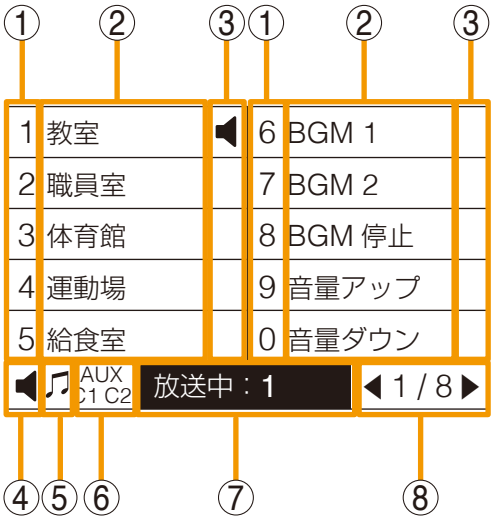
「電源 ON」機能の有効／無効は、選択表示灯と状態表示灯の組み合わせでわかります。

表示灯の状態			「電源 ON」機能	備考
状態表示灯	選択表示灯			
消灯	消灯		無効	スリープ状態*
消灯	緑色点灯		有効	この機能キーの操作により有効になっている状態
緑色点灯	消灯		有効	他の機能キーの操作または制御入力により有効になっている状態
緑色点灯	緑色点灯		有効	この機能キーの操作、および他の機能キーの操作または制御入力により有効になっている状態

* 放送中のみアンプ電源がオンになる状態

RM-500 の液晶画面の表示

通常使用状態では液晶画面には、以下のような内容が表示されます。



1. 番号
数字キーの番号を表示します。

2. 機能表示エリア
機能の名称を表示します。

3. 個別用アイコン表示エリア
該当する番号の機能の状態をアイコンで表示します。

4. 全体用アイコン表示エリア
本機に割り当てられた機能全体の状態のうち、表示優先順位の高いものをアイコンで表示します。

5. チャイム表示エリア
本機の操作によるチャイムが鳴っているときに、以下のようなチャイムマークを表示します。

♫

設定により、以下のように、マイクレベルを表示することもできます。マイク音量が適切かどうかを放送中でも確認することができます。

PEAK　入力レベルが –4.0 dB 以上の場合に表示
■　入力レベルが –20.0 dB 以上の場合に表示
　　入力レベルが –35.0 dB 以上の場合に表示

6. AUX ／チャイム表示エリア
AUX キーの機能およびチャイムキーの状態を表示します。

7. 放送状態表示エリア
本機に割り当てられた機能全体の放送状態を表示します。

8. ページ表示
現在ページ／総ページを表示します。

［アイコン表示一覧］

アイコン	名称	表示優先順位	アイコンの意味
	音声警報放送中	高	音声警報放送が行われています。
	他機放送中	↑	他機からの放送が行われています。
	放送中		本機によるマイク放送中、AUX 放送中、またはゾーン選択中（ゾーン選択をしてから行う放送の放送中を含む）です。 放送状態表示エリア（7）の表示と合わせてご確認ください。
ON	制御入力作動中	低	本機の制御入力がメイク状態であることを示します。 全体用アイコン表示エリア（4）専用のアイコンです。
	その他作動中	—	個別用アイコン表示エリア（3）にのみ表示されます。 液晶画面内の機能表示に割り当てられた機能が動作しています。

［放送状態表示一覧］

放送状態表示	表示の意味
放送中：n *	液晶画面内の機能表示に設定された放送先に本機からの放送が行われています。このとき、表示エリアは反転表示（例：放送中：1）になります。
放送中：一斉	一斉キーに設定された放送先に本機からの放送が行われています。このとき、表示エリアは反転表示（放送中：一斉）になります。
選択中：n *	液晶画面内の機能表示に設定された放送先が選択されています。
選択中：一斉	一斉キーに設定された放送先が選択されています。
待機中：n *	液晶画面内の機能表示に設定されたすべての放送先に、優先度が高い他の放送が行われ、本機からの放送ができない状態です。
待機中：一斉	一斉キーに設定されたすべての放送先に、優先度が高い他の放送が行われ、本機からの放送ができない状態です。

*「n」は放送が行われている液晶画面内の機能表示の数を示します。

［AUX ／チャイム表示一覧］

AUX 表示	表示の意味
AUX	AUX キーに自機の AUX 放送が設定されています。放送状態になると、AUX 表示エリアは反転表示（AUX）になります。
非表示	AUX キーに機能が設定されていません。AUX キーを押しても何も動作しません。

AUX 表示の下にチャイムキーの状態も表示します。

チャイムキー表示	表示の意味
C1	チャイム 1 キーの状態を表示します。 チャイム 1 キーがオンのときに反転表示（C1）になります。
C2	チャイム 2 キーの状態を表示します。 チャイム 2 キーがオンのときに反転表示（C2）になります。

■ ゾーン選択時の表示

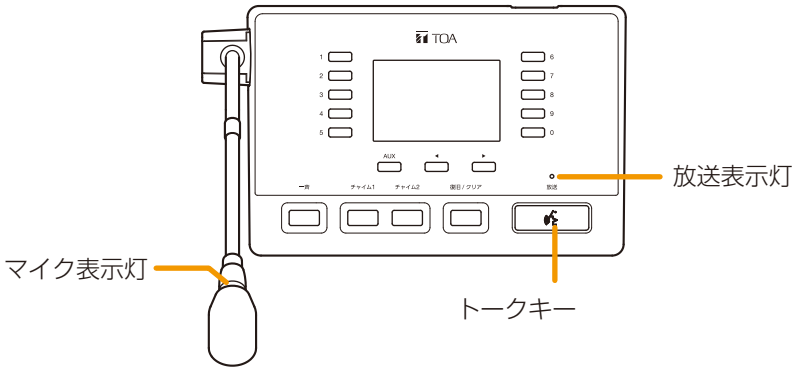
液晶画面の機能表示にゾーン選択（パターンまたは個別）の機能が割り当てられているとき、機能表示エリアおよび個別アイコン表示エリアの表示で、ゾーンの選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	1 ゾーン選択	ゾーン未選択
	反転表示	1 ゾーン選択	ゾーン選択中
アイコン表示	表示なし	―	この機能表示に設定されているゾーンが未使用または BGM 放送中
	他機放送中		以下のいずれかの場合 ● この機能表示に設定されているゾーンの一部またはすべてが他の機器（他のリモートマイクや業務 EV メッセージなど）で放送中、またはゾーンの一部が本機のマイクで放送中 ● この機能表示に設定されているゾーンがすべて他の「音声警報／業務」に設定されたリモートマイクで放送中 ● この機能表示に設定されているゾーンがすべて復旧メッセージで放送中
	放送中		この機能表示に設定されているゾーンがすべて本機で放送中
	音声警報放送中		以下のいずれかの場合 ● この機能表示に設定されているゾーンがすべて避難メッセージで放送中 ● この機能表示に設定されているゾーンがすべて警報メッセージで放送中

■ 放送表示灯とマイク表示灯



それぞれの表示灯の表示内容は、下記のとおりです。

表示灯	表示灯の状態	表示内容
マイク表示灯	消灯	トークキーの操作をしていないとき AUX 入力端子に接続したマイクからの音声を放送しているとき マイク表示灯を使用しない設定にしたとき
	点灯	本機のマイクによりマイク放送をしているとき
放送表示灯	消灯	トークキーの操作をしていないとき
	点灯	トークキーの操作によりマイク放送をしているとき

■ ベースパターン放送時の表示

液晶画面の機能表示にベースパターン放送の機能が割り当てられているとき、機能表示エリアおよび個別アイコン表示エリアの表示で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	2 ベース P	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	2 ベース P	この機能表示を選択したとき（反転表示後すぐに通常表示に戻ります。）
アイコン表示	表示なし	―	この機能表示に割り当てられたベースパターンが放送されていないとき
	その他作動中	✓	この機能表示に割り当てられたベースパターンが放送されているとき（他の機器から起動された場合を含む）

■ 業務パターン放送時の表示

液晶画面の機能表示に業務パターン放送の機能が割り当てられているとき、機能表示エリアおよび個別アイコン表示エリアの表示で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	3 業務パターン	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	3 業務パターン	この機能表示を選択したとき
アイコン表示	表示なし	―	この機能表示に割り当てられた業務放送パターンが放送されていないとき
	その他作動中	✓	この機能表示に割り当てられた業務放送パターンが放送されているとき

■ 業務／ BGM 音源放送時の表示

液晶画面の機能表示に業務／ BGM 音源放送の機能が割り当てられているとき、機能表示エリアおよび個別アイコン表示エリアの表示で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	4 業務 / BGM	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	4 業務 / BGM	この機能表示を選択したとき
アイコン表示	表示なし	—	この機能表示に割り当てられた業務／ BGM 音源放送が起動していないとき
	その他作動中	✓	この機能表示に設定されている業務／ BGM 放送の音源が、本機で選択したゾーン以外に放送されているとき
	他機放送中	🔊	この機能表示に設定されている業務／ BGM 放送の音源が、本機で選択したゾーンに一部でも放送されているとき

■ RM 放送状態表示時の表示

液晶画面の機能表示に、RM 放送状態表示の機能が割り当てられているとき、個別アイコン表示エリアの表示で、他のリモートマイクの現在の放送状態を表示します。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	5 RM 放送状態	常に通常表示（反転表示なし）
	反転表示なし	—	
アイコン表示	表示なし	—	この機能表示に割り当てられたリモートマイクが放送中でないとき
	その他作動中	✓	この機能表示に割り当てられたリモートマイクが放送中

■ 任意制御入力操作時の表示

液晶画面の機能表示に任意制御入力操作の機能が割り当てられているとき、機能表示エリアおよび個別アイコン表示エリアの表示で、選択と制御状態が分かります。

ご注意

反転表示のときに機能表示を選択しても、操作が無効になることがあります。
制御入力が他の機器からの操作で機能している場合などです。
通常表示になってから、もう一度機能表示を選択してください。
通常表示のときは、常に機能表示の選択操作が有効になります。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	6 任意制御入力	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	6 任意制御入力	この機能表示を選択したとき
アイコン表示	表示なし	―	この機能表示に割り当てられた制御入力が無効*状態のとき
	その他作動中	✓	この機能表示に割り当てられた制御入力が有効*状態のとき

* イベント設定で制御入力の極性が「NO」と設定されているとき、制御入力がメイクしている間有効となり、ブレイクのときは無効となります。
極性が「NC」と設定されているとき、キーは制御入力がブレイクしている間有効となり、メイクのときは無効となります。

■ 任意制御出力操作（PULSE）時の表示

任意の制御出力操作（PULSE）の機能が液晶画面の機能表示に割り当てられているとき、この機能表示を選択するとあらかじめ設定された制御出力がオンになります。もう一度この機能表示を選択するとオフになります。
任意の制御出力操作（PULSE）の機能が液晶画面の機能表示に割り当てられているときは、機能表示エリアおよび個別アイコン表示エリアの表示が選択と制御状態を表します。

ご注意

反転表示のときに機能表示を選択しても、操作が無効になることがあります。
制御出力パターンが他のイベントにより起動されている場合です。
通常表示になってから、もう一度機能表示を選択してください。
通常表示のときは常に機能表示の選択操作が有効になります。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	7 制御出力 P	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	7 制御出力 P	この機能表示を選択したとき
アイコン表示	表示なし	―	この機能表示に割り当てられた制御出力パターンが無効状態のとき
	その他作動中	✓	この機能表示に割り当てられた制御出力パターンが有効状態のとき

■ 任意制御出力操作（LEVEL）時の表示

任意の制御出力操作（LEVEL）の機能が液晶画面の機能表示に割り当てられているとき、この機能表示に対応する数字キーを押している間だけ、あらかじめ設定された制御出力がオンになります。この機能表示に対応する数字キーから指を離すとオフになります。
任意の制御出力操作（LEVEL）の機能が液晶画面の機能表示に割り当てられているときは、機能表示エリアおよび個別アイコン表示エリアの表示が選択と制御状態を表します。

ご注意

反転表示のときに機能表示を選択しても、操作が無効になることがあります。
制御出力パターンが他のイベントにより起動されている場合です。
通常表示になってから、もう一度機能表示を選択してください。
通常表示のときは常に機能表示の選択操作が有効になります。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

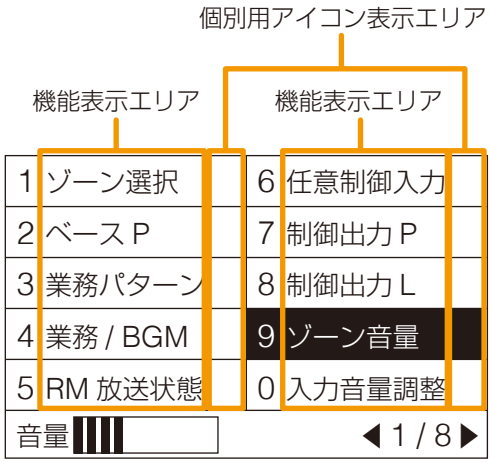
それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	8 制御出力 L	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	8 制御出力 L	この機能表示を選択したとき（この機能表示に対応する数字キーを押している間のみ）
アイコン表示	表示なし	―	この機能表示に割り当てられた制御出力パターンが無効状態のとき
	その他作動中	✓	この機能表示に割り当てられた制御出力パターンが有効状態のとき

■ ゾーン音量調整（PULSE）時の表示

ゾーン音量調整（PULSE）の機能が液晶画面の機能表示に割り当てられているとき、この機能を選択するとあらかじめ設定されたゾーンの音量を設定音量だけ増減します。
液晶画面下部の表示で音量調整状態を確認することができます。

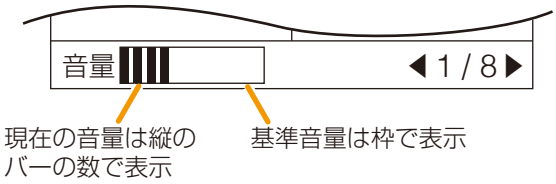
※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	9 ゾーン音量	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	9 ゾーン音量	この機能表示を選択したとき（この機能表示に対応する数字キーを押している間のみ）
アイコン表示	表示なし	―	常に表示されません。

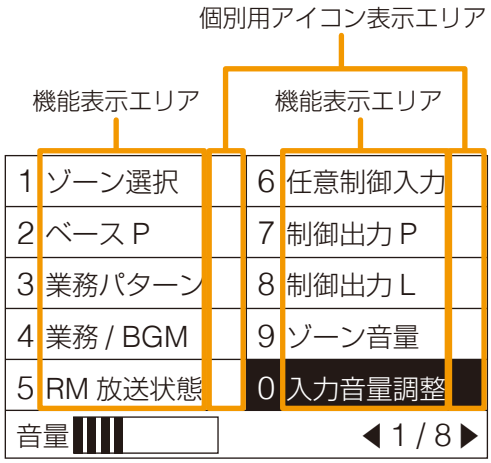
音量調整の操作をすると、下図のように、液晶画面に音量が約 3 秒間表示されます。



■ 入力音量調整（PULSE）時の表示

入力音量調整（PULSE）機能が液晶画面の機能表示に割り当てられているとき、この機能を選択すると、あらかじめ設定された入力チャネルの音量を設定音量だけ増減します。
液晶画面下部の表示で音量調整状態を確認することができます。

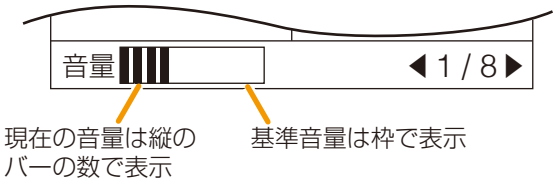
※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	0入力音量調整	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	0 入力音量調整	この機能表示を選択したとき（この機能表示に対応する数字キーを押している間のみ）
アイコン表示	表示なし	―	常に表示されません。

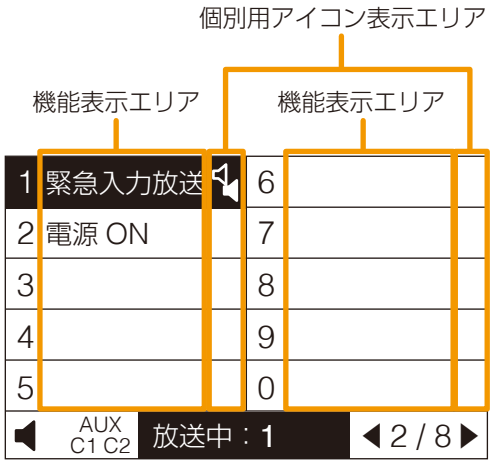
音量調整の操作をすると、下図のように、液晶画面に音量が約 3 秒間表示されます。



■ 緊急入力放送時の表示

液晶画面の機能表示に緊急入力放送の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられている機能表示を選択すると、緊急入力放送を起動することができます。
機能表示に緊急入力放送の機能が割り当てられているときは、機能表示エリアおよび個別アイコン表示エリアの表示で、選択状態と放送状態が分かります。

※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



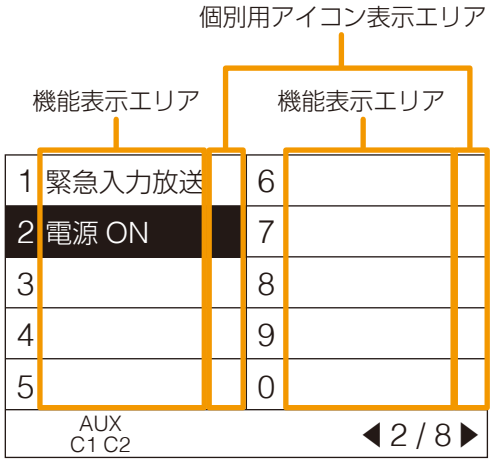
それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	1 緊急入力放送	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	1 緊急入力放送	この機能表示を選択したとき（この機能表示に対応する数字キーを押している間のみ）
アイコン表示	表示なし	—	この機能表示に割り当てられた緊急入力放送の音源がどのゾーンにも放送されていないとき
	その他作動中	✓	この機能表示に設定されている緊急入力放送の音源が、本機で選択したゾーン以外に放送されているとき
	他機放送中	🔈	この機能表示に設定されてい緊急入力放送の音源が、本機で選択したゾーンに一部でも放送されているとき

■ スリープモード 電源 ON 時の表示

システムでスリープモードを使用する設定にしているときに、液晶画面機能表示に「電源 ON」の機能を割り当てることができます。
この機能が割り当てられている機能表示をスリープ状態*のときに選択すると、「電源 ON」の機能が有効になり、「電源 ON」の機能が有効のときに選択を解除すると、スリープ状態*に戻ります。

※ スリープモードの使用設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。
※ 機能表示への機能の割り当て方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。



それぞれの表示エリアの表示内容は、下記のとおりです。

表示	表示の意味	表示例	表示内容
通常表示／反転表示	通常表示	2 電源 ON	この機能表示を選択していないとき
	反転表示	2 電源 ON	この機能表示を選択しているとき
アイコン表示	表示なし	—	他の機能表示または制御入力により「電源 ON」の機能が選択されていないとき
	その他作動中	✓	他の機能表示または制御入力により「電源 ON」の機能が選択されているとき

「電源 ON」機能の有効／無効は、機能表示エリアの表示と個別用アイコン表示エリアのアイコン表示の組み合わせでわかります。

表示			「電源 ON」機能	備考
通常表示／反転表示	アイコン表示			
通常表示	表示なし	2 電源 ON	無効	スリープ状態*
反転表示	表示なし	2 電源 ON	有効	この機能表示の選択操作により有効になっている状態
通常表示	その他作動中	2 電源 ON ✓	有効	他の機能表示の選択操作または制御入力により有効になっている状態
反転表示	その他作動中	2 電源 ON ✓	有効	この機能表示の選択操作、および他の機能表示の選択操作または制御入力により有効になっている状態

* 放送中のみアンプ電源がオンになる状態

第 3 章

操作のしかた

BGM 放送と業務放送のしかた

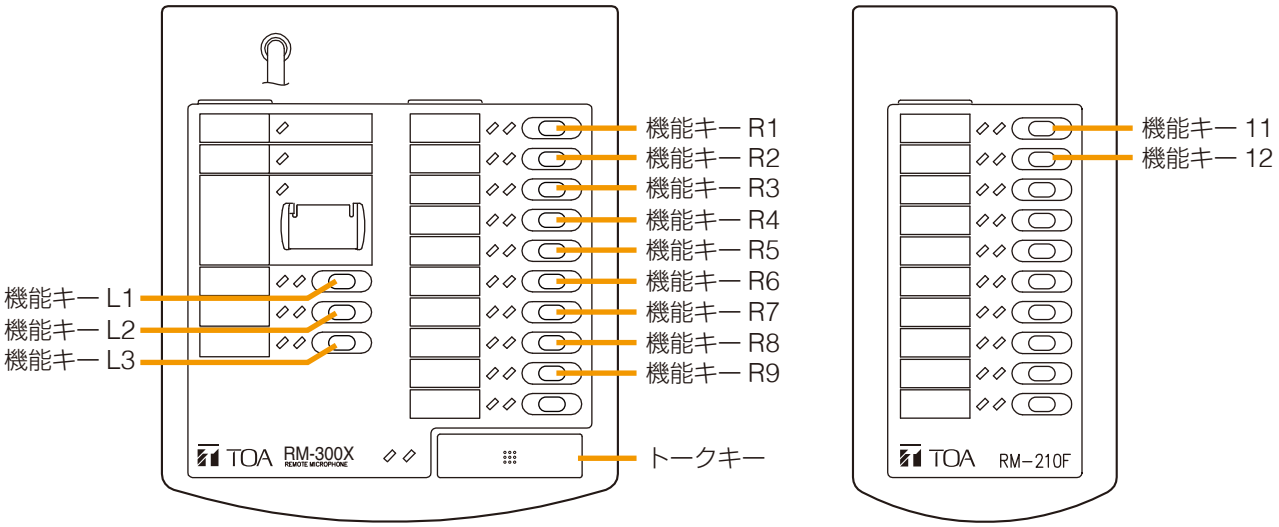
■ リモートマイクまたはコントロールパネルから放送する

リモートマイク RM-200SF、RM-500、RM-300X、およびリモートマイク拡張ユニット RM-220FW、RM-210F の機能キーを使って、マイク放送、BGM 放送（変更、終了）、業務パターン放送の起動・停止、および業務／ BGM 音源放送の起動・停止などができます。
また、コントロールパネル VX-3000CT の機能キーを使って、BGM 放送（変更、終了）、業務パターン放送の起動・停止、および業務／ BGM 音源放送の起動・停止などができます。
機能キーへの機能の設定方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。ここでは RM-300X と RM-210F を例に説明しますが、基本的な操作や表示は RM-200SF と RM-220FW も同様です。VX-3000CT の場合も、マイク放送はできませんが、それ以外の BGM 放送と業務放送については同様に行えます。RM-500 については、基本的な操作は P. 3-10、表示は P. 2-61 をお読みください。

■ 設定例

[リモートマイクの機能キーへの設定例]

キー	項目名	機能
機能キー R1	ゾーン 1、2、3	ゾーン選択（パターン）
機能キー R2	ゾーン 1	ゾーン選択（個別）
機能キー R3	ゾーン 2	ゾーン選択（個別）
機能キー R4	ゾーン 3	ゾーン選択（個別）
機能キー R5	ゾーン選択一括クリア	選択されているゾーンを解除します。
機能キー R6	業務放送パターン 1	業務放送パターン 1 の放送起動・停止
機能キー R7	業務／ BGM 音源放送	業務または BGM 用途の音源の放送起動・停止
機能キー R8	ゾーン 1 音量アップ	ゾーン音量の調整（PULSE）
機能キー R9	ゾーン 1 音量ダウン	ゾーン音量の調整（PULSE）
機能キー 11	入力 1 音量アップ	入力音量の調整（PULSE）
機能キー 12	入力 1 音量ダウン	入力音量の調整（PULSE）
機能キー L1	ベースパターン 1	ベースパターン 1 の起動
機能キー L2	ベースパターン 2	ベースパターン 2 の起動
機能キー L3	ベースパターン停止	ベースパターンの終了
トークキー		ロック式、開始チャイム：1、終了チャイム：なし



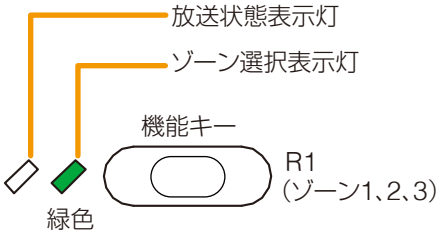
■ 操作例

● 選択ゾーン（パターン）へのマイク放送の例

1 機能キー R1（ゾーン 1、2、3）を押す。

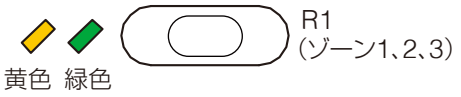
設定されているすべてのゾーンが選択され、機能キー R1 のゾーン選択表示灯が緑色に点灯します。

※ 選択を解除するときは、機能キー R1 をもう一度押すか、または機能キー R5（ゾーンクリア）を押します。
ゾーン選択表示灯が消灯します。



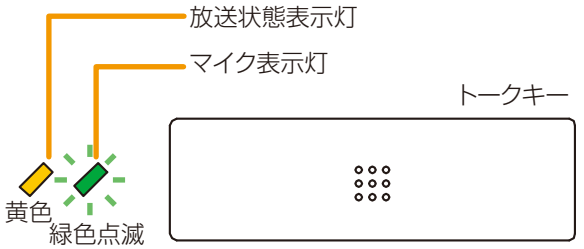
2 トークキーを押す。

チャイム音が放送されます。
このとき、RM-300X に内蔵されているスピーカーからチャイム音が聞こえます。



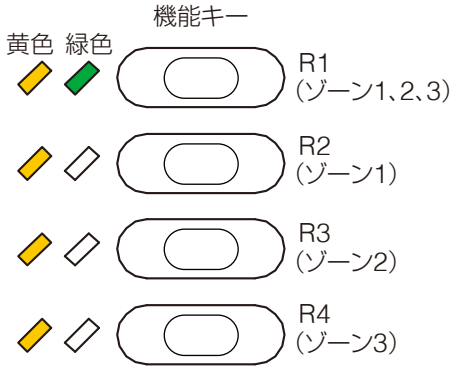
チャイム放送中は、マイク表示灯が緑色に点滅します。

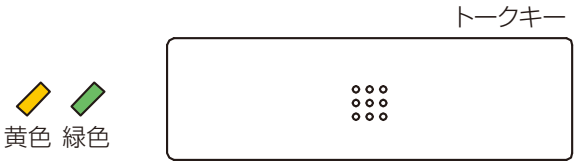
※ チャイム放送中にもう一度トークキーを押すと、チャイムが停止して放送が終了します。



3 トークキーのマイク表示灯が緑色の点灯に変わったら、マイク放送を行う。

機能キー R2 ～ R4 のゾーン設定は、機能キー R1 のゾーン選択パターンに含まれます。そのため、機能キー R2 ～ R4 の放送状態表示灯も同様に黄色に点灯します。





4 トークキーを押す。

放送が終了します。

5 機能キー R5（ゾーンクリア）を押す。

ゾーン選択が解除されます。

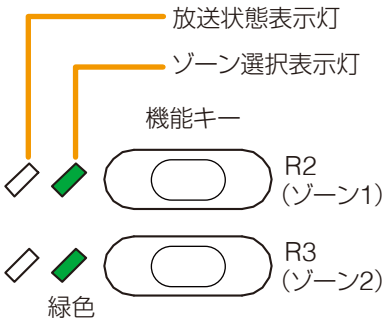
※ ゾーン選択状態をそのまま残したいときは、ゾーンクリアの操作をする必要はありません。

● 選択ゾーン（個別）へのマイク放送の例

1 機能キー R2（ゾーン 1）と機能キー R3（ゾーン 2）を押す。

ゾーン 1、2 が選択され、それぞれのゾーン選択表示灯が緑色に点灯します。

※ 選択を解除するときは、解除したいゾーンの機能キーをもう一度押します。そのキーのゾーン選択表示灯が消灯します。
すべての選択を解除するときは、機能キー R5（ゾーンクリア）を押します。両方のゾーン選択表示灯が消灯します。

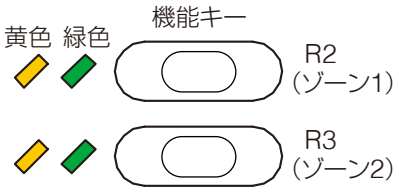


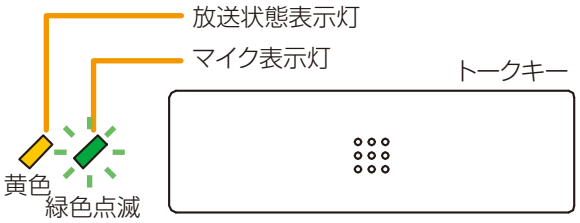
2 トークキーを押す。

チャイム音が放送されます。
このとき、RM-300X に内蔵されているスピーカーからチャイム音が聞こえます。

チャイム放送中は、マイク表示灯が緑色に点滅します。

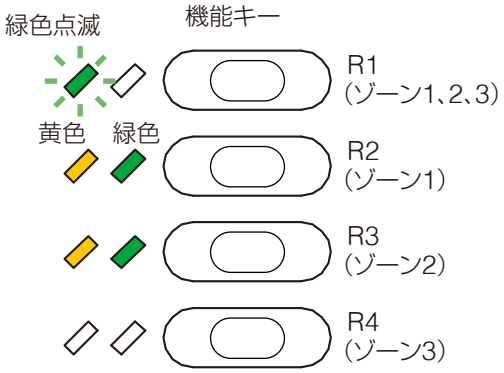
※ チャイム放送中にもう一度トークキーを押すと、チャイムが停止して放送が終了します。

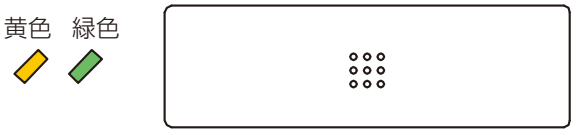




3 トークキーのマイク表示灯が緑色の点灯に変わったら、マイク放送を行う。

機能キー R1 の放送状態表示灯は、設定されているパターンの一部が放送状態になるため、緑色の点滅になります。





4 トークキーを押す。

放送が終了します。

5 機能キー R5（ゾーンクリア）を押す。

ゾーン選択が解除されます。

※ ゾーン選択状態をそのまま残したいときは、ゾーンクリアの操作をする必要はありません。

● あらかじめ設定されたゾーンへマイク放送をする例

放送するゾーンパターンまたは個別のゾーンをトークキーに前もって設定しておくと、トークキーを押すだけであらかじめ設定されたゾーンにリモートマイクから放送することができます。

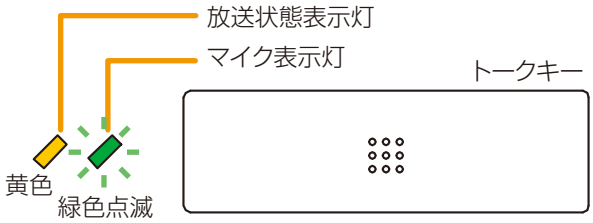
※ ゾーンパターンまたは個別のゾーンをトークキーに割り当てる方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書の「イベント設定」をお読みください。

1 **トークキーを押す。**

トークキーにあらかじめ設定されたゾーンが選択され、チャイム音が放送されます。RM-300X に内蔵されているスピーカーからチャイム音が聞こえます。

チャイム起動中は､マイク表示灯が緑色に点滅します。

※ チャイム起動中に、もう一度トークキーを押すとチャイムが止まり、放送を終了します。



2 **トークキー横のマイク表示灯が緑色に点灯したら、マイク放送をする。**

3 **トークキーを押す。**

放送が終了します。

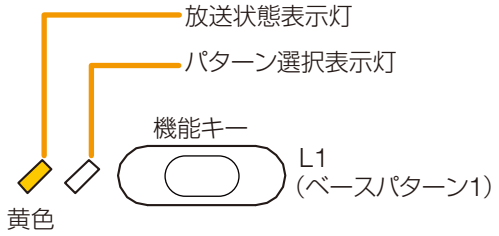
● BGM 放送の例

例えば、午前中にベースパターン 1 の BGM 放送を行い、午後にベースパターン 2 の BGM 放送に切り換えた後、BGM 放送を終了するときは、次の手順で操作します。

1 機能キー L1（ベースパターン 1）を押す。

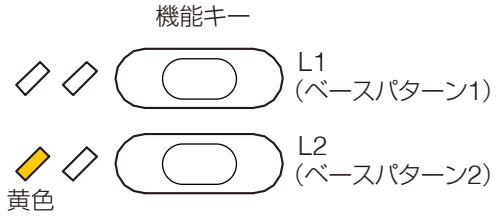
ベースパターン 1 が選択され、起動します。
機能キー L1 のパターン選択表示灯が緑色に点灯して消灯した後、放送状態表示灯が黄色に点灯します。

※ 選択を解除するときは、機能キー L3（ベースパターン停止）を押します。
放送状態表示灯が消灯します。



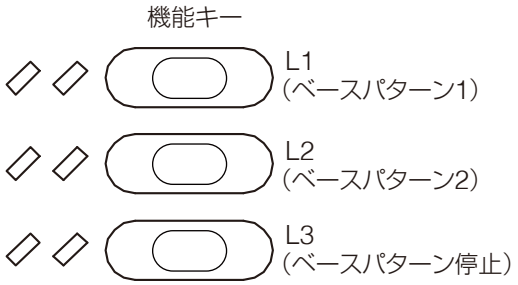
2 機能キー L2（ベースパターン 2）を押す。

ベースパターン 2 が選択され、ベースパターン 1 が終了して、ベースパターン 2 が起動します。
機能キー L2 のパターン選択表示灯が緑色に点灯して消灯した後、放送状態表示灯が黄色に点灯します。
機能キー L1 の放送状態表示灯は消灯します。



3 機能キー L3（ベースパターン停止）を押す。

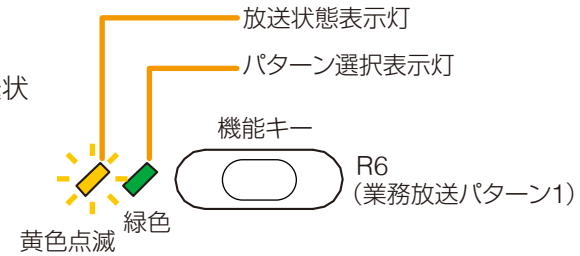
BGM が終了します。
すべての表示灯が消灯します。



● 業務放送の例

1 機能キー R6（業務放送パターン 1）を押す。

業務放送パターン 1 が選択され、起動します。
機能キー R6 のパターン選択表示灯が緑色に点灯、放送状態表示灯が黄色に点滅します。



2 機能キー R6（業務放送パターン 1）をもう一度押す。

起動中の業務放送パターン 1 が停止します。
機能キー R6 のパターン選択表示灯と放送状態表示灯が消灯します。

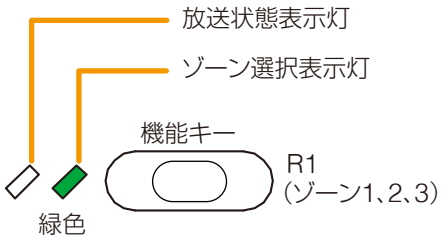
● 業務／ BGM 音源放送の例

ここでは、ゾーンパターンを使用した例について説明します。

1 機能キー R1（ゾーン 1、2、3）を押す。

設定されてるすべてのゾーンが選択され、機能キー R1 のゾーン選択表示灯が緑色に点灯します。

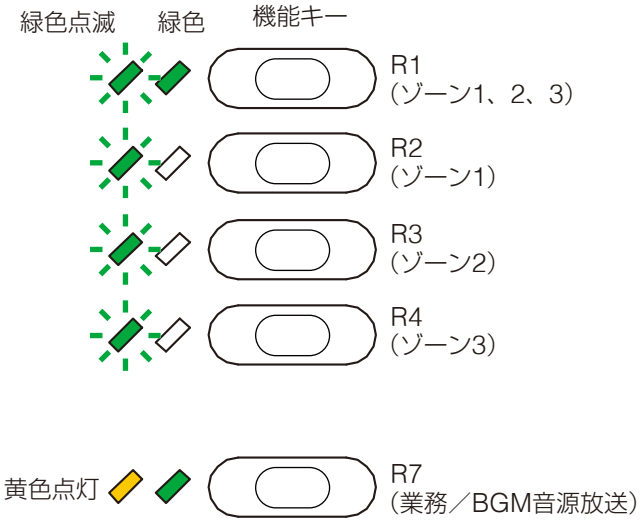
※ 選択を解除するときは、機能キー R1 をもう一度押すか、または機能キー R5（ゾーンクリア）を押します。ゾーン選択表示灯が消灯します。



2 機能キー R7（業務／ BGM 音源放送）を押す。

選択したゾーンに業務または BGM 用途の音源が放送されます。
機能キー R7 の選択表示灯が緑色に点灯、放送状態表示灯が黄色に点灯します。
また、機能キー R1、R2、R3、R4 の放送状態表示灯が緑色に点滅します。

メ　モ
リモートマイクからのマイク放送中にこの操作を行った場合、業務／ BGM 音源放送に割り当てられた音源の優先度の方が高いときは、マイク放送が終了します。

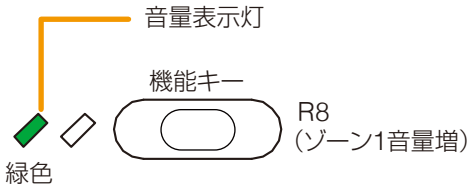


● ゾーン音量調整の例

[あらかじめ設定されたゾーンの音量を上げるとき]

手順：希望の音量になるまで、機能キー R8（ゾーン 1 音量増）を何回か押す。

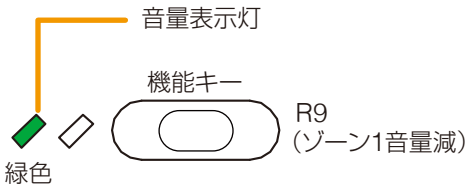
押すたびに、設定されたゾーンまたはゾーンパターンの音量が設定された音量幅だけ増加します。
ゾーンの音量が初期値*より大きくなると、音量表示灯が緑色に点灯します。



[あらかじめ設定されたゾーンの音量を下げるとき]

手順：希望の音量になるまで、機能キー R9（ゾーン 1 音量減）を何回か押す。

押すたびに、設定されたゾーンまたはゾーンパターンの音量が設定された音量幅だけ減少します。
ゾーンの音量が初期値*より小さくなると、音量表示灯が緑色に点灯します。



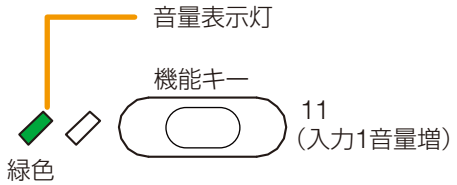
* VX-3000 設定ソフトウェアの「音質音量調整設定（OUT）」で設定した音量

● 入力音量調整の例

[あらかじめ設定された入力チャンネルの音量レベルを上げるとき]

手順：希望の音量になるまで、機能キー 11（入力 1 音量増）を何回か押す。

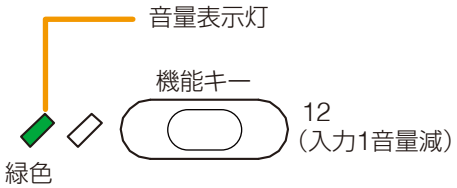
押すたびに、設定された入力チャンネルの音量が設定された音量幅だけ増加します。
その入力チャンネルの音量が初期値*より大きくなると、音量表示灯が緑色に点灯します。



[あらかじめ設定されたゾーンの音量を下げるとき]

手順：希望の音量になるまで、機能キー 12（入力 1 音量減）を何回か押す。

押すたびに、設定された入力チャンネルの音量が設定された音量幅だけ減少します。
その入力チャンネルの音量が初期値*より小さくなると、音量表示灯が緑色に点灯します。



* VX-3000 設定ソフトウェアの「音質音量調整設定（IN）」で設定した音量

■ 緊急入力放送

リモートマイクのキーまたはコントロールパネルの機能キーから、緊急入力放送を起動することができます。キーを押している間だけ、あらかじめ設定された VX-3000F の音声入力の音源を、あらかじめ設定されたゾーンに放送できます。
停電状態でも使用でき、アッテネーターを使用するゾーンへ放送するときは、アッテネーターをバイパスして放送します。
緊急入力放送が音声警報放送よりも高い優先度に設定されている場合は、音声警報放送中でも、音声警報モードのまま、割り込んで放送することができます。
優先度の高い放送が行われているときに緊急入力放送を起動すると、待機状態となり、優先度の高い放送が終わってから緊急入力放送が行われます。
業務放送中に緊急入力放送が起動した場合に、通常モードのままか音声警報モードに切り換わるかは、緊急入力放送時の動作設定*により異なります。

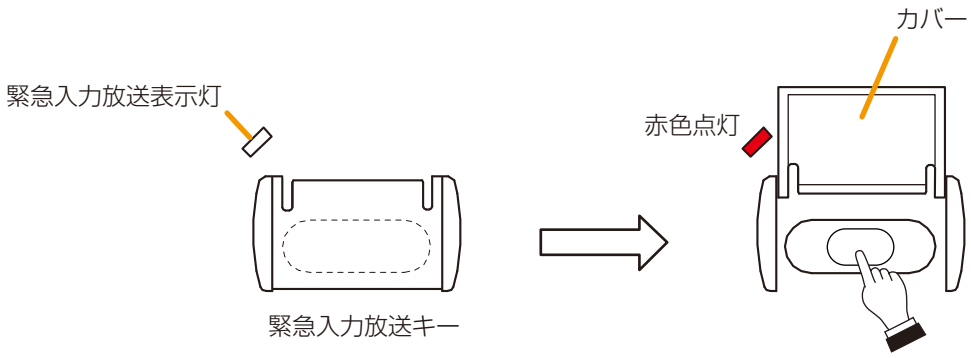
* 詳しくは別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「緊急入力放送」をお読みください。

[緊急入力放送の操作例]

RM-300X のカバー付きキーに「緊急入力放送」が設定されているときの例です。

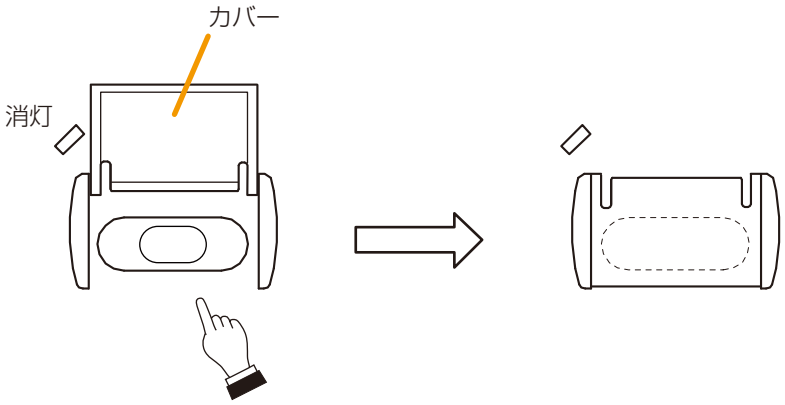
1 カバーを開けて、緊急入力キーを押し続ける。

押している間、緊急入力放送が行われ、緊急入力放送表示灯が赤色に点灯します。



2 緊急入力放送キーから指を離し、カバーを閉じる。

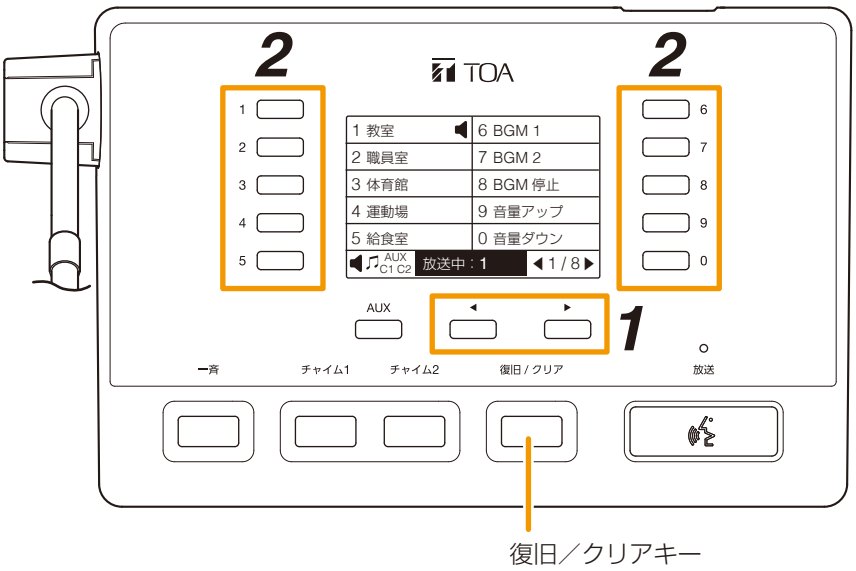
緊急入力放送が終了し、緊急入力放送表示灯が消灯します。



RM-500 の操作のしかた

■ 液晶画面内の項目の選択のしかた

RM-500 の液晶画面内にはあらかじめ登録された機能リストが表示されています。



1 ◀キーまたは▶キーを何度か押して、選択したい項目があるページを表示させる。

2 選択したい項目の番号に該当する数字キーを押して選択する。

3 引き続き選択するときは手順 1 と 2 を必要なだけ繰り返す。

メ　モ

- 個別に選択を解除したいときは、同じ項目の番号に該当する数字キーをもう一度押します。
- 復旧／クリアキーに「ゾーン選択一括クリア」機能が割り当てられている場合は、復旧／クリアキーを押すと、すべてのゾーンの選択が解除されます。機能の割り当てについては、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

■ マイク放送のしかた

● 放送ゾーンを選択してマイク放送をする場合

1 放送ゾーンを選択する。

1-1 個別ゾーンまたはパターンを選んで放送するとき

液晶画面に表示された機能リストから選択します。（☞ P. 3-10「液晶画面内の項目の選択のしかた」）

1-2 一斉キーに設定されたゾーンに放送するとき

一斉キーを押します。

メ　モ

一斉キーにはゾーン選択（パターンまたは個別）が設定できます。

2 マイク放送を開始する。

トークキーを押します。（マイク放送の開始）
トークキーが PTT 式に設定されているときは、キーを押しながら放送します。
トークキーがロック式に設定されているときは、キーを一度押し、キーから指を離して放送します。
開始チャイムを設定しているときは、トークキーを押すと同時に設定されたチャイム音が鳴ります。
チャイムが鳴っている間、液晶画面のチャイム表示エリアにチャイムマークが表示されます。
放送表示灯が点灯したら、マイク放送が可能になります。

3 マイク放送を終了する。

PTT 式のときはトークキーから指を離します。ロック式のときはもう一度トークキーを押します。（マイク放送の終了）
放送が終了します。
終了チャイムを設定しているときは、放送終了時にチャイムが流れます。

4 放送ゾーンの選択を解除する。

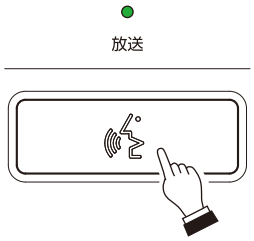
復旧／クリアキーにゾーン選択一括クリアの機能が設定されている場合は、復旧／クリアキーを押します。
液晶画面の機能リストにゾーン選択一括クリアの機能がある場合は、その番号を選択します。（☞ P. 3-10「液晶画面内の項目の選択のしかた」）
ゾーン選択が解除されます。

● あらかじめ設定されたゾーンへマイク放送をする場合

放送するゾーンパターンまたは個別のゾーンをトークキーにあらかじめ設定しておくと、トークキーを押すだけであらかじめ設定されたゾーンにリモートマイクから放送することができます。

1 マイク放送を開始する。

トークキーを押します。（マイク放送の開始）
トークキーが PTT 式に設定されているときは、キーを押しながら放送します。
トークキーがロック式に設定されているときは、キーを一度押し、キーから指を離して放送します。
開始チャイムを設定しているときは、トークキーを押すと同時に設定されたチャイム音が鳴ります。
チャイムが鳴っている間、液晶画面のチャイム表示エリアにチャイムマークが表示されます。
放送表示灯が点灯したら、あらかじめ設定されたゾーンへのマイク放送が可能になります。

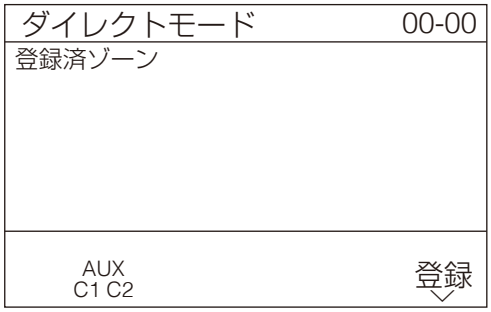


2 マイク放送を終了する。

PTT 式のときはトークキーから指を離します。ロック式のときはもう一度トークキーを押します。（マイク放送の終了）
放送が終了します。
終了チャイムを設定しているときは、放送終了時にチャイムが流れます。
マイク放送が終了すると、放送ゾーンの選択が解除されます。

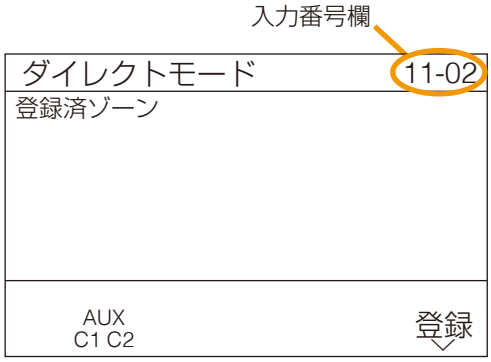
■ ダイレクト選択モードでの放送のしかた

ダイレクト選択モードに設定されている場合は、放送ゾーンの選択のしかたが以下のように変わります。



1 **数字キーを押して、放送したい回線番号を入力する。**

回線番号は VX-3000F の ID 番号とゾーン番号で表します。
例えば、ID：11 の VX-3000F のゾーン 2 の場合は、「1102」と入力します。

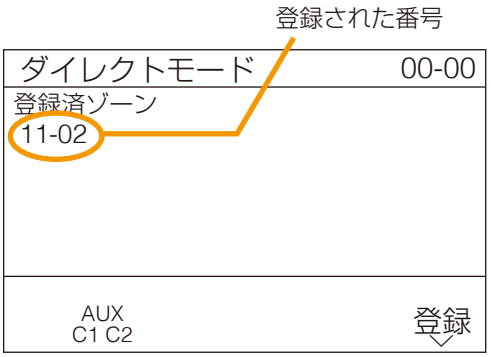


画面右上の入力番号欄に、入力した回線番号が表示されます。

2 **▶キーを押して登録する。**

メ　モ

入力中の番号が表示されている状態で、復旧／クリアキーを押すと、入力中の番号が削除されます。



入力した回線番号が放送階として登録され、入力番号欄は初期値の「00-00」に戻ります。
ただし、他機放送中などのために指定した回線が選択できなかったときは、登録済ゾーンには追加されず、入力番号欄のみ初期値の「00-00」に戻ります。

3 **複数の回線に放送するときは、手順 1 と 2 を繰り返す。**

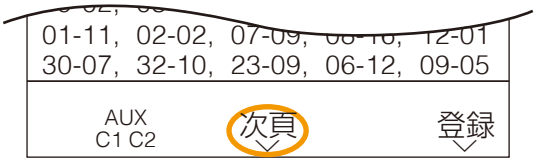
最大 80 の放送先を指定できます。

メ　モ

登録した回線を削除したいときは、削除したい回線をもう 1 度入力し、▶キーを押してください。

メ　モ

- 液晶画面の 1 ページには登録された回線が 30 回線分表示できます。
  30 回線を超えると、画面下中央に「次頁」と表示されます。
  そのときは、◀キーを押すと、表示ページを切り換えられます。



- マイク放送、AUX 放送ともに、放送階の選択のしかたが変わるだけで、トークキー、AUX キーなどの使いかたは P. 3-11「放送ゾーンを選択してマイク放送をする場合」、P. 3-14「AUX キーに業務／ BGM 音源放送が設定されている場合」と同じです。
  また、一斉区域への放送は一斉キーを使用して行えます。

■ AUX 放送のしかた

AUX キーに自機の AUX 入力を音源とする業務放送パターンまたは業務／ BGM 音源放送が設定されている場合、AUX 入力からの音声を放送できます。
AUX キーが使用できる設定になっている場合は、液晶画面の AUX 表示エリアに「AUX」と表示されます。

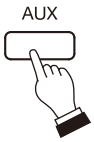
ご注意

AUX 放送をしながらマイク放送をすることはできません。
マイク放送の方が高い優先度に設定されているときは、マイク放送を開始すると AUX キーに設定された業務放送パターンが終了します。

● AUX キーに業務パターン放送が設定されている場合

1 AUX キーを押す。

AUX キーに設定された業務放送パターンが起動します。
AUX 表示エリアの「AUX」の文字が反転表示に変わり、業務パターンに設定されたゾーンに AUX 入力からの音声が放送されます。



2 終了させるときは、もう一度 AUX キーを押す。

AUX 入力からの放送が終了します。
AUX 表示エリアの「AUX」の文字は元の表示に戻ります。

● AUX キーに業務／ BGM 音源放送が設定されている場合

1 放送ゾーンを選択する。

1-1 個別ゾーンまたはパターンを選んで放送するとき

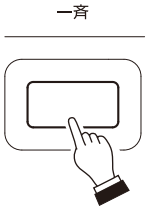
液晶画面に表示された機能リストから選択します。（☞ P. 3-10「液晶画面内の項目の選択のしかた」）

1-2 一斉キーに設定されたゾーンに放送するとき

一斉キーを押します。

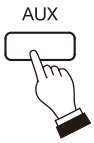
メ　モ

一斉キーにはゾーン選択（パターンまたは個別）が設定できます。



2 AUX キーを押す。

AUX 表示エリアの「AUX」の文字が反転表示に変わり、選択したゾーンに AUX 入力からの音声が放送されます。



3 終了させるときは、もう一度 AUX キーを押す。

AUX 入力からの放送が終了します。
AUX 表示エリアの「AUX」の文字は元の表示に戻ります。

■ 各種機能の起動のしかた

液晶画面で選択できる項目として、以下の機能を設定できます。

業務パターン放送、ベースパターン放送、ベースパターン停止、ゾーン音量調整（PULSE）、入力音量調整（PULSE）、緊急入力放送、RM 放送状態表示、業務／ BGM 音源放送、ゾーン選択（パターン）、ゾーン選択（個別）、ゾーン選択一括クリア、任意制御入力操作、任意制御出力操作（PULSE）、任意制御出力操作（LEVEL）、電源 ON

また、以下のキーにもそれぞれ以下の機能を設定できます。

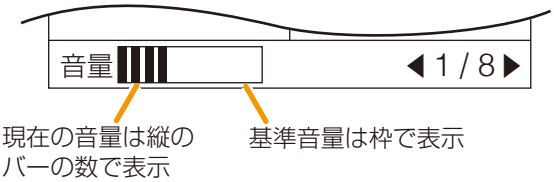
一斉キー　：ゾーン選択（パターン）、ゾーン選択（個別）
放送復旧／クリアキー　：ゾーン選択一括クリア
AUX キー　：業務パターン放送*1、業務／ BGM 音源放送*1

*1 AUX キーで起動する放送に使用できる音源は自機の AUX 入力に限ります。

機能を選択するときに、液晶画面または一斉キー、放送復旧／クリアキー、AUX キーを使用して行うこと以外は、RM-500 の場合も、機能の使いかたは RM-200SF、RM-300X などの場合と同様です。

業務パターン放送	☞ P. 3-6「業務放送の例」」
ベースパターン放送、ベースパターン停止	☞ P. 3-6「BGM 放送の例」
ゾーン音量調整（PULSE）*2	☞ P. 3-7「ゾーン音量調整の例」
入力音量調整（PULSE）*2	☞ P. 3-8「入力音量調整の例」
緊急入力放送	☞ P. 3-9「緊急入力放送」
業務／ BGM 音源放送	☞ P. 3-7「業務／ BGM 音源放送の例」
任意制御入力操作	☞ P. 3-34「任意の制御入力を操作する」
任意制御出力操作（PULSE）	☞ P. 3-34「任意の制御出力（PULSE）を操作する」
任意制御出力操作（LEVEL）	☞ P. 3-35「任意の制御出力（LEVEL）を操作する」
RM 放送状態表示*3	☞ P. 2-68「RM 放送状態表示時の表示」
電源 ON	☞ P. 3-36「アンプのスリープ状態と「電源 ON」の機能の有効を切り換える」

*2 音量調整の操作をすると、下図のように、液晶画面に音量が約 3 秒間表示されます。



*3 表示のみの機能です。

ゾーン選択（パターン）、ゾーン選択（個別）、ゾーン選択一括クリアの各機能については、P. 3-11「マイク放送のしかた」、P. 3-14「AUX 放送のしかた」で記載したとおりです。

■ キーロックのしかた

キーロック機能を「使用する」に設定したときに、キーロック機能を使用できます。（☞ 別冊の設置説明書「RM-500 のメニュー画面での設定のしかた」）
キーロックをすることにより、キーロック解除操作以外の操作を無効にすることができます。
キーロック中は液晶画面に「キーロック中」と表示されます。

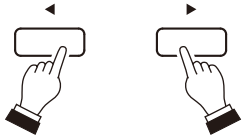
1 会議室	6 理科室
2 図書室	7 体育館
3 職員室	8 運動場
4 音楽室	9 給食室
5 図工室	0 教室
AUX C1 C2	◀ 1 / 8 ▶

キーロック中

メ　モ
電源の供給を停止しても、キーロック状態は保持されます。

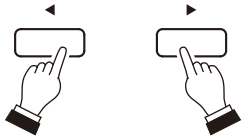
● キーロックをするとき

手順：「キーロック中」が表示されていないときに、◀キーと▶キーを「キーロック中」が表示されるまで同時に押し続ける。



● キーロックを解除するとき

手順：「キーロック中」が表示されているときに、◀キーと▶キーを「キーロック中」が表示されなくなるまで同時に押し続ける。



音声警報放送のしかた

■ 音声警報放送とは

音声警報放送とは、システムで音声警報放送を使用する設定にしているときに、BGM 放送や業務放送よりも高い優先度で行うことができる放送です。
音声警報放送は、あらかじめ音声警報放送パターンを設定し、設定されたパターンを起動させて放送します。
音声警報放送パターンは、音声警報シーケンス、出力ゾーン（個別またはパターン）、制御出力パターンを組み合わせて使用します。
音声警報シーケンスは、EV メッセージ（音源）とその放送時間との組み合わせを 1 つのフェーズとして設定し、最大 3 段階のフェーズで構成します。

[音声警報放送パターンの構成]

音声警報放送パターン	音声警報シーケンス	第 1 フェーズ	第 2 フェーズ	第 3 フェーズ
		EV メッセージ + 放送時間	EV メッセージ + 放送時間	EV メッセージ + 放送時間
	出力ゾーン	個別または パターン（複数のゾーン）	個別または パターン（複数のゾーン）	個別または パターン（複数のゾーン）
	制御出力パターン	複数の制御出力	複数の制御出力	複数の制御出力

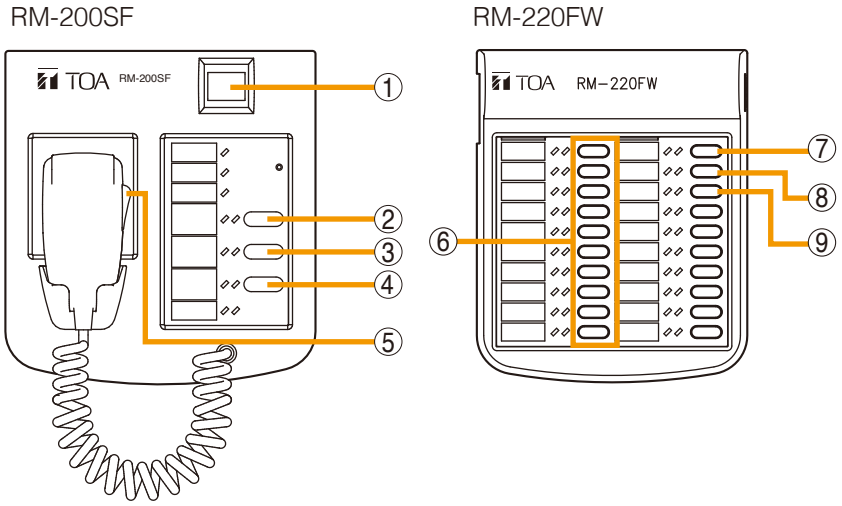
それぞれの設定方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「音声警報放送」をお読みください。

■ リモートマイクの操作例

音声警報モードは、タイプが「音声警報」または「音声警報／業務」に設定されたどのリモートマイクからでも、起動またはリセットできます。

ここでは、以下の RM-200SF と RM-220FW の設定例をもとに、音声警報モードに関する操作と表示について説明します。

[リモートマイクの設定例]



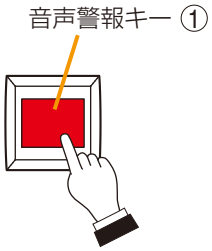
キー	設定	機能
(1)	音声警報放送パターン起動	音声警報モードを起動し、音声警報シーケンスパターンを呼び出します。 [パターン内容] フェーズ 1：警報メッセージ、全ゾーン、5 分 フェーズ 2：避難メッセージ、全ゾーン、連続
(2)	音声警報シーケンスフェーズ移行	現在放送中のシーケンスパターンのフェーズを次のフェーズに移行します。
(3)	音声警報復旧（復旧メッセージ）	復旧メッセージ放送後、音声警報モードから業務モードに復旧します。
(4)	全ゾーン選択	全ゾーンを選択します。
(5)	PTT	マイク放送をします。
(6)	ゾーン選択	個別のゾーンまたはゾーンパターンを選択します。
(7)	音声警報 EV 放送	警報メッセージを放送します。
(8)	音声警報受理	音声警報受理を実行し、ブザーを停止させます。
(9)	制御入力からの音声警報起動無効	制御入力からの音声警報起動を無効にします。

各キーへの機能の設定方法については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

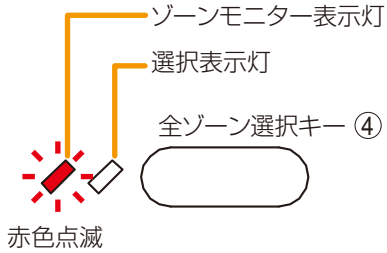
[操作例 1]

音声警報モードの起動から復帰までのシステム操作手順は以下のとおりです。

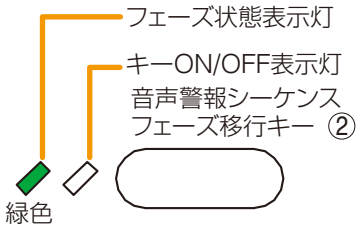
1 音声警報キー（1）を押す。



- 音声警報モードが起動され、音声警報キーが赤色に点灯します。
- あらかじめ構成された音声警報シーケンスパターンが呼び出され、全ゾーンに警報メッセージが放送されます。

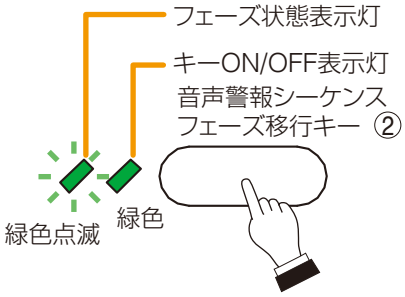


- 全ゾーン選択キー（4）のゾーンモニター表示灯は現在放送中のメッセージタイプを表しています。赤色点滅は、警告メッセージが現在放送されていることを示しています。



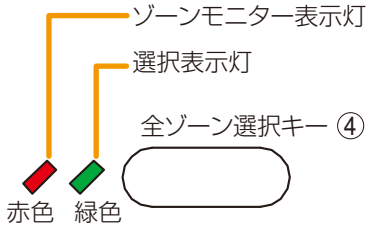
- 音声警報シーケンスフェーズ 1 が放送されているときは、音声警報シーケンスフェーズ移行キー（2）のフェーズ状態表示灯が緑色に点灯します。

2 必要に応じて、音声警報シーケンスフェーズ移行キー（2）を押して避難メッセージを放送する。



（何もしない状態が 5 分続くと、音声警報シーケンス機能により自動的に現在のメッセージから避難メッセージに切り換わります。）

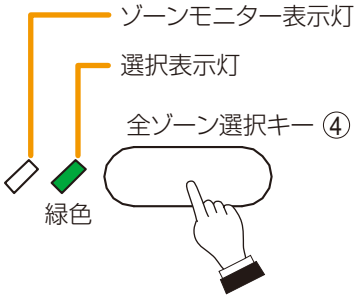
避難メッセージが、全ゾーンに放送されます。この場合、放送パターンは音声警報シーケンスフェーズ 1 からフェーズ 2 に移行し、フェーズ状態表示灯が緑色に点滅します。



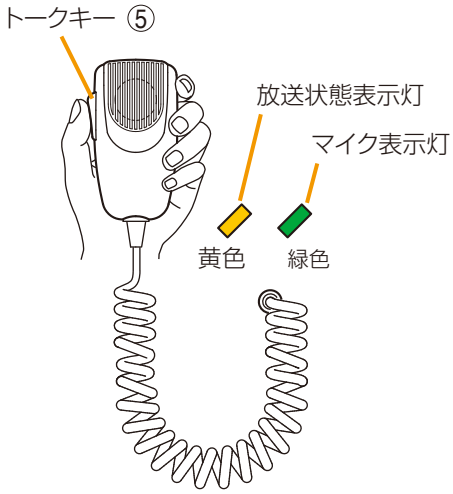
全ゾーン選択キー（4）のゾーンモニター表示灯は現在放送中のメッセージタイプを表しています。
赤色点滅が赤色点灯状態になると、避難メッセージが放送されていることを表します。

3 RM-200SF から放送を行うときは、次の手順で操作する。

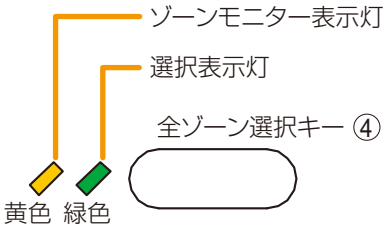
● 全ゾーン選択キー（4）を押して全ゾーンを選択します。
このとき、選択表示灯が点灯します。



● トークキー（5）を押し、全ゾーンにアナウンス放送をします。
このとき、放送状態表示灯が黄色に点灯し、マイク表示灯が緑色に点灯します。



● また、全ゾーン選択キー（4）のゾーンモニター表示灯が黄色に点灯します。

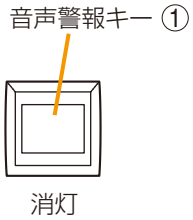


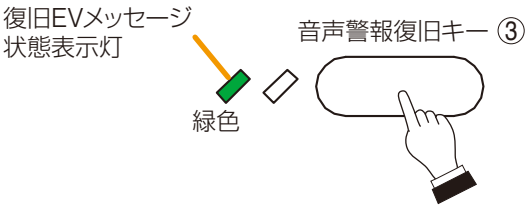
メ　モ

音声警報マイク放送によりメッセージ放送が中断されたとき、音声警報マイク放送終了後の放送モードを連続 EV メッセージ放送の「連続」または放送終了の「無音」に設定することができます。この設定は VX-3000 設定ソフトウェアで行うことができます。

4 音声警報放送状態を終了する。

音声警報復旧キー（3）を押します。
全ゾーンに復旧メッセージが放送され、メッセージ放送中は音声警報復旧キー（3）の復旧 EV メッセージ状態表示灯が点灯します。
メッセージ放送終了後、VX-3000 システムは音声警報モードから業務モードに復旧し、音声警報キー内の音声警報放送状態表示灯（1）が消灯します。





[操作例 2（音声警報放送の操作例）]

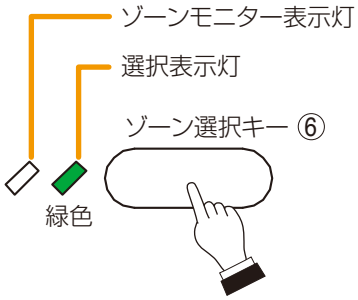
システムが音声警報モードのときに、放送ゾーンを指定して音声警報 EV メッセージを放送することができます。

ご注意

業務放送中に以下の操作をしても、音声警報 EV メッセージを放送することはできません。

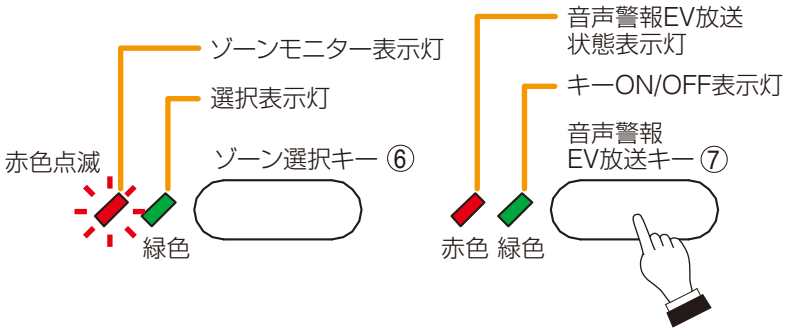
1 放送するゾーンを選択する。

1 つまたは複数のゾーン選択キーを押してください。
押したキーのゾーン選択表示灯が点灯します。



2 音声警報 EV 放送キーを押す。

音声警報 EV メッセージが選択したゾーンに放送されます。
音声警報 EV 放送キーのキー ON/OFF 表示灯が緑色に点灯し、音声警報 EV 放送状態表示灯が赤色に点灯します。

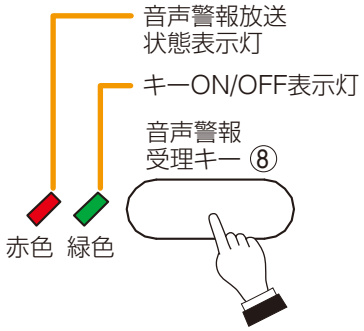


[操作例 3（音声警報受理の操作例）]

音声警報放送パターンが起動すると、リモートマイクの内蔵ブザーが鳴動し、音声警報受理キーの音声警報放送状態表示灯が赤色に点滅します。

手順：音声警報受理キーを押す。

ブザーの鳴動が停止します。
音声警報受理キーのキー ON/OFF 表示灯が緑色に点灯し、音声警報放送状態表示灯が赤色に点灯します。



（キーON/OFF表示灯はキーを押している間だけ点灯します。）

[操作例 4（制御入力からの音声警報起動無効：基本操作)]

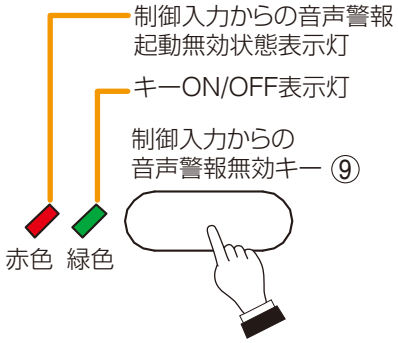
システムが業務モードのときに、制御入力からの音声警報起動を停止させることができます。
メンテナンス時に制御入力信号で音声警報放送を起動できないようにするための機能です。

ご注意

この機能はシステムが業務モードのときのみ有効です。音声警報モードのときにこの機能を割り当てられたキーを押しても、プププという音がして、操作は無効になります。

1 システムが業務モードのときに、制御入力からの音声警報起動無効キーを押す。

キー ON/OFF 表示灯が緑色に点灯、制御入力からの音声警報起動無効状態表示灯が赤色に点灯します。
この状態では、制御入力から音声警報放送パターンが起動されても、無効になります。
切り忘れ警告ブザーが設定されているときは、操作をしたリモートマイクから 10 秒に一度、プッという警告音が鳴ります。



2 もう一度、制御入力からの音声警報起動無効キーを押す。

キー ON/OFF 表示灯および制御入力からの音声警報起動無効状態表示灯が消灯します。
制御入力からの音声警報起動無効が解除されます。
警告音が鳴っていたときは、操作をしたリモートマイクの警告音が止まります。

[操作例 5（制御入力からの音声警報起動無効：他のリモートマイクから機能がオンにされたときの操作)]

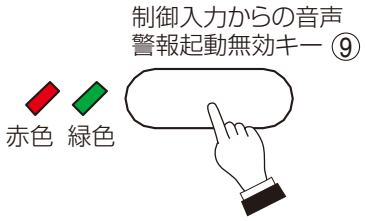
制御入力からの音声警報起動無効キーが複数のリモートマイクの機能キーに割り当てられているとき、他のリモートマイクからこの機能がオンにされると、ブザーが鳴り、制御入力からの音声警報起動無効状態表示灯が赤色に点滅します。

1 ブザーが鳴ったら、制御入力からの音声警報起動無効キーを押す。

制御入力からの音声警報起動無効状態表示灯が赤色に点灯します。
切り忘れ警告ブザーが設定されているときは、操作をしたリモートマイクから 10 秒に一度、プッという警告音が鳴ります。

2 もう一度、制御入力からの音声警報起動無効キーを押す。

キー ON/OFF 表示灯が緑色に点灯します。
警告音が鳴っていたときは、操作をしたリモートマイクの警告音のみ止まります。
他のリモートマイクから機能がオンにされている状態が続いている間、制御入力からの音声警報起動無効状態表示灯は赤色に点灯します。
この機能が割り当てられているすべてのリモートマイクから機能がオフにされると、制御入力からの音声警報起動無効状態表示灯は消灯します。



ご注意

この機能が割り当てられているすべてのリモートマイクからオフにしないと、制御入力からの音声警報起動が無効の状態は続きます。

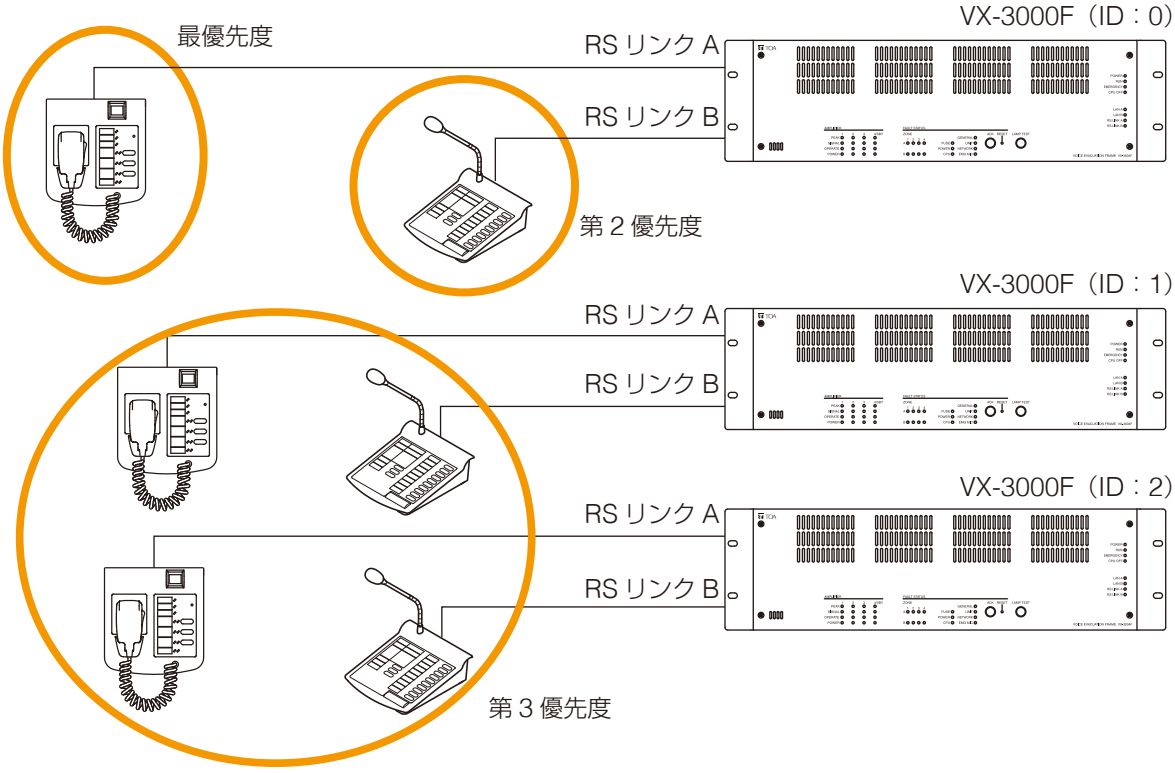
緊急一斉放送のしかた

システムの故障などで通常の放送ができないときに、次の操作により一斉放送のみ行うことができます。
これは、VX-3000 システムが通常放送時に使用している CPU をバイパスさせて行う放送です。（詳しくは、別冊の設置説明書「機器の設置と設定のしかた」をお読みください。）
この放送を緊急一斉放送と呼びます。
緊急一斉放送は、VX-3000 設定ソフトウェアでの設定に関係なく、RM-300X または RM-200SF の DIP スイッチの操作により行えます。（RM-300X の操作については P. 3-24、RM-200SF の操作については P. 3-25 をお読みください。）

■ 緊急一斉放送の優先順位

緊急一斉放送では、優先制御の動作は VX-3000 設定ソフトウェアによる優先設定には関係なく、RM-300X または RM-200SF の接続先により決まります。

接続先による優先順位は次のとおりです。
同じ優先度の放送が重なったときは、ミキシングされます。
　最優先度の接続先　：ID が「0」に設定された VX-3000F の RS リンク A 端子
　第 2 優先度の接続先：ID が「0」に設定された VX-3000F の RS リンク B 端子
　第 3 優先度の接続先：ID が「0」以外に設定された VX-3000F の RS リンク A と B 端子



リモートマイクから放送したときの動作は、次のようになります。

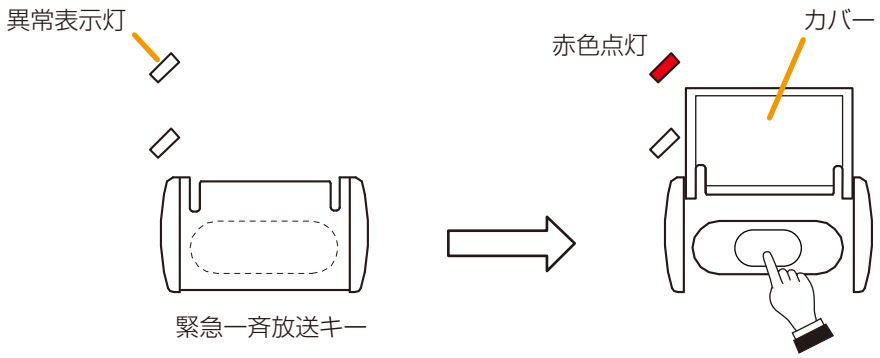
- 優先順位が高いリモートマイクからの放送が行われているときは、放送できません。
- 優先順位が同じリモートマイクからの放送が行われているときは、現在放送中の音声とミキシングして放送します。
- 優先順位が低いリモートマイクからの放送が行われているときは、その放送を中断して、放送します。放送終了後、中断された放送が続いていれば、その音声が放送されます。

ご注意

同じ RS リンク端子に接続された複数のリモートマイクで、同時に緊急一斉放送を行わないでください。放送音量が減少し、正常に放送できなくなることがあります。

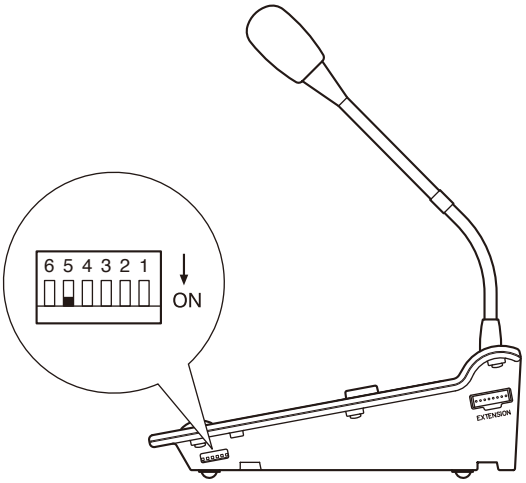
■ RM-300X から緊急一斉放送をする

緊急一斉放送キーのカバーを開けてキーを押し続け、そのまま約 4 秒待って異常表示灯が赤色に点灯したら、マイク放送を開始します。



ご注意

- CPU オフ機能（緊急一斉放送）を使用するためには、RM-300X の DIP スイッチのスイッチ 5 をあらかじめ ON に設定しておいてください。（工場出荷時：ON）
- システムが CPU オフ状態になると、リモートマイクから起動されたイベントは停止され、CPU オフ状態が解除されても復帰しません。



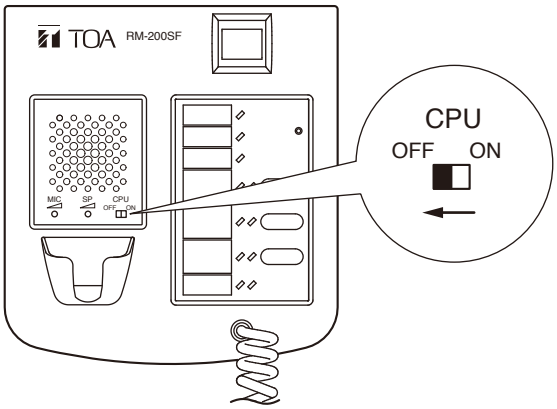
■ RM-200SF から緊急一斉放送をする

1 **前面の CPU スイッチを OFF にする。**

メ　モ

CPU スイッチは工場出荷時は ON に設定されています。

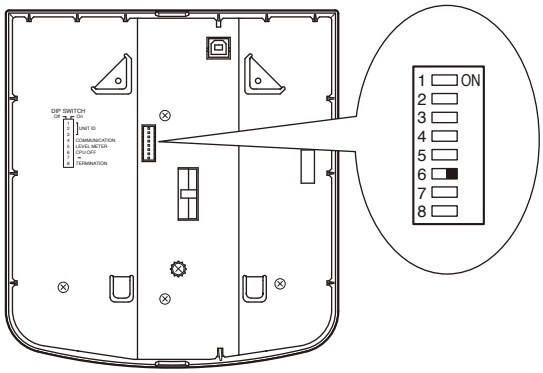
RM-200SF 前面



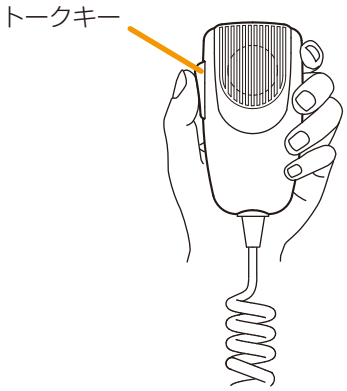
ご注意

- CPU オフ機能（緊急一斉放送）を使用するためには、RM-200SF の DIP スイッチのスイッチ 6 をあらかじめ ON に設定しておいてください。
（工場出荷時：ON）
- システムが CPU オフ状態になると、リモートマイクから起動されたイベントは停止され、CPU オフ状態が解除されても復帰しません。

RM-200SF 後面



2 **トークキーを押しながら、マイク放送をする。**



3 **マイク放送が終わったら、CPU スイッチを ON にする。**

故障検知機能の使いかた

VX-3000 システム内で故障が発生すると、以下のキーや制御端子を使って、故障状態を表示したり、受理したり、解除したりできます。

- VX-3004F、VX-3008F、および VX-3016F の故障受理キー、故障リセットキー
- VX-3004F、VX-3008F、および VX-3016F の制御入力端子
- RM-300X または RM-200SF の機能キー

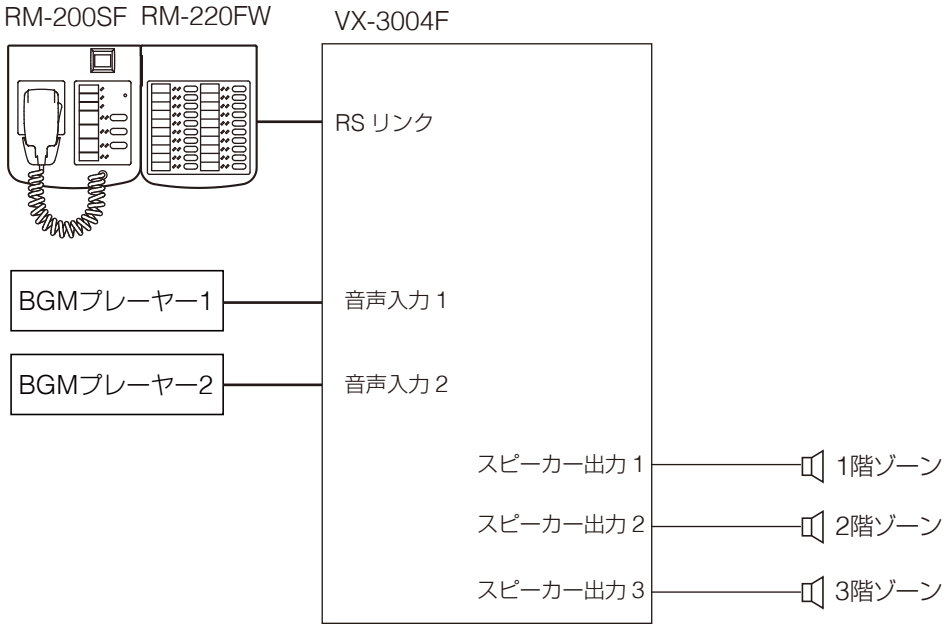
ご注意

VX-3000 システムの故障検知のしかたについては、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」をお読みください。

■ 故障検知設定例

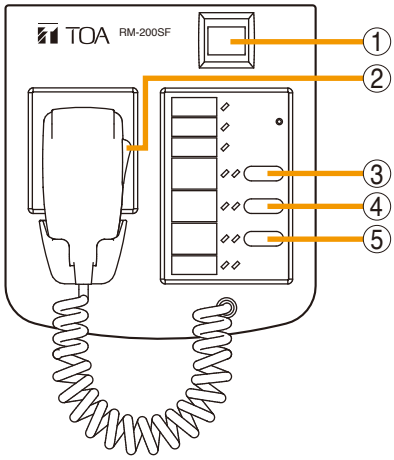
VX-3004F、RM-200SF、RM-220FW を使って、システム内の故障を検知する方法は以下のとおりです。

[システム構成]



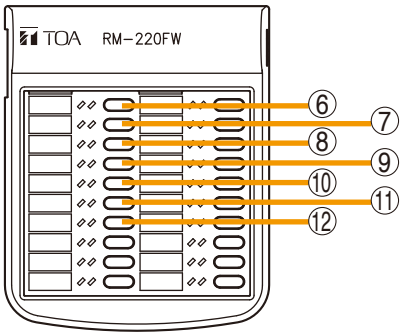
[リモートマイクの機能キーの設定]

RM-200SF



キー	設定された機能
(1)	(設定なし)
(2)	トークキー (固定)
(3)	ゾーン選択クリア
(4)	故障リセット
(5)	ランプテスト

RM-220FW

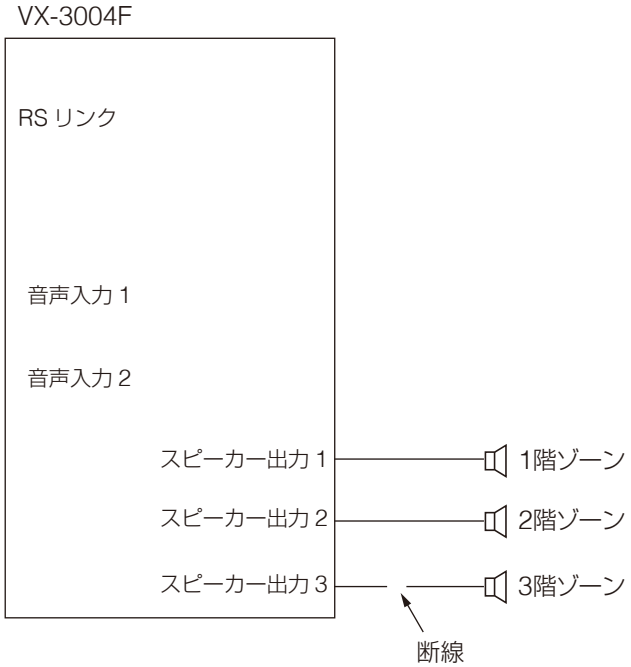


キー	設定された機能	内容(故障検知パターン)
(6)	故障受理	VX-3004F
(7)	故障受理	アンプゾーン 1 階
(8)	故障受理	アンプゾーン 2 階
(9)	故障受理	アンプゾーン 3 階
(10)	故障受理	スピーカーゾーン 1 階
(11)	故障受理	スピーカーゾーン 2 階
(12)	故障受理	スピーカーゾーン 3 階

※ 機能キーへの機能の割り当てについては、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。
※ 故障検知パターンの設定については、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「パターン設定」をお読みください。

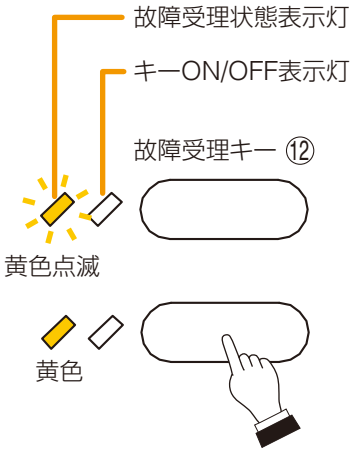
■ 故障の例

ここの例では、3 階ゾーンのスピーカー出力端子が断線したと仮定しています。



■ リモートマイクの操作例

故障を検知すると、リモートマイクの内蔵ブザーが鳴り、3 階ゾーンの故障受理状態表示灯が黄色に点滅します。



1 故障受理キーを押す。

ブザー音が停止し、故障受理状態表示灯が点滅から点灯に変わります。

2 原因を特定し、取り除く。

パソコンを VX-3004F に接続し、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、履歴データを読み込みます。詳しくは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「メンテナンス」をお読みください。

故障や異常の原因を履歴データ（この例では、3 階ゾーンのスピーカー出力端子がオープンであるとの履歴データが表示されている）で確認し、故障箇所を直します。

ご注意

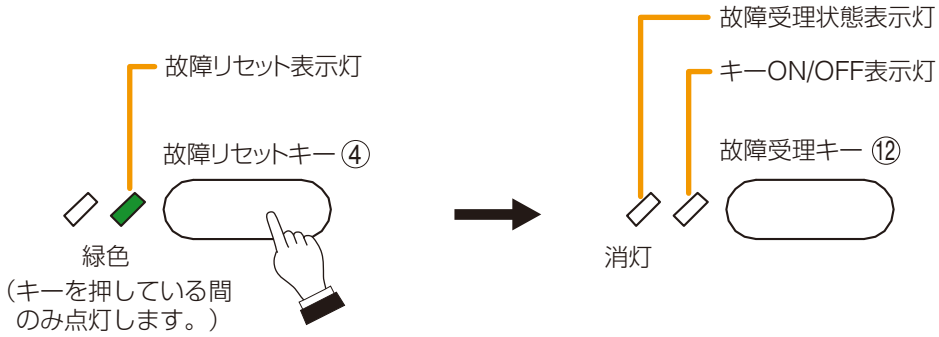
故障表示の操作は、VX-3000 設定ソフトウェアで故障表示設定を「自動復旧」または「手動復旧」に設定するかで異なります。

[「自動復旧」に設定しているとき]
　ほとんどの故障表示については、故障原因を取り除くと、故障受理状態表示灯が自動的に消灯します。パワーアンプ故障またはスピーカー短絡などの特定の故障表示に関しては、表示灯は自動的に消灯しません。そのような場合、故障リセットキーを押してください。

[「手動復旧」に設定しているとき]
　故障が復旧しても、故障リセットキーを押すまで、故障表示は保持されます。

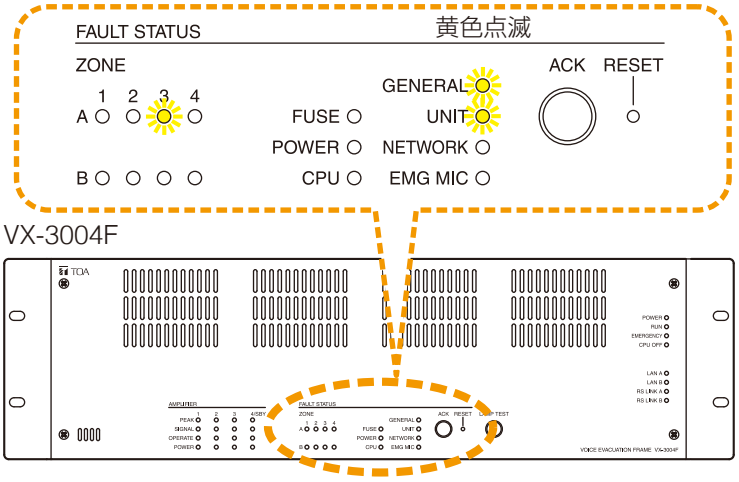
3 故障リセットキーを押す。

故障受理状態表示灯が消灯します。



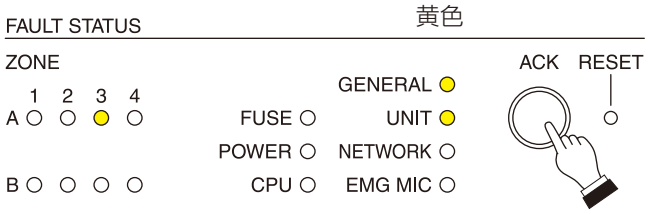
■ VX-3004F の操作例

故障を検知すると、VX-3004F のブザー音が鳴り、前面のシステム異常表示灯が点滅します。
P. 3-27 の故障例のときには、故障箇所に該当するゾーン異常表示灯 3 とユニット異常表示灯も黄色に点滅します。



1 故障受理キーを押す。

ブザー音が停止し、システム異常表示灯が点滅から点灯に変わります。



※ VX-3004F、VX-3008F、または VX-3016F 後面の制御入力端子に故障受理の機能を割り当てると、制御入力によっても、システムの故障検知情報を受理することができます。詳しくは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

2 原因を特定し、取り除く。

パソコンを VX-3004F に接続し、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、履歴データを読み込みます。詳しくは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「メンテナンス」をお読みください。

故障や異常の原因を履歴データ（この例では、3 階ゾーンのスピーカー出力端子がオープンであるとの履歴データが表示されている）で確認し、故障箇所を直します。

ご注意

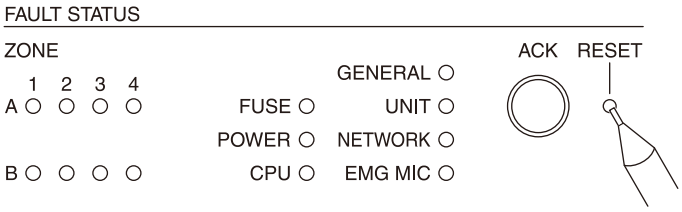
故障表示の操作は、VX-3000 設定ソフトウェアで故障表示設定を「自動復旧」または「手動復旧」に設定するかで異なります。

[「自動復旧」に設定しているとき]
　ほとんどの故障表示については、故障原因を取り除くと、システム異常表示灯が自動的に消灯します。パワーアンプ故障またはスピーカー短絡などの特定の故障表示に関しては、表示灯は自動的に消灯しません。そのような場合、故障リセットキーを押してください。

[「手動復旧」に設定しているとき]
　故障が復旧しても、故障リセットキーを押すまで、故障表示は保持されます。

3 **故障リセットキーを押す。**

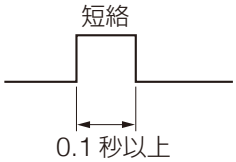
システム異常表示灯が消え、通常の状態に戻ります。



※ 先の細いものを使って故障リセットキーを押してください。

■ 制御入力端子を使って故障受理と故障リセットをする例

VX-3004F、VX-3008F、または VX-3016F 後面の制御入力端子に故障受理の機能、故障リセットの機能を割り当てると、制御入力によっても、故障検知情報を受理またはリセットすることができます。
（詳しくは、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。）
各機能を割り当てた端子をワンショットパルスで短絡してください。

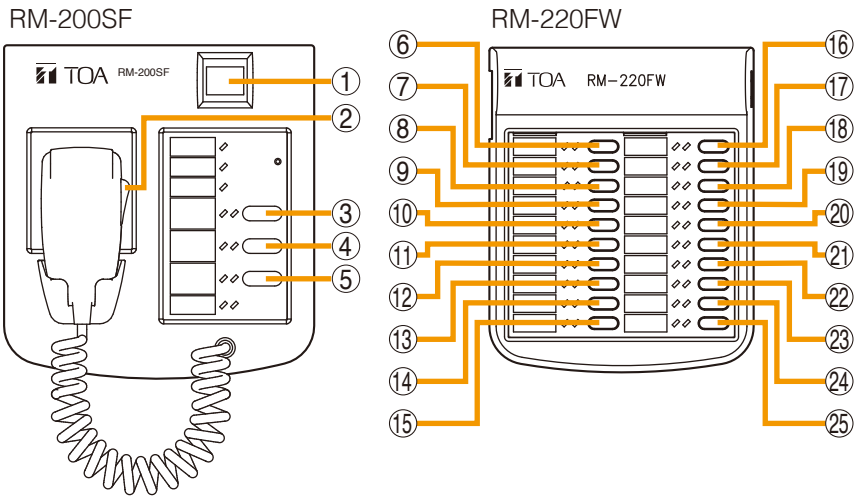


ランプテストをする

VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、RM-200SF、RM-300X、RM-220FW、および RM-210F の各機器でランプテストを実行すると、その機器の表示灯をすべて点灯させ、内蔵のブザーを鳴らして表示灯とスピーカーの動作確認をすることができます。

■ リモートマイクの操作例

[リモートマイクのキーの設定例]



キー	設定された機能
(1)	(設定なし)
(2)	トークキー（固定）
(3)	ゾーン選択一括クリア
(4)	故障リセット
(5)	ランプテスト
⋮	⋮
(25)	故障受理

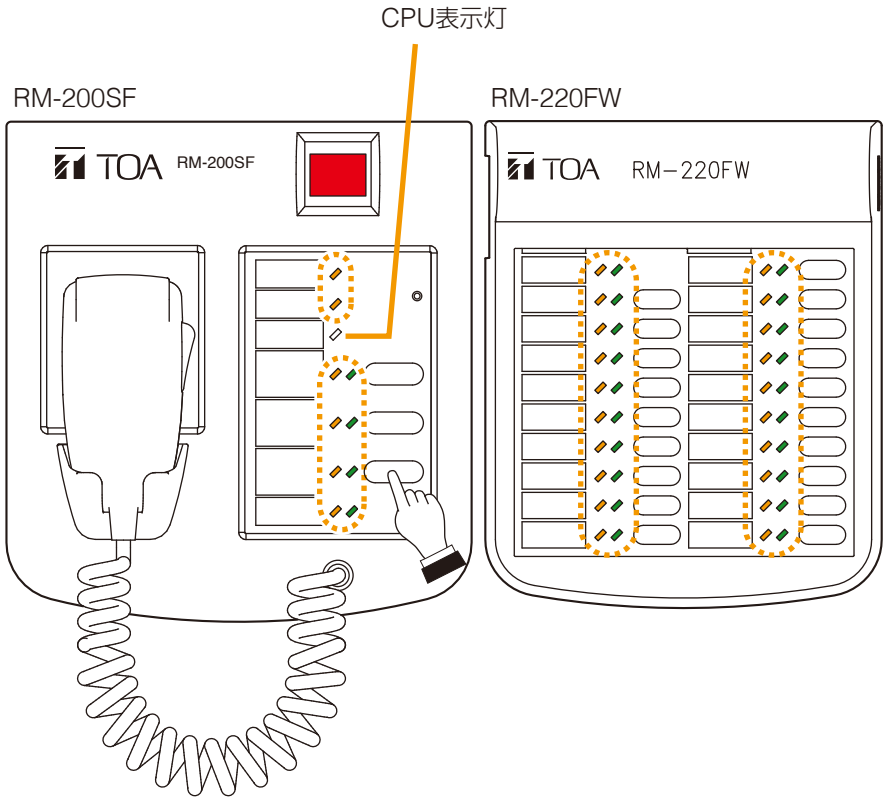
※ 機能キーへの機能の割り当てについては、別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」をお読みください。

1 ランプテストキーを押し続ける。

CPU 表示灯以外のすべての表示灯が点灯し、RM-200SF の内蔵ブザーが鳴ります。

2 表示灯とスピーカーの動作確認をする。

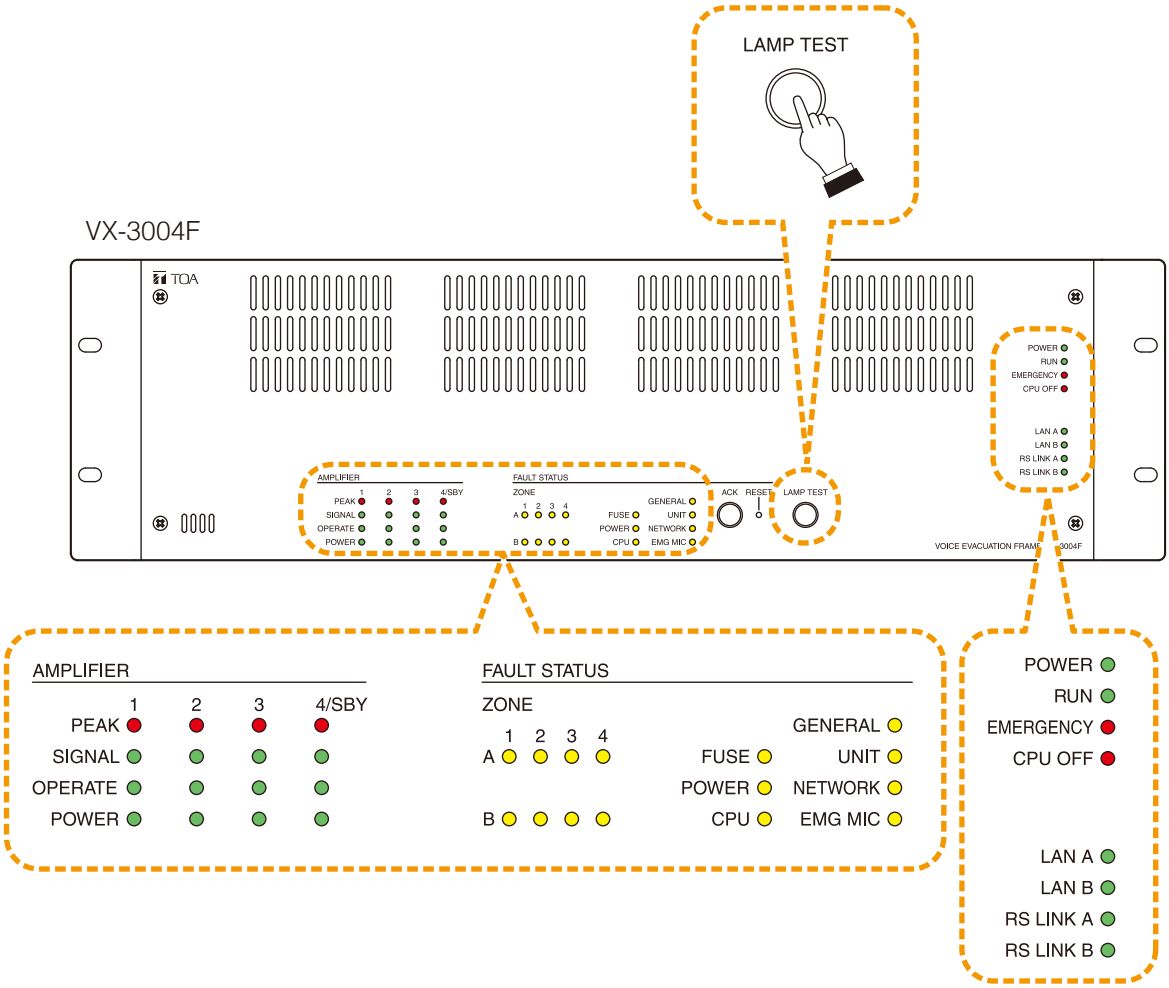
3 ランプテストキーから指を離し、ランプテストを終了する。



■ VX-3004F の操作例

1 ランプテストキーを押し続ける。

すべての表示灯が点灯し、VX-3004F の内蔵ブザーが鳴ります。



2 表示灯とスピーカーの動作確認をする。

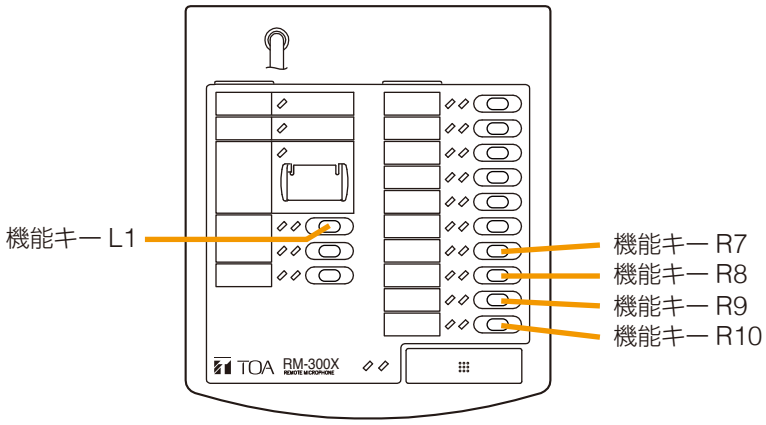
3 ランプテストキーから指を離し、ランプテストを終了する。

その他の機能

リモートマイクの機能キーを使って、音声モニター、制御入出力の操作などができます。
下表の音声モニター以外の機能はコントロールパネルの機能キーを使って操作することもできます。

[リモートマイクの機能キーの設定例]

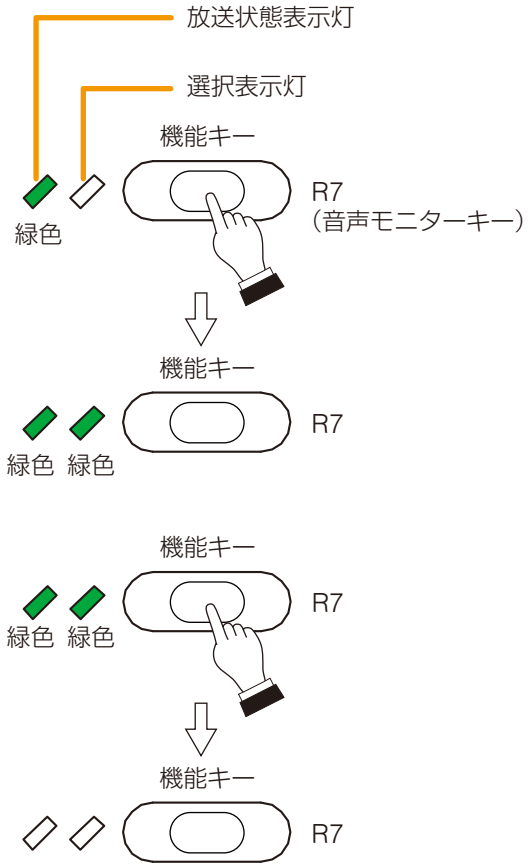
キー	設定項目	機能
機能キー R7	音声モニター	任意のゾーンに放送されている音声をモニターします。
機能キー R8	任意制御入力操作	任意の制御入力端子をメイクして起動します。
機能キー R9	任意制御出力操作(PULSE)	任意の制御出力パターンを起動します。
機能キー R10	任意制御出力操作（LEVEL）	このキーを押している間、任意の制御出力パターンを起動します。
機能キー L1	電源 ON	VX-3000F のスリープ状態（放送中のみアンプ電源がオンになる状態）と「電源 ON」の機能の有効を切り換えます。



ここでは RM-300X を例に説明しますが、基本的な操作や表示は RM-210F、RM-200SF、RM-220FW も同様です。VX-3000CT の場合も、音声モニターはできませんが、それ以外の機能については同様に行えます。
RM-500 については、基本的な操作は P. 3-10、表示は P. 2-61 をお読みください。ただし、音声モニターはできません。

■ 放送音声のモニターをする

放送されている音声をリモートマイク（RM-500 を除く）でモニターすることができます。



1 音声モニターキーを押す。

このキーに割り当てられているゾーンに音声が出力されているときは、放送状態表示灯が緑色に点灯します。
音声モニターキーに割り当てられたゾーンに放送されている音声がリモートマイクから出力されます。

ご注意

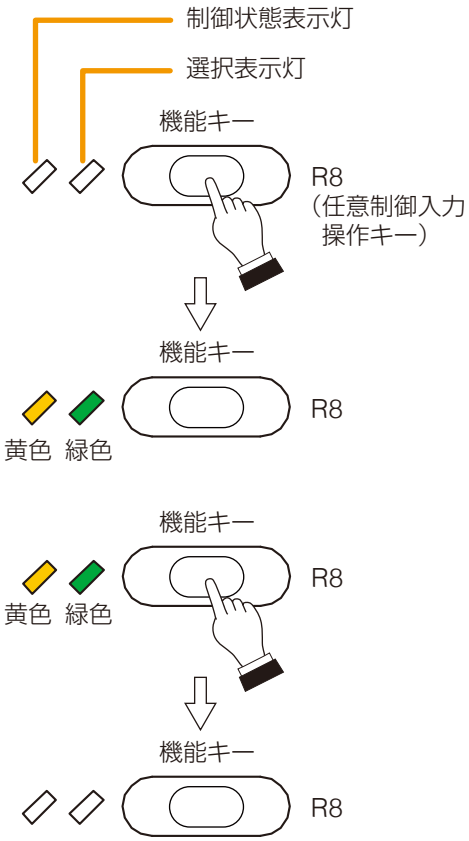
- 放送状態表示灯が消灯しているときは、音声モニターキーに割り当てられたゾーンに放送がされていません。
- 1 台の VX-3000F に複数のリモートマイクが接続されている場合でも、音声モニターできるリモートマイクは 1 台のみです。
  後から音声モニターキーを押したリモートマイクのみ有効になり、他のリモートマイクの音声モニターを中断します。

2 もう一度音声モニターキーを押して、モニターを終了する。

放送状態表示灯が消灯します。

■ 任意の制御入力を操作する

リモートマイクの機能キーを使って、VX-3000F および VX-3000PM の任意の制御入力を操作することができます。
コントロールパネルの機能キーでも同様に操作できます。



1 **制御状態表示灯が消灯しているときに、任意制御入力操作キーを押す。**

任意制御入力操作キーに割り当てられた制御入力が有効になり、制御状態表示灯が黄色に点灯します。

ご注意

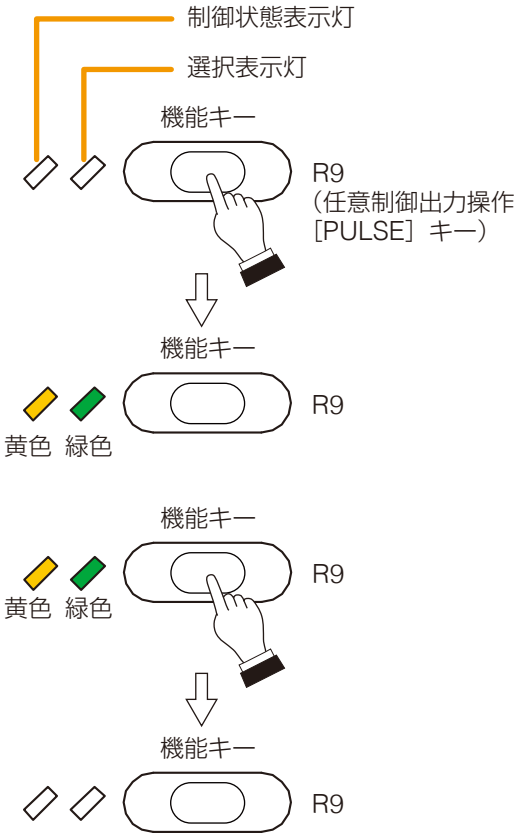
キーを押していないのに制御状態表示灯が黄色に点灯しているときは、任意制御入力操作キーを押しても、操作が無効になります。
制御入力が他のスイッチ操作で有効な状態になっているときなどの場合です。

2 **もう一度任意制御入力操作キーを押して、制御入力を無効にする。**

制御状態表示灯が消灯します。

■ 任意の制御出力（PULSE）を操作する

リモートマイクの機能キーを使って、VX-3000F および VX-3000PM の任意の制御出力を操作することができます。
コントロールパネルの機能キーでも同様に操作できます。



1 **制御状態表示灯が消灯しているときに、任意制御出力操作（PULSE）キーを押す。**

任意制御出力操作（PULSE）キーに割り当てられた制御出力が有効になり、制御状態表示灯が黄色に点灯します。

ご注意

キーを押していないのに制御状態表示灯が黄色に点灯しているときは、任意制御出力操作（PULSE）キーを押しても、操作が無効になります。
制御出力が他のスイッチ操作で有効な状態になっているときなどの場合です。

2 **もう一度任意制御出力操作（PULSE）キーを押して、制御出力を無効にする。**

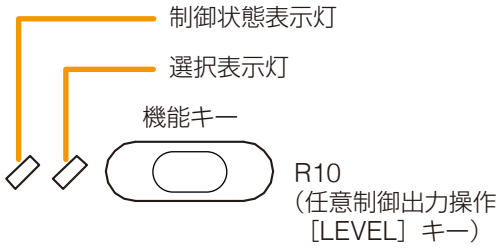
制御状態表示灯が消灯します。

■ 任意の制御出力（LEVEL）を操作する

リモートマイクの機能キーを使って、VX-3000F および VX-3000PM の任意の制御出力を操作することができます。
コントロールパネルの機能キーでも同様に操作できます。

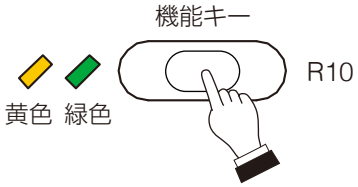
1 **制御状態表示灯が消灯しているときに、制御出力パターンを起動したい時間だけ、任意制御出力操作（LEVEL）キーを押し続ける。**

任意制御出力操作（LEVEL）キーに割り当てられた制御出力が有効になり、制御状態表示灯が黄色に点灯します。



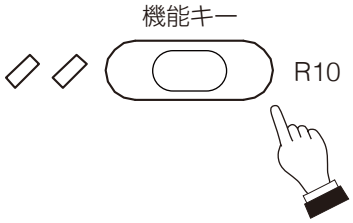
ご注意

キーを押していないのに制御状態表示灯が黄色に点灯しているときは、任意制御出力操作（LEVEL）キーを押しても、操作が無効になります。
制御出力が他のスイッチ操作で有効な状態になっているときなどの場合です。



2 **任意制御出力操作（LEVEL）キーから指を離し、制御出力パターン起動を停止する。**

制御状態表示灯が消灯します。

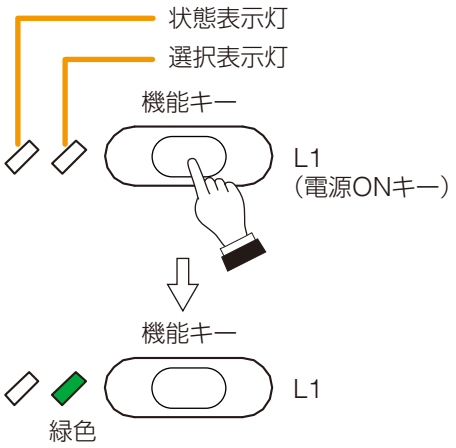


■ アンプのスリープ状態と「電源 ON」の機能の有効を切り換える

リモートマイクの機能キーを使って、VX-3000F のスリープ状態*と「電源 ON」の機能の有効を切り換えることができます。コントロールパネルの機能キーでも同様に操作できます。
状態表示灯と選択表示灯が両方とも消灯しているときは、スリープ状態*です。
状態表示灯または選択表示灯が点灯しているときは、「電源 ON」の機能が有効になっているときです。

●「電源 ON」の機能を有効にする

手順：状態表示灯と選択表示灯が消灯しているときに、電源 ON キーを押す。



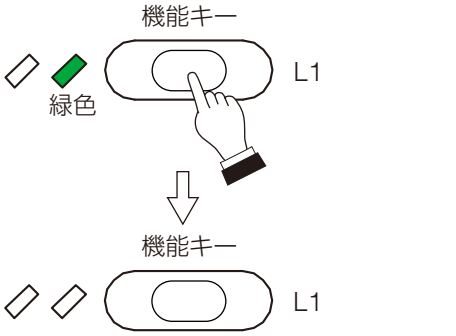
選択表示灯が点灯し、アンプ電源がオンになります。

メ　モ

スリープ移行時間が設定されているときは、設定された時間が過ぎると、自動的にスリープ状態*に戻ります。

● アンプをスリープ状態に戻す

手順：状態表示灯または選択表示灯が点灯しているときに、電源 ON キーを押す。



点灯していた状態表示灯または選択表示灯が消灯し、アンプがスリープ状態*になります。

メ　モ

スリープ移行時間が設定されていても、設定された時間の途中でスリープ状態*に戻すことができます。

* 放送中のみアンプ電源がオンになる状態

TOA お客様相談センター	フリーダイヤル（固定電話専用） **0120-108-117** ナビダイヤル　0570-064-475（有料） FAX　0570-017-108（有料） ※ PHS、IP 電話からはつながりません。
商品の内容や組み合わせ、操作方法についてのお問い合わせにお応えします。 受付時間 9：00 ～ 17：00（土日、祝日除く）	

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ　https://www.toa.co.jp/

TOA 株式会社

202305